

令和4年度
(第49期)
事業報告

作成日：令和5年5月18日

自 令和 4年 04月 01日

至 令和 5年 03月 31日

1 全体総括

(1) はじめに

第6期中期経営3か年計画（2022～2024）の初年度の年である令和4年度の当法人事業活動は、長引くコロナ禍にあつて、新型コロナウイルス感染症予防と集団感染発生時の適切な初動対応を最重点課題として取り組み、中期経営計画に掲げた4つの重点目標、

1) 多様な人材採用・次世代経営幹部候補育成・中核人材育成と安心・希望を持ち長く働ける職場環境の整備、2) 業務の可視化による効率化と介護ロボット・ICT等の活用による業務の省力化、3) 利用者・家族・地域住民の健康・生きがいづくりと良質高度なチームケア（サービス）の提供、4) 適性利益の確保と内部統制の強化を柱に、年度事業計画にそつて各事業所・委員会等の活動を中心に積極的に実施され、概ね順調に遂行された。以下にその概要を報告する。

(2) 法人経営

社会福祉法人さつき会は、法人設立後、これまで49年間にわたり、「地域の福祉ニーズに柔軟に答える」ことを使命として、「利用者本位」の原則の下、社会福祉事業を経営してきた。

本年度は、感染症対策、外国人介護人材の受入と定着支援、キャリアパスの改良、住民参加型総合事業の推進、介護職員等ベースアップ等加算を活用した賃金改善、職員の長期休暇取得推進（7～8連休）を重点的に取り組んだ。結果は、職員の定着率の安定、グループホーム・サ高住・居宅介護支援事業所の運営安定・利用者増加、北海道働きやすい介護の職場の認証取得が図られた。また、常勤介護職員の離職率は6.8%（前期4.3%）となり、北海道平均（20.0%）を大きく下回り、これまでの「人材の確保と育成」の取り組みの成果が持続できている。

一方、感染警戒による利用控えなどにより、7か所の事業所が目標収益未達・前年割れを起こすとともに、エネルギー・食材料費等の高騰の影響を受け、収支差額は法人全体で前年比23,656千円減少となった。また、積み残した課題も多く、介護職員・調理員の慢性的な欠員（法的基準は遵守）、次世代経営幹部候補育成、人材確保のためのインターンシップ実施は、いずれも未着手・不十分な結果にとどまった為、次年度の重点課題として取り組む所存である。

(3) 施設運営

本年度は特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑において3度の新型コロナウイルス集団感染が発生。昨年度同様、新型コロナの感染予防対策と生活の質（QOL）の維持の両方を求められ、面会の制限、アクティビティ・レクリエーションの制約、職員の厳しい行動制限が強いられた一年であった。

具体的には、介護記録ICT化・介護ロボット導入の推進、全国老協協デイサービス経営改善支援事業参加、多職種協同による重度化対応・重症化予防、外出自粛下における新たなアクティビティ活動、各種社内研修の実施などに取り組んだ。

一方、職員の基本的な業務姿勢・対応への苦情、職員の不注意による認知症高齢者の単独外出、転倒・転落事故等、災害時の業務継続計画の未作成など、安全対策と業務の標準化への組織的対応が不十分であるが故の出来事と反省し、次年度の最重点課題となった。

来年度は第6期中期経営3か年計画の2年目の年。中期経営計画に基づき、「高齢者の自立した尊厳ある人間らしい生活を守る」ための福祉サービスの安定的・継続的に提供と、利用者・職員・組織がともに満足できる施設運営に努める。

2 部門別事業実績（概要）

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
法人本部	理事会・評議員会の運営 内部監査の実施 法人全体の企画・調整 各施設・事業所の経営及び統括 経営企画に関する諸会議の運営 許認可・申請事務 特命事項 職員の教育・研修 実習、研修等の受入・調整 デイ・なごみ・えんの給食管理・実務 ボランティア・家族会の運営 地域包括支援センターへの人材派遣	—	1 (6)	理事会 5回(6) 評議員会 1回(1) 監事監査 4回(4) 経営改善会議 39回(39) 全体会議・研修 2回(2) 感染症研修 各事業所 実習受入(実件数) 8件(7) (延べ人数) 22名(213) 健康料理教室 中止(中止) 地域食堂 中止(中止)	△2,621 (△20,287)
総務課	総務・人事・会計の管理・実務 施設運営の企画 施設設備の維持管理 施設内の衛生管理 他部署に属さない業務	—	11	施設整備 非常用照明器具取替等 8件(5) 総事業費 1,337(1,359) 器具備品費 車両・厨房エアコン等 13件(20) 総事業費 4,019(25,268)	—
介護老人福祉施設 事業さつき苑	要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	50名	38	新規入居者 男1名(2)、女10名(8) 計 11名(10) 退居者 男1名(5)、女11名(5) 計 12名(10) 総延べ入院日数 636日(214日) ベッド稼働率 95.7%(98.6%) 入居待機者 31名(34)	16,125 (26,773)
活介 短期入所生 介護事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしりを介護されている家族が、介護疲れ、病気、事故などにより、一時的に介護することができなくなった場合に、一定期間そのおとしりに特別養護老人ホームに入居していただき、家族の介護負担の軽減に努めた。	10名	10	実利用者数 36名(40) 実件数 142件(185) 延利用者数 2,691名(3,010) 一日平均 7.4名(8.2) ベッド稼働率 77.7%(82.5%)	1,930 (3,259) 生きがいショート委託費 707 (749)
通所介 ねす 護事業	在宅のねたきり、認知症及び虚弱等の要介護等認定者に対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消、4)家族の介護負担の軽減を図るために通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護、日常生活の相談・助言を行うことで要介護等状態の悪化予防に努めた。	30名	13	開催日数 309日(310) 実利用者数(月平均) 90.8名(92.8) 延利用者数 6,660名(6,963) 生きがいデイ 0(0) 新規利用者 36名(36) 週6日開館、1日平均 21.5名(22.5) 稼働率 71.8%(74.9%)	10,788 (12,011)
居宅介 護支 援事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしりが「住み慣れた自宅で最後まで暮らし続けることができるよう」、本人及び家族のニーズに即したケアプランを作成するとともに、ケアプランに基づく各種サービスや社会資源が確保・活用されるよう事業者・関係機関との連絡調整に努めた。	—	5	月平均利用者数 介護 124.4(115.8) 予防 64.5名(66.5) 計 188.9名(182.3) 新規利用 74名(87) 停止者 52名(68) 入院者延べ人数 189名(230)	1,881 (1,092)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)	
共同生活介護事業 認知症対応型	認知症により自宅での生活が困難な方に対して、グループホームにおいて「自立と尊厳を支え」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう「利用者中心」の生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	18名	19	新規入居者 男1名(2)、女2名(3) 計3名(5) 退居者 男0名(2)、女3名(4) 計3名(6) 総延べ入院日数 48日(127日) ベッド稼働率 99.0%(97.0%) 入居待機者 11名(17)	7,543 (7,290)	
小規模多機能型居宅介護事業 なごみの家	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や「一時的な泊まり」を組み合わせ、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15名	12	開催日数 365日(365) 平均登録者数 22.4名(24.3) 実利用者数 32名(28) 延利用者数 3,575名(3,803) 新規利用者 10名(11) 停止者 14名(5) 1日平均 9.8名(10.4) 稼働率 65.3%(69.6%)	834 (1,864)	
				(泊まり) 6名		実利用者数 18名(14) 延利用者数 1,145名(1,238) 1日平均 3.2名(3.4) 稼働率 52.3%(56.5%)
				(訪問) 一名		実利用者数 19名(19) 延利用者数 3,558名(4,591) 1日平均 9.7名(12.6)
ユニット型地域密着型 介護老人福祉施設事業	鷹栖町在住の要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	20名	22	新規入居者 男2名(3)、女6名(2) 計8名(5) 退居者 男2名(3)、女7名(2) 計9名(5) 総延べ入院日数 299日(106日) ベッド稼働率 92.9%(97.7%) 入居待機者 7名(22)	△3,647 (6,358)	
小規模多機能型居宅介護事業 ぬくもりの家えん	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や「一時的な泊まり」を組み合わせ、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15名	9	開催日数 365日(365) 平均登録者数 22.3名(24.8) 実利用者数 31名(29) 延利用者数 3,665名(4,348) 新規利用者 7名(6) 停止者 11名(5) 1日平均 10.2名(11.9) 稼働率 65.9%(77.9%)	12,658 (13,655)	
				(泊まり) 6名		実利用者数 17名(16) 延利用者数 1,146名(1,413) 1日平均 3.1名(3.9) 稼働率 51.6%(62.9%)
				(訪問) 一名		実利用者数 18名(15) 延利用者数 4,083名(4,523) 1日平均 11.2名(12.4)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
住宅事業 サービス付き高齢者向け 住宅 めくもりの家 たかほ	主に虚弱・要支援等の高齢者の早めの住み替えニーズに応じた安心・安全な住宅サービス・相談援助サービス等を提供し、出来る限り長く住み慣れた地域社会で生活を続けていくことの支援に努めた。	18名	10	新規入居者 男1名(3)、女1名(6) 計2名 退居者 男0名(2)、女2名(5) 計2名 月平均入居者数 17.8名 稼働率 99.1%(97.7) 総延べ入院日数 176日(172) 入居待機者(令和4年度3月末) 4名(4)	△133 (△1,594)
訪問介護事業	在宅で虚弱、ねたきり、認知症のおとしより等の要介護等認定者および難病患者の家庭等に対して、自立とより質の高い在宅生活の継続が図られるよう、生活援助、身体介護、相談・助言を主とする生活支援サービスの提供に努めた。	—	12	派遣世帯数 124(162) 訪問延回数 9,980回(10,599) 活動延時間 8,024時間(8,938) 内、生きがいヘルプ 0(0) 内、難病疾患ヘルプ 0(0) 新規利用者 24名(55)	4,204 (10,749) 生きがいヘルプ委託費 0 (0) 難病患者ヘルプ委託費 0 (0)
フィットネス倶楽部 コレカラ 総合事業	在宅の主一般高齢者を対象に、虚弱化・要介護の予防を目的に、フィットネス倶楽部コレカラの運営、介護予防体操(あったかすりハビリ体操)の普及、介護予防体操指導士(あったかすりハビリ体操指導士)の養成、介護予防サポーター(コレカラサポーター)の養成、住民主体の通いの場の立ち上げ、介護予防運動教室の運営に努めた。	—	2	開催日数 296日(231) 登録者数 414名(399) 総延べ利用人数 6,600名 (4,680) 各教室の内訳 サーキット 3,808名 レッドコード教室 2,792名 月平均利用者数 550名(402) 1日平均利用者数 22.6名(21.6) 新規利用者 15名(13) 停止者(利用0回) 257名(263)	
移送サービス事業	心身の障がい・病気により、ねたきりや車いす上で生活されている方が、通院等の理由により外出しなければならず、一般の車両への乗降が難しい時に、さつき苑に配置されている寝台、若しくは車いすのまま乗り込むことができる専用車両で、自宅から目的地までの送迎を行い、利用者の外出支援に努めた。	—	—	実利用者数 3件(6) 延利用件数 18件(19) (内訳…町内 2件、町外 16件)	106 (130) 委託費収入のみ

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績		サービス活動 増減差額 (千円)
(生きがい デイサービス) 介護予防事業	在宅の介護認定非該当の虚弱なおとしよりに対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消を図るため、デイセンター(はびねす)に通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護等のサービスを提供し、要介護状態にならないように努めた。	—	—	実利用者数	0名(0)	0
				延利用者数	0名(0)	(0)
				新規利用者	0名(0)	委託費収入のみ

※1 職員数に施設長は含めず

※2 実績及びサービス活動増減差額欄の()内は前年度実績

令和4年度 法人本部事業報告

1. 総括

令和4年度は、「職員の成長を実感できる研修の運営」「外国人スタッフが安心して地域に住み働くことができる環境をつくる」「働きやすく、魅力ある職場づくりと多様なリクルート活動の展開」「介護ロボット・ICTの活用により生産性と介護の質の向上」「非常災害時で事業を継続的に運営できる計画と体制づくり」を重点目標として取り組む。

研修運営については、昨年同様にZOOMを活用した形式を継続し、概ね計画通りに実施することができた。その中で、トランスファー研修については、実技の確認と技術向上を図るため集合研修を実施した。2月以降は、オンラインと対面のハイブリット形式で研修を実施した。

「外国人スタッフが安心して地域に住み働くことができる環境づくり」では、本年度から新たに技能実習生を3名迎え入れた。受入に伴い、配属予定部署の担当者が資格取得のための研修に参加し、基本的な知識を学び資格を取得。B-proのメンバーや本部職員が中心となり物件の選定や住宅環境の整備をすすめた。生活用品は地域の方々から寄贈いただきそろえることができた。採用後も旭川市内への買物や病院受診のサポートなど継続的に実施できている。

「働きやすく、魅力ある職場づくりと多様なリクルート活動の展開」では、法人の強みをあらためて整理。職員の定着率やケアの指標となる入院者数や下剤や抗精神病薬の使用状況、福利厚生をリクルートパンフレットにまとめ、ハローワークや各学校を訪問しPRした。ブログは定期的に更新しリアルタイムに情報を発信した。ブログやホームページを見て応募してきた求職者も多数おり、情報発信の効果を感じることができた。また、ホームページの全面リニューアルにも着手した。令和4年度からスタートした『北海道働きやすい介護の職場認証制度』にもエントリーし、初年度に認証を受けることができた。働きやすく魅力ある職場づくりでは、全ての事業所で7～8日間のリフレッシュ休暇の取得。zoomを用いた会議や研修を実施。キャリアパスを改定し、一般職で介護福祉士資格を持つ職員と総合職の賞与の支給率をアップ。さらに給与を見直し賃金改定をおこなった。また、昨年に続き新型コロナウイルス感染対策支援金を全職員に支給することができた。求職者の見学は随時対応し35名の見学者を受入れ、年度中に25名を採用。新年度には学卒者4名を含む7名を採用することができた。

「介護ロボット・ICTの活用により生産性と介護の質の向上」では、介護記録システムの本格運用を開始。記録にかかる時間が大幅に短縮され、利用者への関わる時間も増やすことができた。一方で、さつき会が実践するケアの重要なツールの総合記録シートから転換したことで、記録漏れやケアチェックのしにくさなどの課題もでており、改善のための勉強会を実施。継続的な確認と対応方法の検討が必要である。

また、これまで度々トラブルが生じていた社内ストレージサーバーをクラウド化した。このことにより利便性・安全性・安定性の向上が図られたほか、情報管理のセキュリティを強化することができた。

「非常災害時でも継続的に事業運営できる計画づくり」では、令和6年度から義務化されるBCP策定にむけ情報収集し策定に着手した。今年度特養さつき苑では3回のコロナ感染クラスターが発生したが、事前に策定していた感染対策のアクションプランに基づき初動対応し、大きな混乱なく対応することができた。その経験から、事前の計画づくりの重要性を再認識し、今回のクラスター対応の経験も踏まえ、次年度のBCP策定及び計画に基づく訓練実施につなげていきたい。

最後に、令和4年度は、新型コロナウイルス感染予防のための利用控え等と物価・原油価格高騰の影響により大幅な収入減と支出増があった。当初掲げていた業績管理目標を達成したのは、介護センターさつき苑、グループホーム鷹栖なごみの家、サービス付き高

高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほのみであった。法人全体の事業活動収入は 767,397 千円（当初予算 746,022 千円）、事業活動収支差額は 75,651 千円（当初予算 60,726 千円）、サービス活動増減差額は 39,621 千円（前年度 58,853 千円）、となり、たいへん厳しい収益・収支差額となった。

2. 次年度に向けて

令和 5 年度は第 6 期中期経営 3 か年計画の 2 年目。特に「職員の成長を実感できる研修の運営」「多様なリクルート活動の展開」「非常災害時でも事業を継続的に運営できる計画と体制づくり」に注力したい。

「職員の成長を実感できる研修の運営」については、基礎介護力向上研修の内容を見直す。初級では、さつき会が取り組むトータルケアの基本となる介護の知識 50 を中心に再編し、基本的で実践的な知識・義実の習得を目指す。上級は、全国高齢者ケア研究会が毎年開催している先端ケア研究会をベースとした内容とする。また、ここ 3 年は感染対策としてオンライン形式を基本としていたが、効果的な研修とするため感染状況を見ながら対面形式を再開させていきたい。

「多様なリクルート活動の展開」では、情報交換・情報提供する専門学校、大学の訪問数を増やす。他にもオンライン就職説明会の開催、ホームページを全面リニューアルし、さつき会の魅力発信と求職者がホームページや LINE からエントリーできる仕組みを構築する。また、インターンシップ受入プログラムをつくり、資格取得のための実習以外の体験の機会をつくることで、介護・福祉に興味のある学生などのきっかけをつくりたい。

「非常災害時でも事業を継続的に運営できる計画と体制づくり」では、想定される災害（感染症集団感染、雪害）を想定した実効性のある計画をつくり訓練を実施する。

そのほか、令和 6 年度は介護報酬改定年となる。物価・原油価格の高騰についても先行きが不透明だが、政策動向や情勢を注視し対策を講じていきたい。

3. 運営状況・統計資料

(1) 理事会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	4.6.2 (土) 17:58 ~ 19:10	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 令和3年度経過報告並びに事業報告・業績報告について 議案第2号 令和3年度決算報告について 議案第3号 監事監査結果報告について その他 新型コロナウイルスクラスター発生状況報告	理事5名 監事2名
2	4.8.27 (土) 14:47 ~ 15:55	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 令和4年度第一四半期経過報告について 議案第2号 令和4年度第一四半期 業績・収支報告について 議案第3号 監事監査報告について 議案第4号 給与規程の一部改定について（管理職員特別勤務手当新設） その他 (1) 令和4年5月 特養さつき苑クラスター発生費用報告について (2) 令和4年8月 特養さつき苑クラスター発生状況報告について (3) 次年度理事会開催日程について	理事6名 監事2名
3	4.11.26(土) 15:00 ~ 16:30	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 令和4年度第二四半期経過報告について 議案第2号 令和4年度第二四半期業績・収支報告について 議案第3号 監事監査報告について 議案第4号 給与規程の一部改定について（最低賃金の変更に伴う基本給の見直し） 議案第5号 就業規則の改正について（退職手続き） 議案第6号 就業規則の改正について（パート賃金の支払日の変更） 議案第7号 給与規程の改正について（寒冷地手当） 議案第8号 旅費規程の改正について（日当） 議案第9号 評議員選任・解任委員会委員の選任について その他 (1) 令和4年8~9月特養さつき苑クラスター発生費用報告について (2) 令和4年11月 特養さつき苑クラスター発生報告について (3) 令和4年11月 特養ぬくもりの家えん単独外出行方不明事故発生報告について (4) 次年度理事会開催日程について	理事5名 監事2名

回	期 日	議決事項等	出席者
4	4.2.25 (土) 14:55 ~ 15:55	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和4年度第三四半期経過報告について 報告第3号 令和4年度第三四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査報告について 議案第1号 令和4年度第1次補正予算(案)について 議案第2号 就業規則の改正(案)について その他 (1) 退職手続の際に退職理由を記載することについて (2) 旅費規程による日当の支給基準について	理事5名 監事2名
5	5.3.25(土) 15:00 ~ 15:55	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 積立金の計上について 議案第2号 新型コロナ対策支援金の支給について 議案第3号 令和4年度第2次補正予算(案)について 議案第4号 令和5年度経営(事業)計画並びに当初予算(案)について 議案第5号 就職支援金規程の一部改正(案)について 議案第6号 外国人就職準備金支給規程の一部改正(案)について その他 (1) 次年度の理事会日程について	理事6名 監事2名

(2) 評議員会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	4.6.18(土) 14:55 ~ 16:10	議案第1号 令和3年度事業報告について 議案第2号 令和3年度事業報告について(監事監査報告含) 議案第3号 第5次中期計画3か年計画総括及び第6次経営計画3か年計画(案)について 議案第4号 令和4年度経営(事業)計画並びに当初予算(案)について	評議員5名

(3) 監査等の実施状況

① 監事監査

回	期 日	主な監査実施項目	監査実施者
1	4.5.26(木) 14:55~ 15:55	令和3年度経過報告並びに事業報告について 令和3年度業績報告並びに決算報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名

2	4.8.19(金) 15:00 ~ 15:45	令和4年度第1四半期業績報告について 令和4年度第1四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
3	4.11.17(木) 15:00 ~ 15:45	令和4年度第2四半期業績報告について 令和4年度第2四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
4	5.2.9(木) 15:30 ~ 16:15	令和4年度第3四半期業績報告について 令和4年度第3四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名

(4) 資格保有・取得状況

	介護 福祉士	介護支援 専門員	看護師	准看護師	保健師	管 理 栄養士	理 学 療法士	社会福祉士 (精神保健 福祉士)	2級 ヘルパー (介護職 員初任者 研修含 む)	社会 福祉 主事
正職員	58	29	5	1	2	2	2	13【3】	26	27
パート 職 員	16	3	4	1	0	栄養士 1	0	1	21	1
計	74	32	9	2	2	3	2	14【3】	47	28

注：令和5年3月31日現在の在籍者 精神保健福祉士は【 】で表示

(5) 諸会議

① 経営改善会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎週水曜日 10:10~11:00	安定的かつ効率的な施設・事業所経営を図るため、経営・運営上における課題や重要事項について協議・決議することを目的とする。	施設長 各部長 各課長	39回

② 財政健全化推進チーム・地域包括ケア推進チーム会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎月第4水曜日 13:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・収入と支出のバランスが取れた安定的な財政構造の実現を図るために必要な推進（計画策定・実行・評価）を行う。 ・新たな地域ケア（地域包括ケア）に取り組むために必要な事業所の運営改善を図る。 	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援 専門員等	7回

③ 職員全体研修・会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
1. 全体研修 新型コロナウイルス感染予防対策のため各事業所単位実施	<p>感染症予防を目的とした研修を開催した。</p> <p>【実施内容】 () 内は対象者・講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策研修会（対象：全職員～各事業所単位で実施） （講師：谷水さおり・藤川朋恵・名木優子） 		
2. 全体会議	<p>法人として職員全体に伝達すべき重要事項がある場合に適時開催する。</p> <p>開催日時 令和4年6月16日（木）20日（月）18:00～19:10</p> <p>開催場所 サンホールはびねす 1階大ホール</p> <p>開催内容（2回とも同じ内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度経営（事業）計画について：施設長より 2 介護職員処遇改善について：施設長より 3 総務課長から <ul style="list-style-type: none"> ・就業規則の変更 ・給与規程の変更 ・福祉関連資格取得支援規程について ・人材紹介謝礼規程について ・交通安全について ・非常災害対策について <p>出席者：2回合計 114名</p>	全職員	<p>全体研修 各事業所 1回</p> <p>全体会議 2回</p>

④サービス向上発表会：未開催

(6) 広報誌の発行（町内全戸配布）

発行回数	発行部数
年6回発行	各3,000部発行

(7) 実習生等受入状況

実習日程	人数	実習名	実習生所属学校等
6月20日～7月23日	2	介護実習（2年生）	旭川福祉専門学校
8月1日～5日	1	給食管理実習Ⅲ	旭川大学短期大学部
8月9日～21日	1	相談援助実習	旭川大学保健福祉学部コミュニティー福祉学科
8月20日～9月2日	1	福祉施設実習2年次Ⅱ期	剣淵高校
9月5日～16日	1	臨床実習	北海道医療大学理学療法学科
9月27日～28日	13	初任者研修介護実習	北海道鷹栖高校
11月21日～12月17日	2	介護実習（1年生）	旭川福祉専門学校
2月13日～17日	2	相談援助実習	旭川大学保健福祉学部コミュニティー福祉学科
人数	22		

(8) 苑外研修参加状況

月	日	研修・会議名	開催地	参加者
4	7	木造ハイブリッド構法による特別養護老人ホーム構造現場見学会	東京都	施設長
	19	第29回 ホームページ改善勉強会	札幌市	尾上
	23～24	第13回 全国先端ケア研究会	オンライン	施設長・谷本・尾上・室橋・鈴木・佐々木・河田・坂林・佐藤(恭)・山本(裕)・角谷・大倉・志知・松原・佐藤(晴)・谷水・己上
5	9	北海道介護支援専門員実務研修 ～7月22日	オンライン	大矢
	9	第1回認知症介護実践研修(実践者研修)及び認知症対応型サービス事業管理者研修 5/9～13 及び 6/21～22	旭川市	大倉
	14	全国高齢者ケア研究会リーダー研究会	オンライン	谷本・室橋
6	2	北海道介護支援専門員 専門研修Ⅱ ～7月30日まで	オンライン	坂林
	3	令和4年度 札幌市・石狩管内老人福祉施設職員合同研修会	札幌市	施設長
7	14	北海道介護支援専門員更新研修 ～9月16日まで	オンライン	林崎
	20～21	新任介護職員研修	旭川市	内山・久保田・井口
	27	ケアテックス札幌'22	札幌市	己上・鈴木
8	9	北海道主任介護支援専門員更新研修 ～11月20日	オンライン	佐々木(恵)
	23	全国老協北海道ブロック研究大会	札幌市	施設長・米澤・深瀬・林・寒河江
	25	北海道介護支援専門員 専門研修Ⅱ 10月28日まで	オンライン	谷本
9	7	小型車両系建設機械運転者 特別教育	旭川市	尾上
	9	福祉有償運送運転者講習	札幌市	山本(幹)

	10	第33回主任介護支援専門員フォローアップ研修会	オンライン	山本(裕)
	15	技能実習指導員講習公開講座	旭川市	森・
	20	食品衛生責任者養成講習	オンライン	能登
10	18	社会福祉法人・社会福祉施設ブロック研修会(道北地区)	旭川市	木幡
11	16	北海道主任介護支援専門員更新研修 ～3月5日まで	オンライン	山本(裕)
	20	北海道主任介護支援専門員研修 ～2月16日まで	オンライン	佐藤(恭)
	25	道北地区老人福祉施設協議会 事務職員研修会	オンライン	尾上・木幡・佐藤・ 舟根・小島
12	2	第6回ヘルスケアロボット展	札幌市	尾上
1	24	TKC 社会福祉法人経営研究会特別セミナー	札幌市	舟根
	25	全国老人福祉施設大会・研究会議	栃木県宇都宮市	施設長・米澤・上野
2	9	外国人技能実習関連講習 技能実習指導員講習	旭川市	設楽
	23	公益社団法人北海道栄養士会主催 医療栄養士協議会地方研修会	オンライン	鈴木
	26	「医療・介護・地域での一体的な多職種 連携の推進～地域包括ケアシステムの 推進最終章～」	オンライン	己上
				延べ61名

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 法人本部

(評価基準) S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待とほぼ同様の結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※メールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	事業 計画 内容	達成 指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1年			評価 結果	
												1月	2月	3月		4月
7	取組の事業 社会福祉士実習生の確保 的に導入し、研修修得 する福祉人材を育成 する。	凡上	計画 実施													
	取組の事業 社会福祉士の実習プログラムの見直し と導入。															
	取組の事業 社会福祉士実習 社会福祉士実習 社会福祉士実習 社会福祉士実習 社会福祉士実習 社会福祉士実習 社会福祉士実習															
	取組の事業 社会福祉士の実習プログラムの見直し と導入。															
	取組の事業 社会福祉士の実習プログラムの見直し と導入。															

令和4年度 総務課事業報告

1. 総括

令和4年度は、毎日の朝会、毎月の課内会議の開催で、職員相互の業務の実施状況や行事予定の共有を図り、窓口として来客などの対応を実践した。

昨年度の研修会受講により、法人全体の経営・施設運営の業務を担うセクションであること、施設の行事など事前準備を含めて積極的に参加するという職員の考え方や意識に変化が生じており、職員の退職・採用などにより事務分掌の変更が生じたが、一昨年度から継続している課員全体で業務を推進できるような事務マニュアルを作成により、スムーズに事務引継が行われ、更なる事務の効率化とご利用者の利便性向上を図った。

また、経理事務については、会計処理システムにより、会計処理の明確化を図っています。予算事務は、各課が責任を持って予算確保・執行ができることを目標とし、予算編成など行い、適正執行に努めた。なお、各事業所単位での予算管理については引き続き課題となっている。

さらに、出退勤に係る「タイムレコーダー」を平成28年度から導入し、職員の出退勤時間の適正な把握を目指した。打刻もれなどで事務作業が煩雑であることから、社会保険労務士への委託業務を機に変更を検討したが、実施に至っていないため、引き続き検討が必要となっている。

「広報活動」は、広報委員会の事務局を担い、広報誌（オールカラー化）・ホームページ・ブログを通して情報発信を充実させ、昨年引き続き成果を残すことができた。

なお、ホームページ・ブログについては、使いやすさや見やすさなどについて引き続き検討を行っている

なお、新型コロナウイルス感染症に関しては、予防対策及びクラスター発生に伴い、特別休暇対応、補助金・助成金活用、物品の確保、定期的な抗原検査実施体制・報告事務など必要な業務を推進した。

2. 次年度に向けて

総務課会議を毎月定例開催し、課員全体で業務を推進できるような事務マニュアルに基づく研修などを通じて、社会福祉法人・高齢者福祉施設の総務部門に求められる「おもてなし」の使命と役割を正しく認識し、窓口業務の一層の高度化と経理事務をはじめとする業務がスムーズに行え、事務処理がさらに簡素化できるようなシステムづくりに取り組む。

また、経営の羅針盤ともなる会計データの提出に関しては、正確性と期日厳守を徹底し、財政健全化に必要なデータを即時即応で提出できる体制を確保する。加えて、各事業所の予算管理について確認を徹底し、計画に基づく予算執行を目指す。

さらに、さつき会各事業所の働きやすい職場環境を目指し、課員全職員が各事業所担当となり、環境整備に努め、業務の効率化・安全化の徹底を図る。

また、社用車等についても安全運行のため、計画的な点検・整備の徹底を図る。

加えて、災害対応に向けた、日頃の準備の重要性を認識し、行政・近隣住民・家族の協力を得ながら、入居者・利用者の安全第一のため、用品確保・訓練実施に取り組む。

今般の新型コロナウイルス感染症予防対策への対応についても、引き続き、新型コロナウイルス感染対策本部の役割を確実に担う。

3. 運営状況・統計資料

(1) 職員の状況

(単位:人)

役職・職種 区分		令和4年度 期 首	令和4年度 期 末	増 減
施設長		1	1	0
副施設長(施設長兼務)		(1)	(1)	0
地域密着型サービス事業部長		1	1	0
施設・在宅サービス事業部長		1	1	0
事務員	正 職 員	4	3	▲1
	嘱 託 職 員	1	1	0
生活相談員	正 職 員	3	4	1
	パート職員	1	1	0
ケアマネジャー	正 職 員	5	5	0
出向ケアマネジャー	正 職 員	1	1	0
計画作成担当者	正 職 員	4	4	0
サービス提供責任者	正 職 員	3	3	0
介護員	正 職 員	57	53	▲4
	パート職員	29	33	4
ホームヘルパー	正 職 員	1	1	0
	パート職員	6	5	▲1
	登 録	2	2	0
看護職員	正 職 員	5	4	▲1
	パート職員	5	5	0
理学療法士	正 職 員	2	2	0
管理栄養士	正 職 員	2	2	0
調理員	正 職 員	1	2	1
	パート職員	13	14	1
運転員	パート職員	2	2	0
用務員	正 職 員	1	1	0
夜間管理当直員	パート職員	7	7	0
嘱託医		1	1	0
合 計		159	159	0

注) 兼務職員については、主たる職務へカウントする。

(2) 賞与支給状況

時 期	支給月数
	正職員
6月	1.0~1.8
12月	1.5~2.2
計	2.5~4.0

(3) 寄付金関係

(単位：円)

区 分	件 数	総 額	摘 要
寄付金	6	150,000	法人・各事業所運営のため

(4) 環境整備・苑内修繕状況(10万円以上)※

(単位：円)

月	環 境 整 備 ・ 修 繕 名	整備・修繕先	費用	実施施設名
8	スライド網戸取替	平和建具工芸	245,000	なごみの家
10	洗濯室給湯管一部盛替修繕	大洋設備	110,000	さつき苑
11	ポーチ2屋根漏水修繕	盛永組	138,600	ぬくもりの家えん
	居住棟床下温水管漏水修繕	大洋設備	110,000	さつき苑
12	暖房用循環ポンプ取替	大洋設備	117,700	ぬくもりの家えん
1	機械室外気処理調節器故障取替 工事	大洋設備	165,000	さつき苑
2	浴室タイル修繕工事(部分補修)	Eフォレスト	200,000	さつき苑
3	非常用照明器具取替	五光トータル防災	251,691	さつき苑
合計			1,337,991	

(5) 苦情・意見に対する改善状況

部 署	受付月	苦情・意見の内容	改善状況
本部・総務課	11月	書類に関する対応	家族からの照会に対して、曖昧な回答をせず、一貫性を持った対応を行う。
特養さつき苑	11月	入居者の個人情報について	入居者の個人情報(写真等)については、本人・ご家族へ十分な説明を行い同意を得て対応する。
ショートステイ さつき苑		なし	
デイサービス はびねす	11月	ケアの内容について	送迎中のケアについて、職員の対応を徹底する
ヘルパーステーション さつき苑	7月	職員の態度・言葉遣い	ヘルパー会議で利用者への態度・言葉遣いについて対応を徹底
	2月	職員の態度	ヘルパー会議で利用者の所有物の対応について徹底。(勝手に捨てない)
介護センター さつき苑		なし	
グループホーム なごみの家		なし	
小規模 なごみの家		なし	
特養 ぬくもりの家えん	1月	ワクチン接種について	家族の同意について、その都度、説明し同意を得る。
小規模 ぬくもりの家えん		なし	
サ高住たかほ		なし	

(6) 総務課職員研修会

開催年月日	講師	研修会名	参加職員数
令和4年9月9日		福祉有償運送運転者講習会	1
令和4年10月18日	社会保険労務士法人 代表 沢田 寿晴	北海道社会福祉法人・社会福祉施設ブロック研修会 (道北地区)	1
令和4年11月25日	社会保険労務士事務所 テラス 所長 倉 雅彦	道北地区老人福祉施設協議会事務職員研修会 Zoom 受講	6
令和5年1月24日		TKC 社会福祉法人経営研究会 特別セミナー	1

(7) 総務課 課内会議

毎月1回開催：業務確認等実施

令和4年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・総務課 取組み事項 取組み内容 実施担当者 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 最終評価

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	最終評価	評価内容
1	(1)(3)(4)	施設環境の維持管理	①全事業所の建物・付属設備・車両等の定期点検及び必要な点検を実施する。②おもてなしの心を表すために、来客者への対応、毎週実施している女園及び大ホール内の清潔並びに環境整備を徹底して行う。さらに四季のしつらえ、新規入居者への受入時対応充実③担当制による各施設・事業所の物品庫の整理・整頓を推進する。(備品台帳に基づき現品確認を実施する。)	用務員 高橋 舟橋 全職員	①定期点検年 間スケジュール 作成 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①点検 実施 ②環境 点検実施 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	B	①法律で規定されている、車両・建物の点検は全て実施 ②毎週点検の清掃並びに環境整備は継続実施、四季のしつらえは担当制として、新規入居者はショートステイから引き続き従事し入居者のため未実施。 ③新型コロナウイルス感染症対策のため、事業所への出入制限があり、さつき苑以外は未実施。
2	(2)(3)	災害対策・感染症対策	①防災用品、備蓄品の完備及び各種災害訓練(非常連絡網確認訓練各1年2回)の実施。 ②地域住民・行政等との連携による、実物性のある災害対策の組織構築を行う。 ③感染症対応、事務の推進及び感染症物品の確保・整備実施。	木嶋・ 高橋・ 用務員	②行政 への働き かけ ③物品 庫整理・ 整頓	②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①防災 用品等 確認 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①自然 災害 避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①避難 訓練 ②組織 構築へ 向けた 計画 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	C	①防災用品は確認済 一さつき苑品物のため購入済 ②避難訓練(自然災害)及び、避難 訓練(感染症)については、新型コロナウイルス感染症対策 生もあり、未実施。
3	(2)(4)	仕事の見える化の推進 (業務推進体制の構築)	①朝会及び課内定例会議により、各職員の業務スケジュールを確認し、効率的・安定的な業務の推進を図る。 ②各事務担当職員不在時においても、業務を推進できるよう必要マニュアル(ボランテア)を受け入れ、マニュアル、利用料金受領マニュアル、労務管理事務の標準化と効率化を図る。 ③業務分相を整理し、職員全体で本課・総務課事務を推進できる体制を確立する。 ④事務機器・ICTを最大限活用し、業務の効率化・合理化を図る。	木嶋・ 高橋・ 全職員	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①朝会 ②業務 分相 整理 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	B	①朝会・課内定例会議実施 ②各事務処理マニュアル完成。 ③職員退職・採用に伴い、事務分相一部変更済。 ④事務機器等のついでに検討は継続。
4	(1)(4)	働きやすい職場づくり	①有給休暇の計画的な取得を推進する。(最低、各職員5日間の有給休暇取得) ②衛生委員会設置及び開催品類を行う。	佐藤・ 用務員・ 全職員	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	①計画的 な有給 取得 ②衛生 委員 会設置 ③環境 整備 ④物品 庫整理・ 整頓	B	①課内全職員が有休休暇5日以上を取得することができた。 →介護委員会定期開催に向け、取組を年度後半(2月)に実施することができた。 ③新規車両を3台購入することができた。

令和4年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

事業計画 No.	重点目標との連動	法人本部・総務課	実施担当者	取組み事項	取組み内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴースト (達成目標)	最終評価	評価内容		
5	(2)	法人本部・総務課	母根・木幡	会計事務の適切な処理	①経理規程に基づき、適正な事務処理を行う。 ②各事業所の予算管理を適正に推進するため、担当課長との連携を強化する。 ③物品購入事務処理等会計処理の統制を推進する。 ④前年度・全月との経費対比情報を提供し、各事業所の経費削減を支援する。	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理 ③対比情報提供	中間評価	A	①適正な経理事務を実施する。 ②予算管理が適正に執行される。 ③会計処理の統一化が図られる。 ④経費の対比状況を把握することで、各事業所の経費削減が図られる。	B	
6	(2)(4)	法人本部・総務課	木幡・高橋	職員全体研修会	①職員全体研修会体系化し、確実に実施する。(交通安全研修・メンタルヘルズ研修・接遇研修・職員育成研修等)	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	中間評価	C	①職員に必要な研修が計画的に提供される。 ②職員が研修に積極的に参加している。 ③職員が人財として育成される。	B	
7	(1)(2)(4)	法人本部・総務課	木幡・全職員	総務課職員研修	①総務課職員研修の実施(総務課の仕事の目的・目標の共有、PDCAの生産性向上、チームワーク向上、個とチームの課題の明確化と改善) ②積極的に外部研修(他施設実地研修)を受講し、受講職員による伝達研修を実施する。 ③積極的に業務に関する資格を取得する。(資格に関する情報を開示し、課員内で積極的に情報交換を実施する。)	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	①研修計画作成 ②研修実施	最終評価	A	①課内会議は定例開催することができ、情報共有等が図られた。 ②Zoom研修などを活用し、職員が研修の向上を図る研修を受講することができた。 ③道北地区老人福祉施設協議会研修会 全員で受講	A

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和4年度は、「自立支援プログラムの充実」「充実したアクティビティ」「安心して利用できるデイサービスづくり」に取り組んだ。

「自立支援プログラムの充実」は、デイサービスフロア内に歩行運動コースを設け、歩行回数に応じたスタンプラリーを実施した。スタンプラリーのゴール地点を「函館」とし、達成者には映像による函館観光ツアーを企画し、旅行体験を味わっていただいた。コロナ禍で、外出に制限があり、思うように身体を動かす機会を作れないため、歩行運動コースなどの運動系アクティビティに、数多くの利用者の参加あった。

また、裏庭でのパークゴルフ場では、感染予防に努めながら、屋外での運動系アクティビティを通して利用者同士の交流も深められ、身体機能の向上に加え、「心」を元気にするという取り組みも継続的に実施できたと考える。

設備面では、下半身の筋力強化に効果がある、リハビリテーション機器を1台増設し、利用者の立ち座りの動作の改善を図った。この機器導入により、リハビリテーション機器が整ったことで、フィットネス倶楽部コレカラを利用していた方が、デイサービスでも同じ機械で運動ができると好評を得ている。

「充実したアクティビティ」は、デイサービスの裏庭にて、プランターによる野菜栽培、花の栽培を行った。利用日ごとの「日課」として、担当の利用者が水やり、誘引、摘心等、ご本人の持つ知識を活かし、積極的かつ生き生きと作業に取り組まれていた。秋には収穫したカボチャの味噌汁を、昼食で提供し、秋の味覚を味わうことができ好評を得られた。

令和3年度に中止にしていた、外出行事も近隣の感染状況に配慮しながら、飲食を伴わない形で、花見や紅葉狩りツアーを実施した。参加者の多くが、「久しぶりのドライブが楽しかった」と喜んでいたのが印象的であった。月に1度のハンドメイドアクティビティは、利用者が様々な作品を作成し、12月には「ストリングアート」で作製した「クリスマスツリー」を、地域住民の協力を得て、ダマルシェ内のサロンスペースにて展示会を開催した。感染予防のため、利用者地域住民の直接的な接触はできなかったが、間接的に関わりを持つことができた。

「安心して利用できるデイサービスづくり」では、感染予防の徹底を令和4年度も実施した。全国での感染拡大に伴い、鷹栖町でも感染者が増える中、職員家族の感染、利用者家族の感染、隣接する施設でのクラスター発生等に対し、手洗い、うがい、ソーシャルディスタンスの確保、黙食、消毒等に努めた結果、デイサービスにおける利用者の感染者は「0件」であった。

本年度も感染予防を実施しながらのデイサービス運営は、不自由な点が多く、利用者の要望に100%答えることができなかった。特に人気の高い、外出行事(買い物、ドライブ、レストランでの食事等)の要望が多かったが、実施可能なものはごくわずかであった。しかし、外出行事がほとんど実施できない中でも、デイサービス内でどれだけ「楽しく」、そして「安全」に日々の活動量を維持し、精神的にも豊かさを感じられるようなアプローチ方法はないかと模索し、新たなレクリエーションを展開した結果、満足度調査にてレク

リエーションの項目で高い満足度を得ることができた。

利用者推移は、令和4年5月に欠席者が最も多くなった。旭川市、鷹栖町のコロナウイルス感染状況や、隣接施設でのクラスター発生の為、利用控えしたためと思われる。その後の利用控えの利用者の、利用再開がスムーズに行かず、自宅待機を継続されるケースがあった。新規利用がすくないも、停止者は令和3年に比べ少なく、登録者の減少は少なかった。（令和3年度、停止者50名に対し令和4年度は停止者36名）介護保険収入は令和3年度60,644,000円に対し、令和4年度の介護保険収入は61,531,000円と887,000円の増加となった。

2. 展望（次年度に向けて）

令和5年度は、コロナウイルス感染症分類が5類になり、制限は緩和されるが、コロナウイルス感染の症状や後遺症は、利用者にとって、健康寿命を奪う脅威であることは、変わらないため、感染予防を継続していく。流行状況を確認しながら、外出の機会や他者との交流等の活動の範囲を増やして行きたい。また、コロナウイルス感染予防の為に、自宅での療養を続けていた、地域の高齢者のデイサービス利用促進を積極的に行い、いつまでも、住み慣れた地域で暮らし続けられるように、支援していきたい。

3. 運営状況・統計資料

（1）業績

<事業収入>

（単位：千円）

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 (B) / (C) × 100
61,713	61,532	99.7%	60,644	101.4%

<1日の平均利用者数>

目標 平均利用者数(A)	実際 平均利用者数(B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 平均利用者数(C)	伸長率 (B) / (C) × 100
25名	21.5名	86.0%	22.5名	95.5%

（2）利用者年齢構成

（単位：人）

年齢	男性	女性	合計
60以下	1	0	1
60以下	1	0	1
61～64	0	0	0
65～69	0	0	0
70～74	2	1	3
75～79	3	8	11
80～84	8	7	15

85～89	12	22	34
90～94	8	22	30
95以上	0	5	5
合計	34	65	99
平均年齢	84.6歳	86.4歳	99
最低年齢	59	73	
最高年齢	94	99	

(3) 事故発生状況

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	1	1	1	1	0	1	2	0	2	0	0	0	9
転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
裂傷	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
異食・誤食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原因不明の傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
爪切り	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
投薬管理ミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破損事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
衣服破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	1	1	1	1	3	2	1	3	0	0	0	15

(4) 職員研修

<苑内研修参加状況>

日程	研修内容	参加人数
令和4年		
5月16日	マナーモラル研修	6名
6月27日	食中毒予防研修、感染症対策研修	6名
7月25日	救急救命研修	5名
10月6.13日	食事ケア研修（初級、中級）	5名
12月8.15日	排泄ケア研修（初級、中級）	8名
令和5年		
1月19.26日	トランスファー研修（初級、中級）	7名
2月9.16日	認知症研修（初級、中級）	6名
2月20日	感染症対策研修	6名
3月9.16日	医療ケア研修（初級、中級）	6名

<外部研修参加状況>

日 程	研 修 名	参加者
令和4年7月25日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢
8月24日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢
9月14日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢
10月12日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢
11月16日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢
12月14日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢
令和5年1月24日	安全運転管理者等講習	谷
2月24日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー（個人面談）	谷・大矢
3月17日	デイサービス事業継続等相談支援セミナー	谷・大矢

(5) デイサービスセンター会議実施状況

開催月	内 容	参加人数
令和4年 4月 18日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告・環境改善・事故報告・令和4年度行動計画について	6名
5月 16日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・マナーモラル研修	6名
6月 27日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・食中毒予防研修・感染予防研修	6名
7月 25日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・活動計画評価	6名
8月 22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
9月 26日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	7名
10月 17日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・感染予防研修	6名
11月 14日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
12月 26日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	7名
令和5年 1月 30日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
2月 20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告	6名

	環境改善・事故報告・活動計画評価・感染予防研修	
3月 20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	8名

(6) ボランティア受け入れ状況

①ボランティア受入実績

※コロナ感染予防の為 ボランティア中止

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②ボランティア協力団体

団体名	活動内容
なし	なし

(7) 行事

※コロナ感染予防の為 外出行事、ソーシャルディスタンスを保つ事が困難な行事を自粛

日時	行事名	場所	担当者
令和4年 4月16日	ティーカップフラワー	デイホール	岩井
5月16日	モルタルアート	デイホール	谷
6月6日	モルタルアート	デイホール	谷
7月16.23日	ストリングアート	デイホール	岩井
8月9.16日	ストリングアート	デイホール	岩井
10月10日	紅葉狩り	神居古潭	谷・新井
10月18.22日	ストリングアート	デイホール	岩井
2月24日	ちぎってアート	デイホール	岩井
12月1日	ちぎってアート	デイホール	岩井

4. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

受付日	内容	原因	改善状況
令和4年 11月3日	事故対応について保険適応と聞いていたが保険適応にならなかった	事故の対応についての説明に不備があった。勘違いをさせてしまう説明をした	事故発生時のマニュアルの確認と説明内容の確認

令和4年度 部門(事業部)別活動計画

部門(事業部)名: デイサービスはぴわ (計画基準IS:チャレンジャー、計画以上の成果 A: 期待以上の成果、期待以上の定量化、期待以上の表現) B: 期待以上の成果、期待以上の定量化、期待以上の表現とする

事業計画 項目	取組内容	実施 担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中間 評価	コメント (達成状況)	最終 評価	達成 内容
8	クエアール 課題マナー向上	谷/阪田	計画 研修会・勉強会・接客マナーの向上、接客マナーの基本を学ぶ。至職員が認知症介護の理念、知識、技術を習得する。	実施 研修会	実施 実地研修(泊)	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	B	取組マナー研修会の実施 接客マナーに関する実習など の取り組みが 進んでいる。	B	取組マナー研修会の実施 接客マナーに関する実習など の取り組みが 進んでいる。
9	スタッフのスキルアップ 業務改善	谷/阪田	計画 研修会	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	B	オペレーターの見直しを行い、効率化を図 る。業務時間内に行える業務を増加させる(機 器修理、巡回チェック、ハンズオン設備、買い 出し等)	A	業務の効率化 作業時間内に 行う作業を増 加させた。計 画外の業務の 対応も進んで いる。
10	滞り取組の徹底	谷/大中原	計画 滞り取組	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	実施 実地研修	C	滞り取組の徹底 滞り取組の徹底 滞り取組の徹底	C	滞り取組の徹底 滞り取組の徹底 滞り取組の徹底

令和4年度 鷹栖町介護センターさつき苑事業報告

1. 総括（今年度の取り組みと成果）

はじめに、事業所全体の運営状況の報告としては前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策（消毒の徹底、感染状況に応じた時短対応、オンラインの活用）にて感染予防を徹底しながら通常の運営を実施した。職員体制としては新たに1名が主任介護支援専門員の資格を取得した。その他、3名の社会福祉士の実習の受け入れ、ソーシャルワークについての指導を行った。

ケアマネジメントに関しては、ケアマネジャー1人に対して平均40名の担当（たかほは除外）を行い、重度化対応・カンファレンス・社内・外研修・課内研修にて学び、実践では健康管理（トータルケア・医療連携・各関係機関との連携強化）とQOL向上（活き活きはびねすプランの実施）により地域の皆様の支援を実施した。

業績総括としては、適正利益確保目標人数平均187名としていたが、平均189名の登録で目標より2名増で目標達成した。収益に関しては達成率99.7%、伸長率106%で収益に関して目標を達成することができなかった。また、利用者動向を前年度と比較すると、新規74名（-13名）入院者名189名（-41名）停止者52名（-16名）で、前年度と比較すると新規・入院者・停止者が減少の結果であった。

その他、地域貢献活動では2回の出前講座にて介護に関する知識・技術を地域の皆様へ伝えることができ概ね計画通り事業を運営することができた。

2. 次年度に向けた展望

ケアマネジメント技術に関してはトータルケアの強化を図る。次年度は脱水・転倒・低栄養についての啓発活動週間を定め、利用者への啓発活動と健康状態の管理を行う。

また、各種研修を継続し、研修で学んだ知識・技術を使った実践をカンファレンス・症例検討で具体的に行動できるように進める。

次年度は機能を活かした効果的なICT（ほのぼのシステム、LINEワークス、オンライン等）の連携機能をフル活用し、ケアマネジメント・マーケティング・社会貢献活動へ効果的に時間が使えるようにICTリテラシーの強化を図る。

人材育成においては、職員一人ひとりが成長できるように、ケアマネジャーとして地域課題と向き合い、継続的な支援を展開し、地域住民の皆様に寄り添いながら関係機関と一緒に具体的なケアを実践する。自ら考え行動できるように、個々が持っている力を最大限に発揮し、創造力を高め具体的な実践が展開できるケアマネジャーを育成する。地域において様々な活動が展開している中で、「自分達には何ができるのか」を常に考え、地域創りに貢献できる事業所運営を目指す。

3. 運営状況・統計資料

(1) 収益

＜事業収入＞

(単位：千円)

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) ×100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) ×100
27,504,000	27,409,020	99.7%	25,729,660	106%

(2) 居宅サービス利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成12年度	67	77	78	75	77	80	74	82	81	76	78	82	77
平成13年度	78	82	79	87	87	89	88	98	93	92	103	107	90
平成14年度	104	108	106	110	110	116	109	108	102	98	100	107	107
平成15年度	109	110	114	115	118	117	119	121	116	121	125	126	118
平成16年度	142	142	143	145	143	145	148	146	145	148	151	154	146
平成17年度	158	151	155	158	156	155	156	156	157	152	148	145	154
平成18年度	147	143	141	140	135	128	129	129	124	123	113	115	130
平成19年度	114	116	113	104	106	105	106	104	101	104	106	109	107
平成20年度	114	114	112	114	111	105	113	113	113	112	112	113	112
平成21年度	110	96	92	88	89	90	91	86	87	88	92	94	92
平成22年度	96	92	94	97	99	97	101	96	99	88	91	94	95
平成23年度	91	92	99	100	107	104	107	105	104	101	102	107	102
平成24年度	110	113	113	113	116	110	109	118	112	113	110	115	112
平成25年度	115	118	119	114	117	118	118	123	119	115	112	119	117
平成26年度	113	116	116	115	120	116	123	120	118	125	124	120	118
平成27年度	122	120	120	121	123	118	116	116	114	108	117	122	118
平成28年度	126	121	121	123	122	123	123	124	127	127	126	125	124
平成29年度	132	139	139	140	137	135	138	141	141	141	132	128	136
平成30年度	128	130	130	128	132	132	130	129	132	127	126	118	128
平成31年度	128	132	137	142	141	141	142	141	141	139	138	134	138
令和2年度	148	152	163	161	170	180	178	172	171	177	184	181	169
令和3年度	184	187	183	187	178	181	182	183	185	183	175	180	182
令和4年度	190	185	182	188	190	189	198	195	188	185	187	190	188

(3) 上記利用者の要介護度分布

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
要支援 1	8	7	9	11	11	13	10	14	13	18	28	32	31
要支援 2	13	12	12	11	9	9	11	15	18	19	27	34	28
要介護 1	36	42	45	52	57	43	48	53	55	57	59	53	75
要介護 2	19	19	24	23	22	32	32	25	22	22	32	32	24
要介護 3	10	10	9	10	10	5	7	8	9	7	9	11	11
要介護 4	6	9	9	9	7	6	8	7	5	6	8	13	13
要介護 5	3	3	3	6	9	8	7	6	9	6	5	4	8

※人数は、各年度の平均人数

(4) 苑内・苑外研修参加状況

① 苑内研修

月 日	内 容	講師等	参加者
7月14日	先端ケア研修	高齢者ケア研修会	4
7月14日	セルフマネジメント研修	生きがいホール	1
9月16日	先端ケア研修 2回目	たかほ	4
10月13日	基礎介護力研修初級・中級（食事）	能登・米澤・森	5
12月8日	基礎介護力研修初級・中級（排泄）	室橋・林崎	5
1月19、26日	基礎介護力研修初級（トランスファー）	設楽・大矢・大河原	2
2月9、16日	基礎介護力研修初級・中級・（認知症ケア）	佐々木・谷・松原	5
3月9、16日	基礎介護力研修初級・中級・（医療）	藤川・谷水	5

② 苑外研修

月 日	内 容	主催	参加者
6月15日	マルベリー福祉用具展示会	マルベリー	5
6月2日	介護支援専門員 専門研修Ⅱ	北海道総合研究調査会	1
7月8日	居宅合同研修	誠徳園	5
7月23、24日	主任ケアマネフォローアップ研修	介護支援専門員協会	1
9月10日	主任ケアマネフォローアップ研修	介護支援専門員協会	1
9月14日	男性介護者カフェ	社会福祉協議会	2
11月19、20日	主任介護支援専門員更新研修	介護支援専門員協会	1
1月30日	ケアブランドデータ連携システム説明会	厚生労働省	1
2月21日	在宅介護医療・介護における薬剤師との連携	ココカラファイン	5

11月～2月	主任介護支援専門員研修	北海道総合研究調査会	1
3月3.4.5日	主任介護支援専門員更新研修	北海道総合研究調査会	1

(5) ケアマネ会議内容

月 日	内 容
4月5日	活動計画確認 情報共有
4月15日	ケアマネジメント研修 ～ハラスメント～
4月19日	情報共有 事例検討
4月26日	ミーティング会議
5月6日	活動計画確認 情報共有
5月10日	ケアマネジメントに関する研修 ～災害対策～
5月17日	新型コロナ感染 居宅の対応
5月24日	ミーティング会議
6月10日	活動計画確認 情報共有
6月14日	ケアマネジメント研修 ～アセスメント～
6月21日	事例検討
6月28日	ミーティング
7月5日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
7月12日	ケアマネジメントに関する研修～認知症～
7月26日	ミーティング
8月2日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
8月10日	ケアマネジメントに関する研修 ～ケアプラン作成～
8月16日	事例検討
8月23日	ミーティング
8月30日	情報共有、権利擁護
9月6日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
9月13日	ケアマネジメント研修～後見人制度～
9月20日	情報共有
9月27日	事例検討
10月4日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
10月11日	感染症研修
10月18日	事例検討
10月25日	ミーティング
11月1日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
11月8日	情報共有
11月15日	情報共有
11月22日	事例検討
11月29日	ケアマネジメント研修
12月6日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
12月13日	個人情報保護
12月20日	事業計画打ち合わせ
12月27日	～感染症研修～
1月10日	情報共有
1月17日	ケアマネジメント研修

1月24日	事例検討
1月31日	ミーティング会議
2月7日	活動計画、情報共有
2月14日	事例検討
2月21日	感染症研修
3月7日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
3月14日	ケアマネジメント研修
3月21日	事例検討会
3月28日	ミーティング

(6) 出前講座

月 日	内 容	講 師
6月28日	認知症サポーターキャラバンメイト養成講座	佐々木
3月9日	介護の入門的研修 鷹栖高校	山本(正)

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 (詳細基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との運動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価 値	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容					
4	(4)	マニキュア作成にて業務分担管理	①利用者管理票と減算チャック ②ほのぼのの基本的なマニキュアと請求マニキュアは作成し、毎月できていないが、また改良の必要があると評価した。 ③請求業務 ④請求業務	山本(裕) 佐藤	計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	個々で利用者管理票利用しているが、利用者への説明ができていない、減算チャックも各事業所からできていないため不十分と評価した。				
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	・法令に基づきファイル管理でき ・効率よく統一した方法でシステム入力できる			
					計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	ほのぼのの基本的なマニキュアと請求マニキュアは作成し、毎月できていないが、また改良の必要があると評価した。		
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・効率よく統一した方法でシステム入力できる ・マニキュアによりミスなく口滑に実施できる	
5	(5)	適正利益の確保とフレッシュ体操の推進	①目標利用者人数(初期183名→期中188名→期末190名;年間平均利用者数187名) ②目標収益:26,119(千円) (前年度当初予算25,137,000千円) 目安:並増2,176,583以上 ③集中減算資料を年2回(3月~8月、9月~2月)作成 ④全職員が5日間フレッシュ体操取得	佐々木	計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・各事業所は個々で、同法人事業所は転送等にて提供を待たせている。取組に専念する事業所についてはまとめて進めようとし月末に確認できている。			
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・各事業所への配布を口滑に実施できる		
					計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標人数を達成	
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標人数を達成	
					計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標利益を達成	
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標利益を達成
					計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標人数を達成
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標人数を達成
					計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標利益を達成
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標利益を達成
					計画	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標利益を達成
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	B	・目標利益を達成

令和4年度 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和4年度は昨年同様『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益の確保する』の4つの重点目標をかかげ取り組んだ。

1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供」

毎月カンファレンスを実施しケアの見直しと統一を図ると共に、困難ケースにおいても状態悪化の予防に努めた。事故件数については、事故後の分析や再発防止に努めたが転倒、転落事故が前年度より6件増加した。

食事については、ソフト食の提供、病状や状態に合わせて栄養補助食品との併用、食事の一部をミキサー食で提供するなど、食事形態を早期に見極めることによって、嚥下や咀嚼が困難な方が増加した中でも食事摂取量を維持することができた。

疾病の管理では、日々の体調管理をはじめ、入居者の重度化にともない気になる事があれば早めに医療機関への相談をしたことで、入院者延べ6名いたが入院日数は48日と前年度より79日減らすことができた。

感染症対応では、引き続き新型コロナウイルス感染予防の強化に努めた。手洗い、うがいの基本をはじめ、ワクチン接種の実施、手すりドアノブ等の消毒や1時間毎の換気を徹底した。感染状況に合わせて面会中止、面会制限（玄関での面会・窓越し面会）を実施した。職員の防護服着脱の実技訓練や抗原キットでの検査についても定期的実施した。また、個々の私生活においても決められた感染予防対策の徹底と強化に努めた。結果、感染症・集団感染共にゼロを維持することができた。

2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

計画的に介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）の取り組みを実施し、各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図ることができた。

3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

定期的面談を実施することで不安や悩みの軽減を図ることができた。有給休暇取得については、日数にばらつきはあったも全職員が5日以上の有給取得と常勤職員全員が連続休暇（8日間）を取得することで、リフレッシュを図ることができた。

技能実習生の受入については、事前に受け入れる側の勉強会、現任職員の丁寧な指導や本人の努力、何より入居者の方々が戸惑いもなく温かく接してくれたこともありチーム全体で良い結果に繋がった。

4) 「業務の効率化と適正利益の確保」

介護記録の電子化の本格運用をはじめ、必要に応じてオペレーションシートの見直し業務分担を明確にしたことで業務の効率化が図れた。

適正利益の確保については、入院に伴う空床延べ日数が48日。退居から新規入居までの空床延べ日数については、少しでも迅速な入居に繋げることができるよう小規模多機能ホームと連携を図った結果20日。年間平均稼働率は、99.0%と目標稼働率の98%を上回ることができた。

2. 次年度に向けての展望

令和5年度は、引き続き同様の重点目標をかかげ確実に実施できるようより具体的な計画を立て取り組む。

ケアについては、特変を早期に発見できるようダブルチェック、カンファレンスを更に強化し入居者の更なる重度化にしっかり対応できる力をつける。また、介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）については、利用者のADL（日常生活動作）の維持向上に特化した取り組みを常勤全員が計画的に実施する。

引き続きICT・IOT化の活用を通じてケアの質の向上を図り、職員の業務負担軽減と更なる業務の効率化を図る。また、互いのユニットを常に補うことができるよう常勤職員のユニット固定の勤務を解消。連続休暇についても8日間の取得を計画する。

基本的な感染予防を徹底することで対面での面会や外出、行事の再開など潤いのある暮らしに少しでも近づくことで入居者の更なるQOLの向上を図る。

入院延べ日数60日、目標稼働率98%を達成し適正利益の確保を図る。

3. 運営状況・統計資料

(1) 稼働状況

目標ベッド稼働率(A)	実際ベッド稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド稼働率(C)
98.0%	99.0%	101.0%	97.0%

(2) グループホーム会議開催状況

日 時	議 題 内 容
4月19日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・介護過程の展開の取り組み説明・その他
5月17日	ケースカンファレンス・新規入居者について・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告書・給食関係・行事・その他
6月21日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・キックオフミーティング・その他
7月19日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・TENAの使用について・その他
8月22日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・コロナ感染予防について・その他
9月13日	ケースカンファレンス・新規入居者について・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
10月18日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・感染症予防研修について・その他
11月15日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・技能実習生受け入れについて・その他
12月20日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・外部評価について・その他
1月17日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・オムツの当て方ミニ勉強会・その他
2月21日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・R5年度予算について・その他
3月21日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・抗原キット実施期間について・その他

(3) 環境整備他

日 時	内 容	ユニット	業 者
4月中旬	水槽台(熱帯魚用)	洋	DCM ホーマック
4月中旬	水槽セット(熱帯魚用)	洋	(有) アクアショップ
5月中旬	冷蔵庫	和	(株) ヤマダデンキ
5月中旬	コードレス掃除機バッテリー	和・洋	(株) ヤマダデンキ
7月上旬	エアコン電源供給工事	事務所	(株) 亀谷電設
7月上旬	エアコン	事務所	(株) ヤマダデンキ
7月中旬	エアコン	交流スペース	(株) ヤマダデンキ
7月中旬	3段蒸し器	全体	(株) フジマック
7月下旬	誘導灯器具取替	洋	五光トータル防災
7月下旬	電動ベッドの手元スイッチ	和	合同会社セカンドライフ
7月下旬	定量止水付水栓修理(浴室)	和	(株) 齋藤工業所
7月下旬	圧力鍋修理	洋	イオン旭川西店
8月上旬	ホシザキ冷凍庫保守点検	全体	ホシザキ北海道(株)
8月上旬	網戸取替	和・洋	(有) 平和建具
9月上旬	清掃床ワックス塗布	和・洋	旭川ヒューマンサービスセンター
9月中旬	マジックブレード	和・洋	(株) ヤマダデンキ
11月中旬	ポトク	洋	ソースネクスト
1月中旬	誘導灯器具取替	和	五光トータル防災
1月中旬	トイレ便器詰まり修理	洋	(株) 齋藤工業所
1月下旬	リクライニング車椅子購入	洋	合同会社セカンドライフ
1月下旬	車椅子タイヤ交換	和・洋	合同会社セカンドライフ

(4) ボランティア状況

新型コロナウイルス感染予防のため外部ボランティア受入を原則中止。

(5) 行事活動状況

日 時	行 事 名	場 所
5月10日	お花見ドライブ	パレットヒルズ
8月9日	夏祭り	なごみの家
10月15日	紅葉狩り	パレットヒルズ 丸山貯水池
12月20日～ 12月22日	ゆず湯	なごみの家
12月24日	クリスマス会	なごみの家

1 2月27日	忘年会	なごみの家
2月3日	節分	なごみの家
3月3日	ひな祭り	なごみの家

令和4年度
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

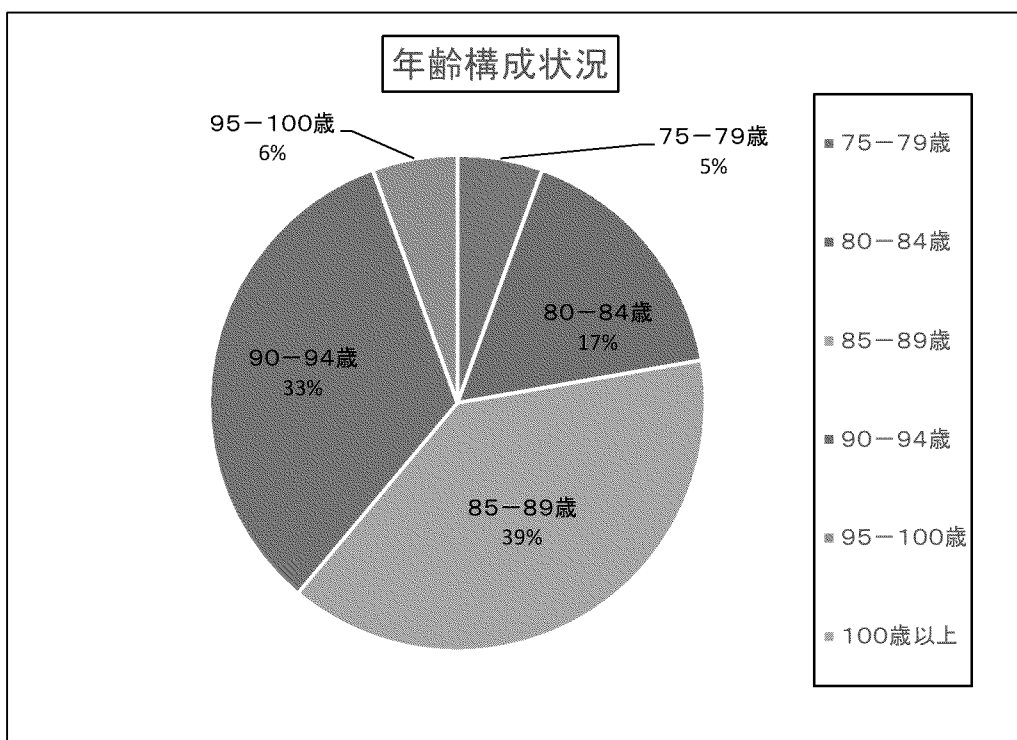
(自：令和4年4月1日 ～ 至：令和5年3月31日)

1 入退所状況

入所者数	退所者数	退所理由	在籍者数	男 性	女 性
3	3	長期入院のため 2名 なごみの家で死 去1名	18	3	15

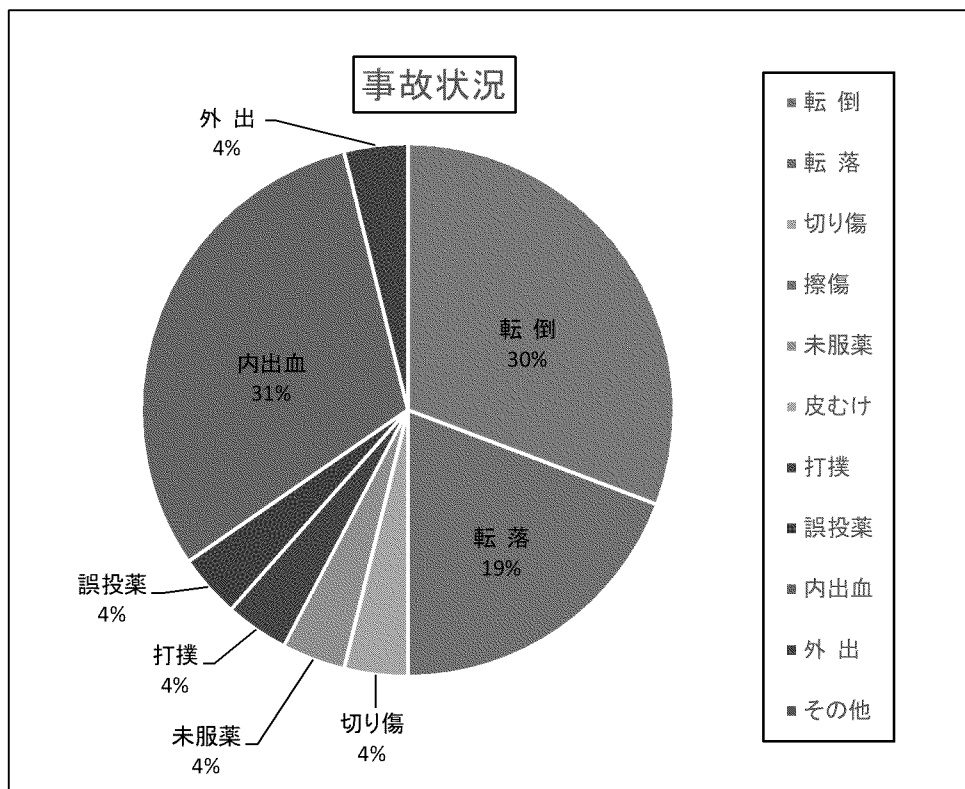
2 年齢別

	男 性	女 性	合 計
75-79歳	0	1	1
80-84歳	1	2	3
85-89歳	1	6	7
90-94歳	1	5	6
95-100歳	0	1	1
100歳以上	0	0	0
合 計	3	15	18
平均年齢	86	88	87.7
最高年齢	90	95	
最低年齢	82	77	



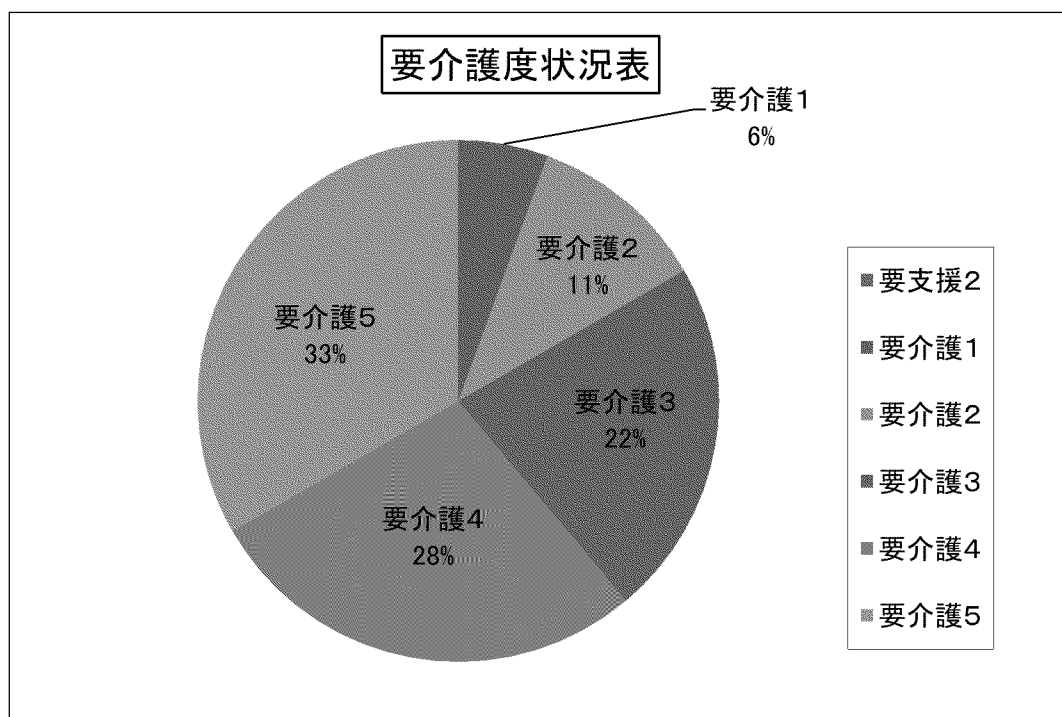
3 事故状況

	洋	和	合計
転倒	3	5	8
転落	1	4	5
切り傷	0	1	1
擦傷	0	0	0
未服薬	1	0	1
皮むけ	0	0	0
打撲	0	1	1
誤投薬	0	1	1
内出血	3	5	8
外出	0	1	1
その他	0	0	0
合計	8	18	26



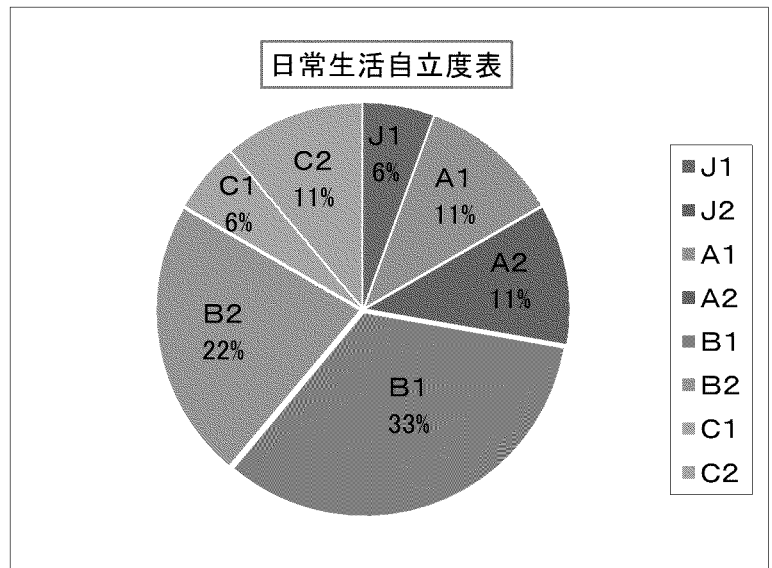
4 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	0	1	1	6%
要介護2	0	2	2	11%
要介護3	2	2	4	22%
要介護4	1	4	5	28%
要介護5	0	6	6	33%
合計	3	15	18	100%



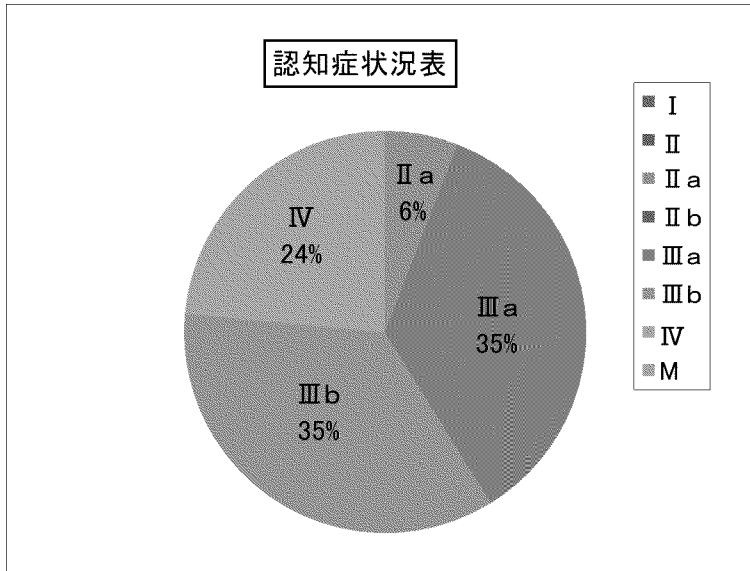
5 日常生活自立度

	洋	和	合計	構成比
J1	1	0	1	6%
J2	0	0	0	0%
A1	2	0	2	11%
A2	1	1	2	11%
B1	2	4	6	33%
B2	3	1	4	22%
C1	0	1	1	6%
C2	0	2	2	11%



6 認知症状況

	洋	和	合計	構成比
I	0	0	0	0%
II	0	0	0	0%
II a	1	0	1	6%
II b	0	0	0	0%
III a	3	3	6	35%
III b	4	2	6	35%
IV	1	3	4	24%
M	0	0	0	0%

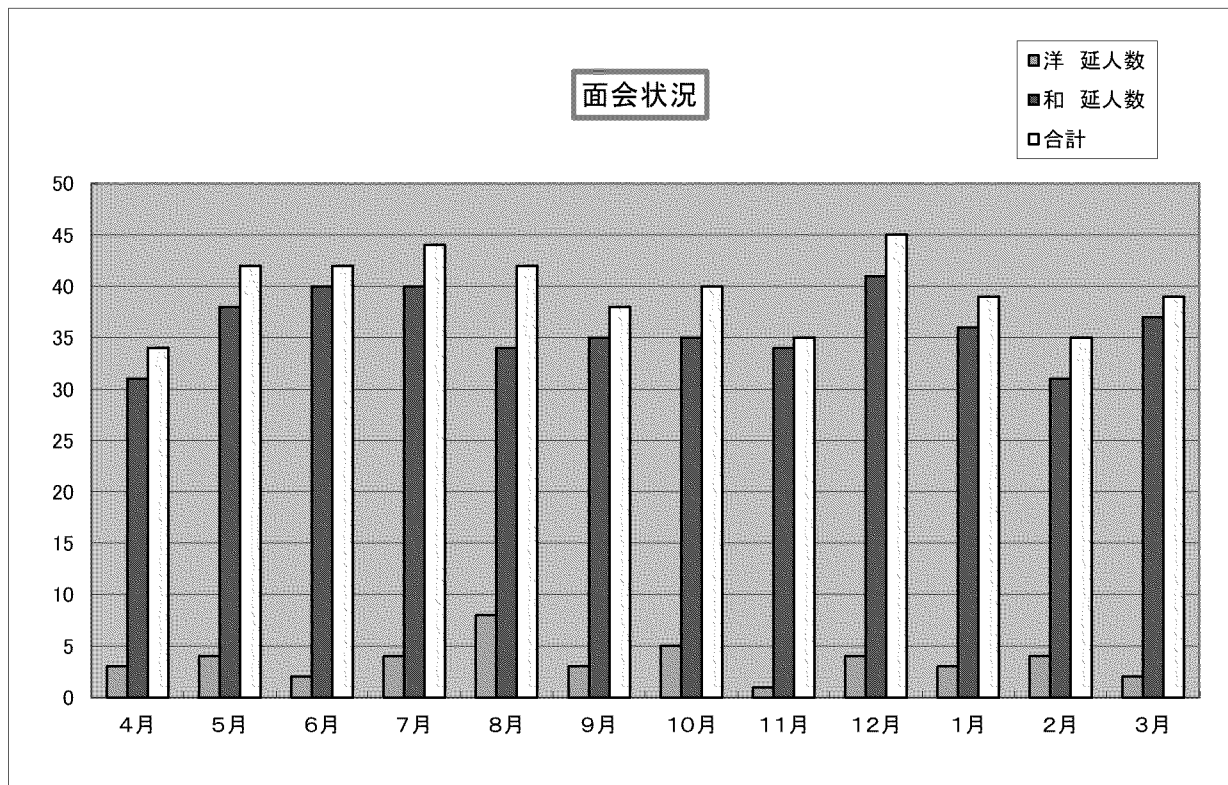


7 入院状況

	実人数	延日数
整形外科系	1	9
精神科系	0	0
内科系	1	24
消化器系	0	0
脳神経系	1	15
合計	3	48

8 面会状況

	洋 延人数	和 延人数	合計
4月	3	31	34
5月	4	38	42
6月	2	40	42
7月	4	40	44
8月	8	34	42
9月	3	35	38
10月	5	35	40
11月	1	34	35
12月	4	41	45
1月	3	36	39
2月	4	31	35
3月	2	37	39
合計	43	432	475



令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹塚ごみの家 S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションなし D:まったアクションなし ※ゴールは定量化し、証みえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	担当	担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
1	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供	ケアの質の向上と安全で信頼に基づきサービス提供
2	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供	安全で美味しく深みのある食事の提供
3	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症の予防
4	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実	疾病の管理と医療的ケアの充実
5	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上	基礎介護力の向上
6	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実	アクティビティの充実
7	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る	環境を改善し快適な生活環境を作る

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹塚ごみの家 S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションした結果不十分 D:まったアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	担当者 担当	取組み内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
8	(3)	働きやすい職場づくり	課長 主任 リーダー	不安を取り除き、上司・部下が心を通い合 わけるために、定例で職員面談を実施す る。	計画 実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	面談の実施 面談の実施	B	面談により、不安や悩みを軽減、解消に努め た。
			課長 主任	リフレッシュ8連休の実施と有休休暇の計 画的消化	計画 実施	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	1名取得 1名取得	A	計画通り常勤スタッフ全員が取得できた。
			課長 主任 リーダー	退職者を減らし、安定した運営に取り組み (退職者を目標とする)	計画 実施	退職者0 1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	1名退職	C	今年変更退職者3名。
			高橋	介護負担の軽減と業務の効率化を図るた め、ICT、IoTを最大限活用する	計画 実施	ICT導入 勉強会、導入												B	介護負担の軽減と業務の効率化が図れた。
			主任 リーダー	週目標を継続し、具体的な目標を認識し て思いを一つにする	計画 実施	毎日の目標 で目標を達成 する	済	済	済	済	済	済	済	済	済	済	済	B	持ち回りで週間の目標を立て、目標を現場と 照らし合わせチームワークの強化を図ること ができた。
9	(3)	チームワークの向上	主任 リーダー	職員が楽しみ、やりがいを見つめ出し、速 く成果が表れるよう一年間チームでの目 標を定め、取り組み(チームビルディング上 発表会等)での発表)	計画 実施	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	B	コロナ禍ではあったが、「楽しみのある生活」を 目標として、レクなど取組の取り組みができた。
			課長 主任 リーダー	業務の風直しを行い、業務分担を明確に し見える化する	計画 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	業務整理 実施	B	オンラインミーティングで取組みが成 果を出す。
10	(5)	業務の効率化	主任 リーダー	従来のマニュアルの見直しと整理	計画 実施	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	取組み 取組み	C	一部変更できたが、未実施の物があるため。
			課長 主任	訪問サービス(生活確認、生活支援・家事 支援) 専門 ケアアシスタントの導入	計画 実施	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	ケアアシスタ ントの導入 ケアアシスタ ントの導入	C	下期新たにケアアシスタントの見直し、業務分 担を明確にし、業務の効率化を図る。	
			主任 リーダー	登録人数の維持(目標登録人数24名)	計画 実施	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	登録人数の 維持 登録人数の 維持	C	登録者数も目標には満たなかったが、介護 費が軽減された事もあり、目標介護保険事業 収入には届かず。
11	(7)	適正利益の確保	主任 リーダー	目標介護保険事業収入58,495,233円	計画 実施	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	目標介護保 険事業収入 の達成	C	登録者数も目標には満たなかったが、介護 費が軽減された事もあり、目標介護保険事業 収入には届かず。
			主任 リーダー	ダブルチェックの徹底と総合記録シートを 活用し予備的なケアに努め、長期入院、 施設入居を減やさない	計画 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	ダブルチェ ックの徹底 実施	C	長期入院者、施設入居者共に目標より多く、登 録終了者が多くなった。
			主任 リーダー	光熱費に占めるコストを削減を高め、節約 に努める(前年度より3%)	計画 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	光熱費の削減 実施	C	光熱費に対するコストの意識を持ち、節約に努 めるよう促した。

令和4年度 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和4年度は昨年同様『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する』の4つの重点目標をかかげ取り組んだ。

(1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づくサービスの提供」

毎月カンファレンスを実施し、ケアの見直しと統一したケアに努めた。困難ケースにおいては、随時ケースカンファレンスを行い、本人の状態の維持に繋げるよう努めた。

事故件数は7件。薬に関する事故が2件、いずれも薬カレンダー使用し本人管理ではあったが、確認は必ずスタッフが行うルールとなっていた。今年度も人的ミスによる事故を無くすことができなかった。

食事については、嗜好を取り入れた季節感のある食事や、見た目でも楽しめるおやつを提供することで利用者を楽しんでいただいた。

食中毒・感染症予防対策、新型コロナウイルス感染症予防対策に関して、昨年に引き続き、手洗いうがいの徹底、室温・湿度管理や30分おきの換気、消毒の強化を行ったことと、ご利用者、ご家族の協力のもと、送迎時には健康観察記録の確認、手指消毒と車輛・物品使用後の消毒の徹底をした。職員個々の私生活でも感染予防対策の徹底と強化に努め、集団感染を防ぐことができた。

疾病の管理では、健康管理、病状・状況把握等が十分とは言えず、医療機関との連携にも努めたが、入院期間1ヶ月以上になる方が多く、結果8名が登録終了となった。

(2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るための「介護過程の展開」については計画・実施できたスタッフも居たが、全員の取り組みには至らなかった。

学習療法に関しては、参加者総人数は6名となったが、入居、登録終了の方も居り、年度末では3名にとどまった。昨年に引き続き、感染予防の関係でサポーターの協力を中止し職員のみでの学習支援となった。

アクティビティーについては、コロナ禍で外出等制限のある中でも「心に残る楽しいひととき」を目標に、お楽しみお茶会・ドライブ・変わり湯・ペーパークラフトなどの製作にも力を入れ利用者の満足度を高めることができた。

(3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

定期面談を継続してはいたが、年度末で退職者1名。

計画的連続休暇については、常勤職員全員が8日間取得することができ、リフレッシュ

ユを図ることができた。有給休暇については非常勤職員も含め5日以上取得することができた。新型コロナウイルスに関しては、家族の感染や、濃厚接触等もあり、出勤停止が多くあったが、チーム全員でカバーし合い乗り切ることができた。

(4)「業務の標準化・見える化・効率化を図り適正利益を確保する」

ケアアシスタントを増員することで業務の分担、業務の効率化を図ることができた。今年度新規登録者は居宅・地域包括からの移行を含め10名。登録終了者は14名（内長期入院により8名、グループホーム入居3名、サービスの移行1名 死去2名）平均登録者数22.4名、介護度の高い方が登録終了となったことも重なり、登録者数、介護保険収入共に目標には届かなかった。

2. 次年度に向けての展望

令和5年度はコロナ禍で実施することができなかった活動内容を、確実に実施できるようより具体的な計画を立て取り組む。

働きやすい職場づくりのため、ケアの質の向上を図り、職員の業務負担を減らし業務の効率化を図る。さらにリフレッシュ休暇（8連休）の取得を継続する。

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』を職場目標にかかげ「介護過程の展開」を職員一人ひとりが自ら進んで取り組み、職員・利用者共に、楽しみ・やりがい・達成感を感じられる暮らしづくりを実践する。

また、利用者の在宅生活の継続が困難にならないよう、生活状況・身体状況の確認、介護者の介護力の把握と介護力向上のための助言・指導を行い、多職種協働での健康状態の把握・悪化の予測をし、医療連携を密に行うことで入院による登録終了者を減らし、適正利益の確保を図る。

地域の中での小規模多機能居宅介護の在り方、役割を踏まえ地域で必要とされる拠点を目指す。

3. 運営状況・統計資料

(1) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月19日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事(花見ドライブ・桜湯)について・介護過程の展開・はびねすプラン、利用者様担当業務担当について・ほのぼの完全移行に関して・学習療法月次検討会	7名
5月17日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事(避難訓練)について・介護過程の展開、はびねすプランについて・業務担当について・畑について・学習療法月次検討会・キックオフミーティング	9名
6月21日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・学習療法月次検討会・キックオフミーティング	6名
7月19日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事(ラベンダー湯、ミント湯、桃湯・外注おやつ)について・利用者担当について・緊急時対応マニュアルについて・感染対策について・学習療法月次検討会・キックオフミーティング	7名
8月22日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・感染対策について・学習療法月次検討会	6名
9月13日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事(りんご湯・長生き感謝祭)について・浴室掃除について・洗濯物について・学習療法月次検討会	7名
10月18日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・検食簿、時間外命令簿について・介護過程の展開について・感染対策について・遅番勤務時間について・外国人技能実習生について・学習療法月次検討会	8名
11月15日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事(ゆず湯、クリスマス、忘年会)について・朝食調理に関して・除雪について・GH(和ユニット)へのヘルプに関して・学習療法月次検討会	9名
12月20日	ケースカンファレンス・新規利用予定者について・抑制廃止の取り組み・行事(クリスマス、忘年会、柚子湯・元日、餅提示日)について・利用者様担当について・ほのぼの入力について・介護過程の展開・言葉使いについて・学習療法月次検討会	6名
1月17日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応について・行事(節分)について・運転業務、	7名

	車輛使用前後の点検に関して・令和4年度小規模目標について・介護過程の展開・学習療法月次検討会・ケアアシスタントについて	
2月21日	ケースカンファレンス・新規利用予定者について・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応について・行事（ひな祭り）について・ほのぼのの入力に関して・洗濯物に関して・次年度誕生日プレゼントについて・月のレク担当について・介護過程の展開・学習療法月次検討会・ケアアシスタントについて	6名
3月21日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・令和5年度月のレク、行事担当について・ソフト食(朝食)の食材について・介護過程の展開・職員の欠員に関して・感染予防に関して・学習療法月次検討会	7名

(2) 小規模多機能ホーム事故状況

月 日	内 容	結 果
6月13日	表皮剥離(96才・女性)	ガーゼパットにて処置
7月 7日	未服薬(78才・女性)	特変なし
7月29日	重複薬(79才・女性)	特変なし(Drへ報告し注意事項等確認)
8月17日	転落(86才・女性)	右頬～額にかけ発赤と腫れ、痛みあり 患部冷やしその後痛み等軽減
9月18日	転倒(90才・女性)	外傷痛みなし・その後も異常なし
1月26日	転倒(94才・女性)	左背部に発赤、痛みあり・その後異常なし
3月 23日	単独外出(79才・女性)	捜索開始後、自宅までの帰宅経路上で発見。

(3) 小規模多機能ホーム行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
4月28日 ～5月6日	お花見ドライブ	花咲公園 護国神社 教育大 療育園 パレットヒルズ
4月25日 ～5月1日	桜 湯	なごみの家
5月2日～5日	菖蒲湯	なごみの家
6月5日	ドライブ	丸山公園 パレットヒルズ
6月20日～24日	バラ湯	なごみの家

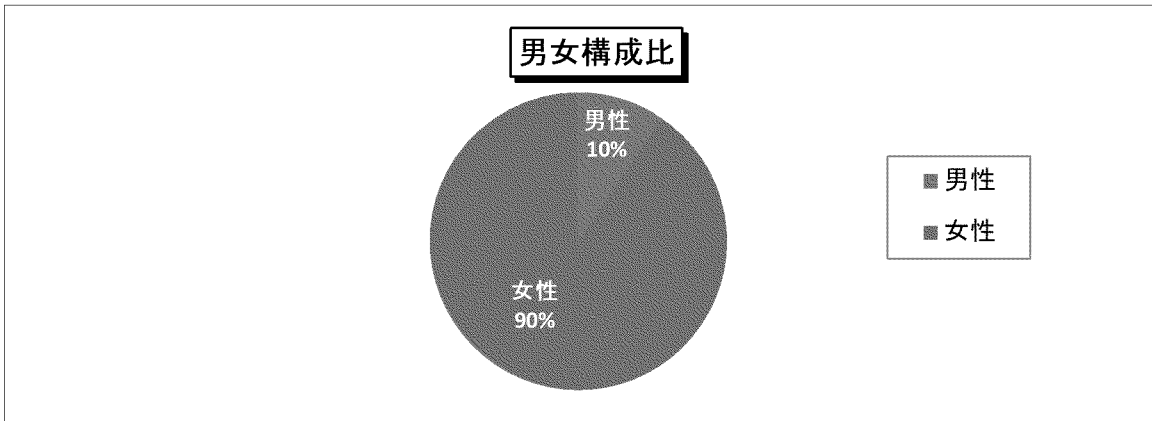
7月18日～21日	ラベンダー湯	なごみの家
7月25日～26日	お楽しみお茶会（まるきた和生）	なごみの家
7月30日 ～8月5日	ミント湯	なごみの家
8月15日～21日	桃 湯	なごみの家
9月1日～6日	コスモス湯	なごみの家
9月10日	ドライブ	男山酒造
9月20日～21日	お楽しみお茶会（柳月ケーキ）	なごみの家
9月22日	お楽しみお茶会（まるきた和生）	なごみの家
9月27日～30日	りんご湯	なごみの家
10月13日	出 前	なごみの家
11月15日	出 前	なごみの家
12月20日～23日	柚子湯	なごみの家
12月25日	クリスマス	なごみの家
12月26日～31日	ご当地温泉の湯	なごみの家
12月27日	忘年会	なごみの家
2月3日	節分 豆まき	なごみの家
3月1日～2日	お楽しみお茶会（まるきた和生）	なごみの家
3月15日	出前	なごみの家

令和4年度
小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

(自：令和4年4月1日 ～ 至：令和5年3月31日)

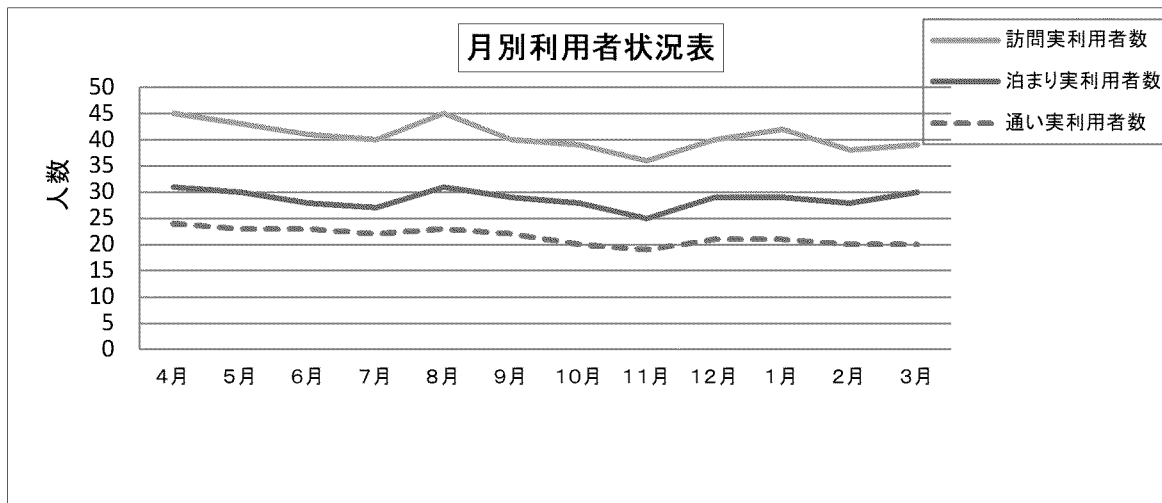
1. 利用登録者（令和5年3月31日現在）

男性	女性	合計
2	19	21



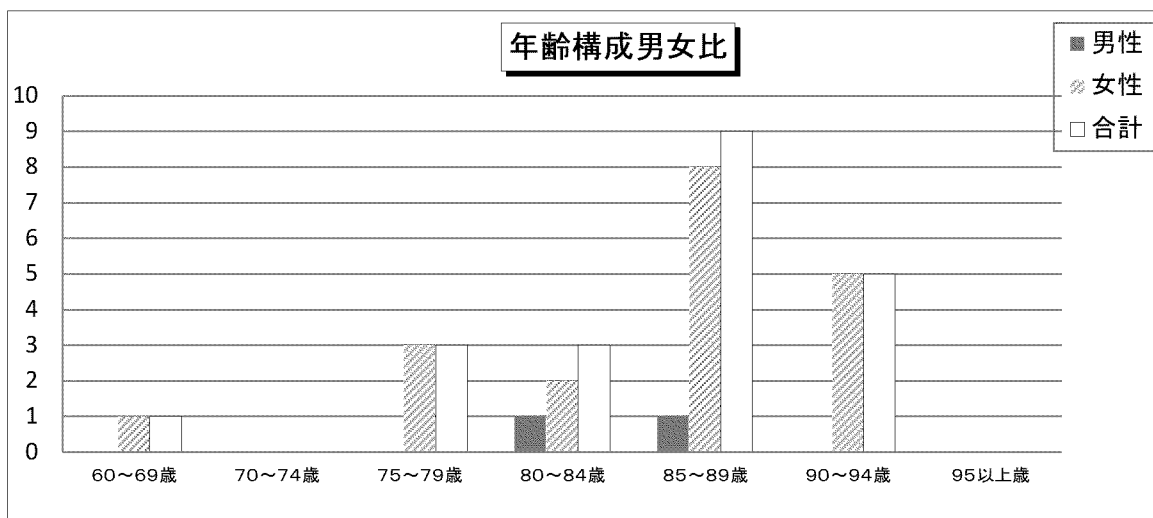
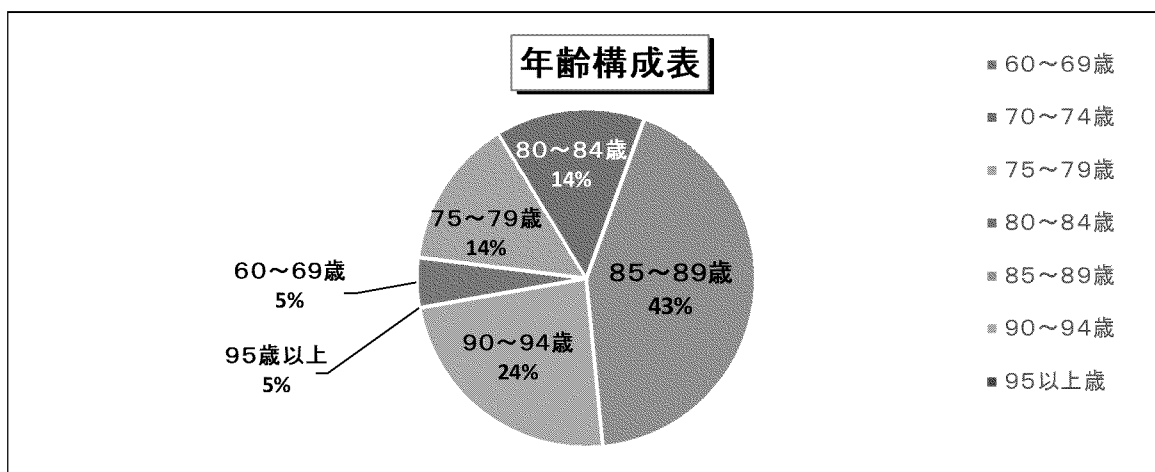
2. 月別利用者状況

月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	停止者	月初登録者数
4月	24	7	14	1	2	25
5月	23	7	13	0	1	23
6月	23	5	13	1	1	24
7月	22	5	13	0	0	23
8月	23	8	14	2	3	24
9月	22	7	11	0	2	21
10月	20	8	11	1	2	20
11月	19	6	11	0	0	19
12月	21	8	11	0	0	22
1月	21	8	13	0	1	22
2月	20	8	10	2	2	21
3月	20	10	9	0	0	19
平均	21.5	7.3	11.9	0.6	1.2	21.9



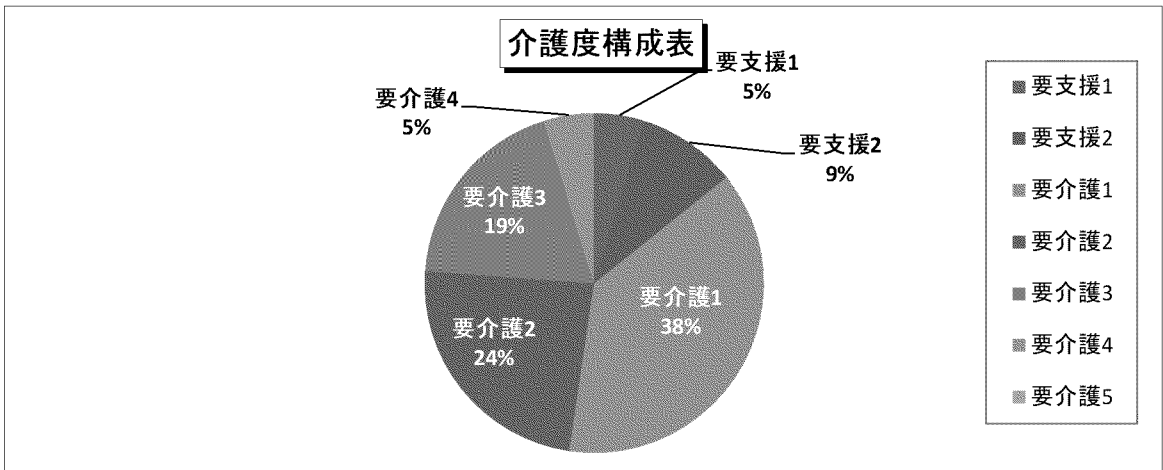
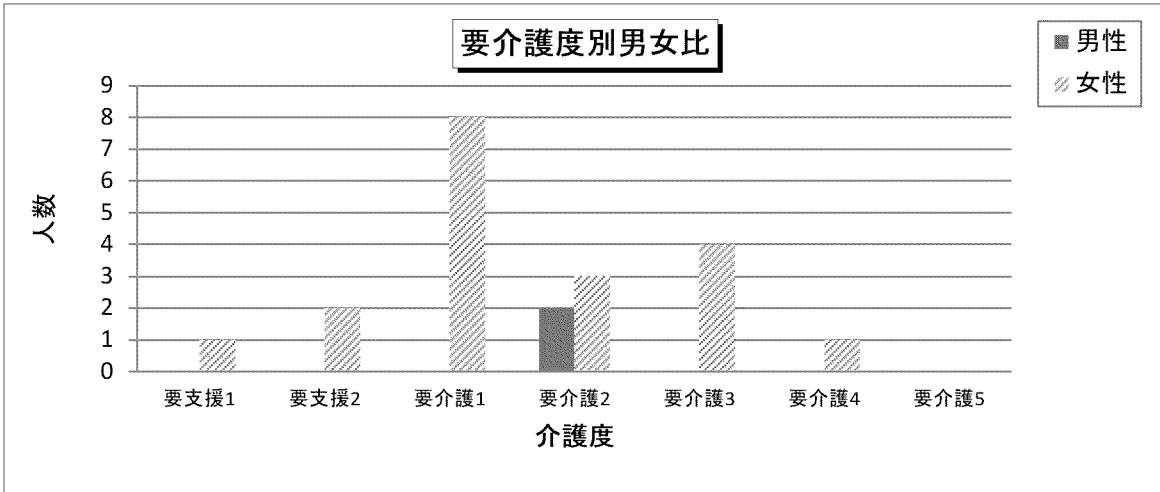
3. 年齡

年齡	男性	女性	合計
60~69歲	0	1	1
70~74歲	0	0	0
75~79歲	0	3	3
80~84歲	1	2	3
85~89歲	1	8	9
90~94歲	0	5	5
95以上歲	0	0	0
合計	2	19	21
平均年齡	82.8	84	83.8
最高年齡	89	96	96
最低年齡	72	65	65



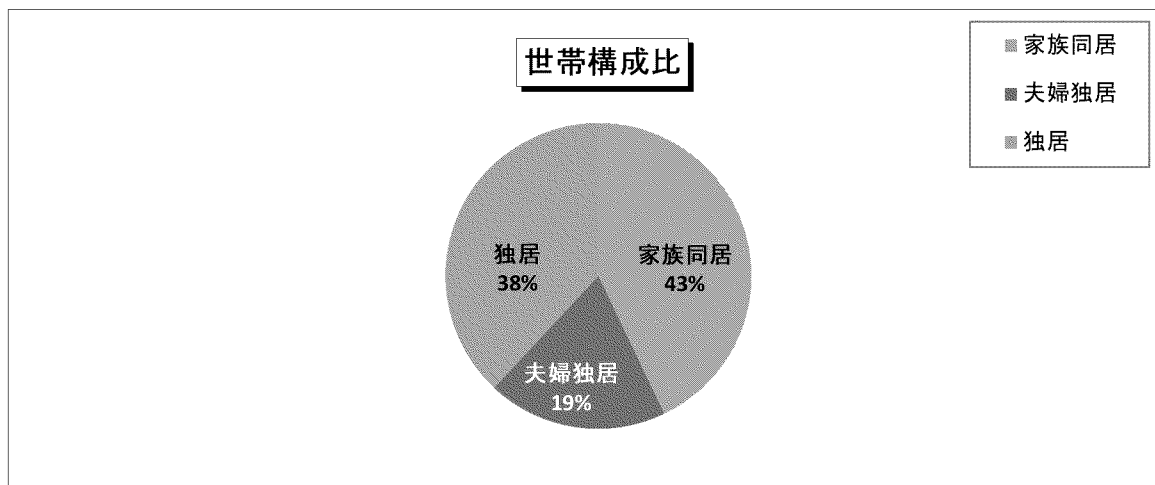
4. 要介護度別

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	4%
要支援2	0	2	2	8%
要介護1	0	8	8	36%
要介護2	2	3	5	28%
要介護3	0	4	4	16%
要介護4	0	1	1	4%
要介護5	0	0	0	4%
合計	2	19	21	100%



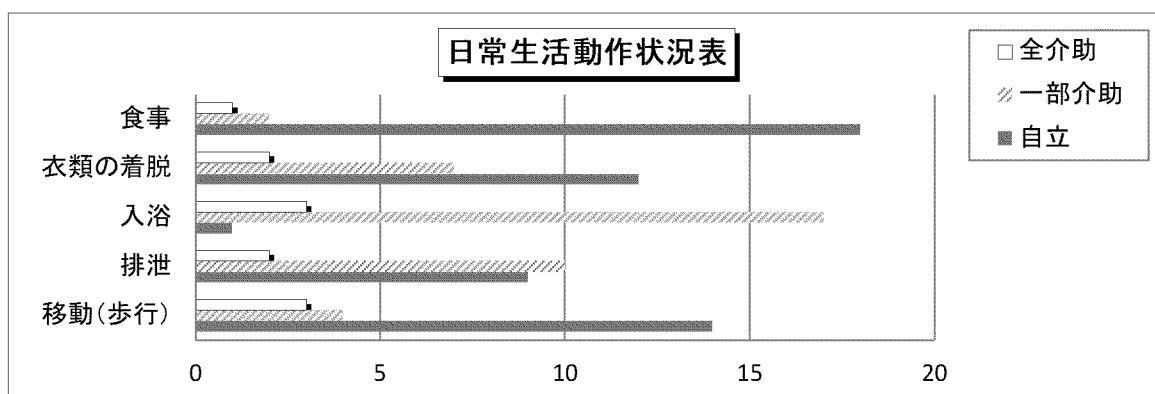
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
9	4	8	21



6. ADL(日常生活動作)状況

分類	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	14	4	3	21
排泄	9	10	2	21
入浴	1	17	3	21
衣類の着脱	12	7	2	21
食事	18	2	1	21



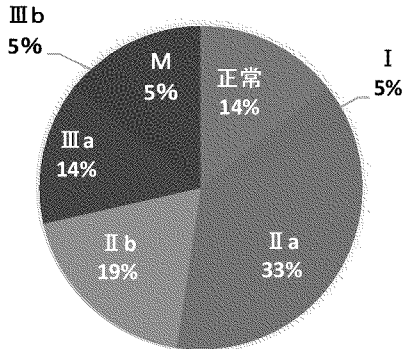
7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
I	1
II	0
II a	7
II b	4
III	0
III a	3
III b	1
IV	0
M	2
合計	21

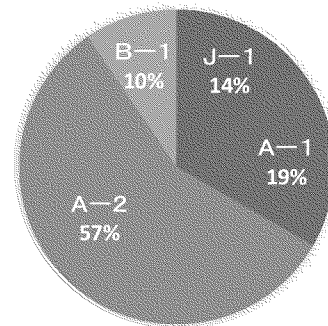
8. 障害老人の日常生活自立度状況

自立度	人数
自立	0
J-1	3
J-2	0
A-1	4
A-2	12
B-1	2
B-2	0
C-1	0
C-2	0
合計	21

認知症高齢者の日常生活自立度比



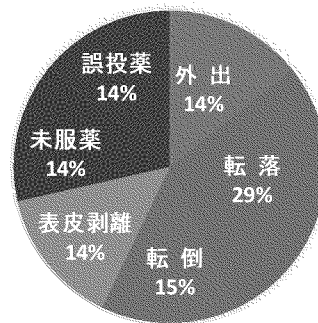
障害老人の日常生活自立度比



9. 事故状況

内容	件数
転倒	1
転落	2
切り傷	0
表皮剥離	1
未服薬	1
誤飲	0
投薬忘れ	0
誤投薬	1
打撲	0
外出	1
その他	0
合計	7

件数



令和4年度 部門(専業所)別活動計画

部門(専業所)名 小規模多機能ホーム職能ごみみの家 S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションした結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画№	重点目標との連動	取組内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
1	ケアの質の向上と安全で信頼に基づいたサービスの提供	アセスメントシートの整理と定期的なアップデート更新 グループワーク、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する 安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ	主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	アセスメントシートの整理と定期的なアップデート更新	C	新規と一部の利用者様の更新のための為。
(1)			主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	グループワーク、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する	B	会議以外でも、都道府県事例のカンファレンスを行い、未定化の予防に努めている。
(1)			主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ	C	事故発生7件(昨年10件)より減少した。また、事故発生原因を調査し、再発防止策を講じた。
			主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	身体拘束及び虐待防止の取組を継続して行う(年2回研修実施)	B	計画通り2回実施。虐待該当なし。
2	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供	高橋 栄業士	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	個別に合わせて合わせた適切な食事形態を提供する	B	個々に合わせた食事形態で提供できた。認識性師表での入院者0名。
			高橋 栄業士	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	利用者の嗜好を入れた季節感のある食事の提供	B	コロナ禍で外食は未実施。行事食は季節に合った物を提供することができ、お茶会は定期的に開催した。
3	(1)	食中毒・感染症の予防	看護師 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	感染症対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒の感染予防に努める(集団感染0件)	B	食中毒、感染症の集団感染0件
			看護師 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	非常災害時における訓練と感染症対策訓練を計画・実施し、予防意識の向上と万が一の事態に備える。	C	非常災害訓練は未実施。防護服着訓練は定例会議の方針で可能な限り実施した。
4	(1)	疾病の管理と医師的ケアの充実	看護師 主任	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	ケアチェックを強化し、病名の発症及び重症化を防ぐ。長療と介護連携により入院での利用体止を減らす	C	利用者会員の血液データを収集には至らず。入院による体止8名。
			看護師 主任	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメンの強化(訪問サービスの提供で在宅での健康状態を強化し、介護者の介護力を見極め必要な支援・援助を行う)	C	あったが介護職ネットワークの活用、在宅での生活習慣、状況の把握、病状悪化を予防し、在宅生活の継続ができた。(あったが介護職ネットワークの活用は1-5名)
5	(1)	基礎介護力の向上	看護師 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	総合訓練シートを通じた介護職ネットワークの活用をし、主治医・かかりつけ医との連携の強化を図る。	B	必要に応じて、受診の同行やDr.への手紙など医師連携を実施できた。
			看護師 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	法人全体で段階別基礎介護研修を実施し、より実践的な知識、技術を身につけて専門性の向上を図る	B	トランスファー研修以外は、オンラインの研修で実施し、スキルに合わせた研修に参加することによって職員がケアのレベルアップができた。
(1)			主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	外部研修の計画・実施	C	新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン研修にて参加。次年度計画とする。
6	(2)	アクティビティの充実	看護師 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	楽しみ、喜び、学びの多いアクティビティを計画・実施する(思い出に残る物、持ち帰りできる物、成果のある物、発表ができる物)	B	定期的に作品作りを行うことができた。成果のある物や発表、展示できる物は未実施。
			看護師 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	学習療法をより多くの月に参加していただくために、定期的に利用者・家族・仲間を巻き込み、計画を行う。定期的に学習診断を行い、評価を行う。	C	下期、サポーター研修を実施。次年度再開予定。学習療法実施者は現在3名。
(2)			小林 田中	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	施設内の生活空間を適切に管理し潤いのある生活空間を作る	C	各月の担当が設えを検討し、実施。植物の管理が一部不十分。

令和4年度 部門(専業所)別活動計画

部門(専業所)名 小規模多機能ホーム運営ごみみの家 S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったぐアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との運動	取組内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	目標(達成目標)	最終評価	評価内容	
8	(3)	働きやすい職場づくり	課長 主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	前後を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。	B	前歳より、不安や悩みの軽減・解消に努めた。	
		不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期的に職員面談を実施する																	
		リフレッシュ55単体の実施と有給休暇の計画的消化																	
		退職者を減らし、安定した運営に取組む(退職者を旨指す)																	
		介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、ICT、IoTを最大限活用する																	
		週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする																	
9	(3)	チームワークの向上	主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	一つのテーマにチームで取り組む機会を出す。	B	コロナ禍ではあったが、「楽しみのある生活」を目標として、レクなど取り組む事ができた。	
		職員が楽しみややりがいを認め、達成感を感じるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービスマス向上発表会等での発表)																	
		業務の見直しを行い、業務分相を見直し見える化する																	
10	(5)	業務の効率化	主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	従来のマニュアルの見直しと整理	C	一部変更できたが、未実施の物があるため。	
		近期中間サービス(安否確認、生活支援・家事支援)専門ケアアシスタントの導入																	
		登録人数の維持(目標登録人数24名)																	
11	(7)	適正利益の確保	主任 リーダー	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	目標介護保険事業収入達成	C	登録者数は目標には届かなかったが、介護度が上がった事もあり、目標介護保険事業収入には届かず。	
		ダブルチェックの徹底と総合記録シートを活用し予断的ケアに努め、長期入院、施設入居を減やさない																	
		光熱費に對してのコスト意識を高め、節約に努める(前年度より-3%)																	

令和4年度 地域密着型特別養護老人ホーム めくもりの家えん 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和4年度は、昨年同様「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針として、(1)多職種共同でケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる、(2)感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める、(3)自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める、(4)チームワークの向上と ICT の活用を通じて職場環境の改善を図る、(5)適正利益の確保の5つを重点目標に取り組みを行った。

(1) 「多職種共同でケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる」

日々の健康管理を適切に行うため、定期検査（血液）の実施、ダブルチェックの徹底、毎月のリーダー会議ではカンファレンスを行い、必要に応じてケアの見直しを図った。

入院については、入院日数延べ 299 日で昨年の 113 日と比較すると大幅に増加し、目標の 50 日以内を達成することができなかった。入院の内容については、誤嚥性肺炎が 2 件あり、基本的な体調観察の不足が要因と考えられ、今後のケアでは、早期発見と改善の重要性を再認識することとなった。

食事については、安全で美味しく食事を提供するために、入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事や摂食障害がある方でも素材の味が伝わるよう食形態を工夫し提供することができた。

また、満足度調査の食事部門についてのアンケートでは、入居者から大変満足しているという喜ばしい評価であった。今後も毎日の食事に楽しみを感じられるよう栄養士や調理員と連携を図っていく。

(2) 「感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める」

コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努めるため、基本的な感染対策の徹底と抗原検査の実施、職員とその家族を含め体調不良の際には迅速にシフト調整を行った結果、入居者の感染者 0 名を維持することができた。

(3) 「自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当入居者の生活が穏やかで楽しみある暮らしづくりのために、7 ケースの介護過程の展開に取り組み、個別の課題に対して担当スタッフが具体的な支援方法を考え、チームで共有することができた。また、スタッフが成功体験を経験することで、今後の強みとなる知識を身につけることができた。

(4) 「チームワークの向上と ICT の活用を通じて職場環境の改善を図る」

介護記録の電子化の導入があり、記録の時間が大幅に減少され、勤務時間内に記録をする

ことが可能となった。また、運用に関して全法人の主任以上で検討を行った結果、総合記録シートの欄を設け、経過が一目でわかりやすいものへと変更となり、より効率的に運用することができた。

リフレッシュ休暇 8 日間は、対象職員全員が計画的に休暇を取得することができた。

(5) 「適正利益の確保」

特養事業の目標 98%（目標介護保険収入 104,151,000 円）に対し、実績は稼働率 92.1%（101,761,210 円）で、2,389,790 円の減収となった。光熱水費については使用量は前年並みであったが、燃料費の高騰により支出増となった。1 人あたりのオムツ関連費用は適正な使用の徹底を図った結果、前年比-16%と削減することができた。

2. 展望（次年度に向けて）

令和 5 年度は、引き続き同様の重点目標をかかげ、確実に実施できるようより具体的な計画を立て取り組む。

ケアについてはダブルチェック、カンファレンスを更に強化し特変の早期発見と改善につなげる。また、口腔衛生の管理体制を整備し実践することで健康の保持を図る。

ICT、IOT 化の活用を通じケアの質の向上と職員の業務負担の軽減および業務の効率化を図る。連続休暇はリフレッシュ休暇 8 日間の継続と 3 連休の計画的取得を推進する。

適正収益の確保では、退居から新規入居までの期間を 7 日以内とし、目標稼働率 98%（目標介護保険収入 105,711,000 円）を達成する。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績報告

①ベッド稼働率

目標ベッド稼働率 (A)	実際ベッド稼働率 (B)	達成率(B)/(A)×100
98.0%	92.1%	93.9%

②延べ入居者数（単位：人）

目標延べ入居者数 (A)	実際延べ入居者数 (B)	達成率(B)/(A)×100
7,154	6,719	93.9%

③事業収入(単位：千円)

目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率(B)/(A)×100
104,151	101,761	97.0%

(2) ボランティアの受け入れ

①ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
延人数	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14

②ボランティア協力団体一覧

団体名	活動・協力内容
ぬくもり友の会	・除雪
絵画サークル虹の会	・花壇整備
	・絵画展示

(3) 外出・外泊・面会状況

年月	面会延べ人数(名)	外出回数(回)	外泊回数(回)
令和4年4月	22	0	0
5月	18	0	0
6月	14	0	0
7月	6	0	0
8月	10	0	0
9月	12	0	0
10月	6	0	1
11月	7	0	0
12月	18	0	0
令和5年1月	8	0	0
2月	8	0	0
3月	15	0	0
合計	181	0	1

※窓越し面会は数に含まず

(4) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和4年5月1日	えん開設記念日	そら・はなリビング
令和4年6月 日	花壇整備	えん庭
令和4年5月8日	母の日	そら・はなリビング
令和4年6月19日	父の日	そら・はなリビング
令和4年7月29日	焼肉際	そら・はなリビング
令和4年8月5日	夕涼み会	駐車場
令和4年9月22日	味覚祭	そら・はなリビング
令和4年9月20日	敬老祝い	そら・はなリビング
令和4年10月24～26日	りんご湯	浴室
令和4年11月25日	新そば祭り	そら・はなリビング
令和4年12月14日	忘年会	そら・はなリビング
令和4年12月21～23日	ゆず湯	浴室
令和4年12月24日	クリスマス会	そら・はなリビング
令和5年1月1日	書初め	そら・はなリビング
令和5年2月3日	豆まき	はなリビング
令和5年3月3日	ひな祭り	はなリビング

(5) リーダー会議 (計 11 回)

月日	議題内容	参加人数
令和4年4月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(観葉植物購入について、各担当清掃について、ほのぼのの検討案について、委員会編成について)・スタッフマネジメント	10名
令和4年5月25日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(ほのぼのについて)・スタッフマネジメント	10名
令和4年6月29日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(ほのぼのについて)・スタッフマネジメント	10名
令和4年7月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	10名
令和4年8月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	11名
令和4年9月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(環境について)・スタッフマネジメント	11名
令和4年10月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	11名
令和4年11月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(水分不足者について)・スタッフマネジメント	11名
令和4年12月13日	・令和4年度事業計画策定会議	8名
令和5年1月25日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(水分不足者について)・スタッフマネジメント	11名
令和5年2月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	11名

令和5年3月29日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	11名
-----------	--	-----

(6) 特養会議 (計 12回)

月 日	議題内容	参加人数
令和4年4月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開について・その他(加湿器について、ほのぼのについて)	10
令和4年5月2日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(ほのぼのについて、勤務時間数について、各委員会の編成について)	9名
令和4年6月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(ほのぼのについて、PPE着脱練習)	9名
令和4年7月4日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(食中毒予防研修、換気扇フィルターについて、食事の際のおしぼりについて、PPEの着脱練習)	12名
令和4年8月1日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(家族の手紙について、メールボックスの使用方法について、PPE着脱練習)	11名
令和4年9月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(新しい入居者担当について、衣替えについて、ほのぼのの排泄状況の見方について、PPE着脱練習)	11名
令和4年10月3日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他(感染予防研修、パット形態の検討、パット変更の引継ぎについて、PPE着脱練習)	9名
令和4年11月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモ	12名

	ラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（加湿器の清掃について、オンコールについて、夕方の居室電気について、PPE 着脱練習）	
令和4年12月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（コロナ感染予防について）	13名
令和5年1月10日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（食席変更について）	11名
令和5年2月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（なし）	11名
令和5年3月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（モニタリングシート提出にあたっての注意点、R5年度口腔ケア強化について）	11名

(7) 給食会議（計11回）

月日	議題内容	参加人数
令和4年4月21日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（5月のオペレーションについて）	10名
令和4年5月19日	・栄養士欠席のため未実施(他事業所コロナウイルスクラスター対応のため)	0名
令和4年6月27日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(食中毒研修、スタッフ休暇延長について)	9名
令和4年7月21日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(今後の予定について、スタッフ休暇延長について、冷蔵庫の霜とりについて)	10名
令和4年8月18日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(冷蔵庫の霜とりについて、生ごみバケツについて)	7名
令和4年9月22日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(人事関係について)	9名
令和3年10月19日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等に	5名

	について・衛生面について・行事・その他（感染予防研修）	
令和4年11月24日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(調理場の年末掃除について)	7名
令和4年12月22日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(スタッフ休暇延長について)	8名
令和5年1月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（なし）	7名
令和5年2月16日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（生ごみバケツの新聞紙の入れ方について、介護スタッフへのお願い）	6名
令和5年3月30日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(令和4年度施行調査結果について、人事関係、小規模スタッフへのお願い)	8名

(8) 入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
医療センター	神経内科	精査・RH	4月1日	4月14日	13
市立HP	皮膚科	蜂窩織炎	4月21日	5月2日	10
医療センター	呼吸器内科	誤嚥性肺炎	10月27日	12月2日	35
医大病院	ER	低体温	11月5日	11月18日	13
医療センター	消化器内科	虚血性腸炎	11月8日	11月15日	6
医療センター	呼吸器内科	脳梗塞	11月17日	12月23日	36
三愛病院	内科	肺炎	11月18日	2月16日	89
森山病院	内科	誤嚥性肺炎	11月24日	1月4日	40
医療センター	呼吸器内科	上気道感染	12月20日	1月6日	16
医療センター	呼吸器内科	低O ₂ ・CO ₂ ナルコーシス	2月21日	3月31日	38
旭川赤十字病院	SCU	誤嚥性肺炎	2月26日	3月1日	3
					299

(9) 通院状況

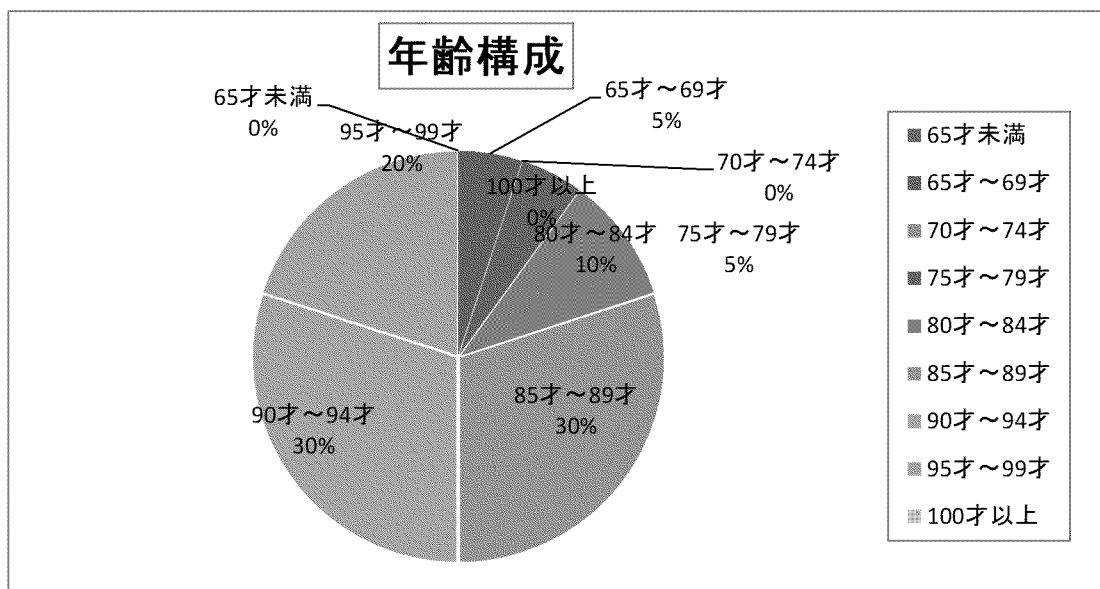
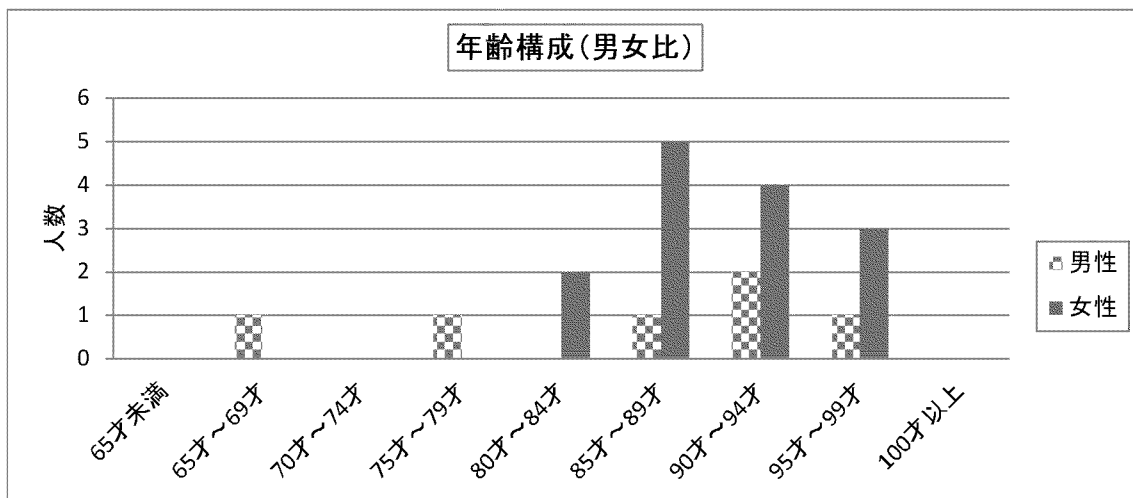
病院名	診療科目	計（人）	病院名	診療科目	計（人）
浅井医院	内科	6	旭川脳神経外科病院	救急外来	1
旭川赤十字病院	脳神経外科	2		脳神経外科	1
市立旭川病院	皮膚科	22	森山メモリアル病院	リハビリ科	14
旭川医療センター	神経内科	7	森産婦人科病院	婦人科	1
	救急外来	1	圭泉会病院	精神科	1
旭川医大病院	皮膚科	6	林歯科医院	歯科	26
厚生病院	整形外科	1	もとまち皮膚科CL	皮膚科	9
森山病院	外科	3	たかはし整形外科CL	整形外科	6
	脳神経外科	8	なかの呼吸器内科CL	呼吸器内科	6
	整形外科	4	片山整形 CL	整形外科	4
	内科	3	永山腎泌尿器科CL	泌尿器科	3

令和4年度 地域密着型特別養護老人ホーム
ぬくもりの家えん
現況報告書

(自：令和4年4月1日 ～ 至：令和5年3月31日)

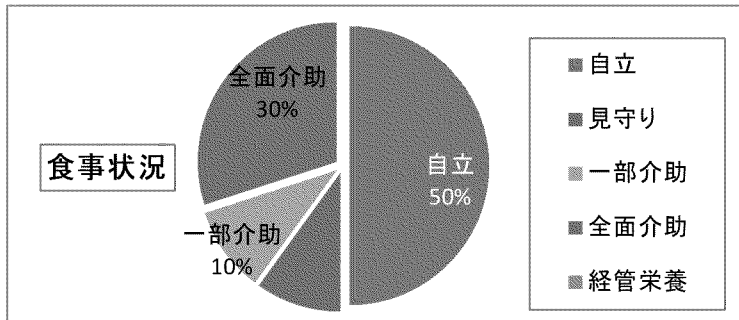
1.入居者年齢構成(令和5年3月31日現在)

	在籍者			【最高年齢】 男性 95歳 女性 96歳 【最低年齢】 男性 67歳 女性 82歳 【平均年齢】 男性 84.8歳 女性 88.7歳 全体 87.5歳
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	
65才～69才	1	0	1	
70才～74才	0	0	0	
75才～79才	1	0	1	
80才～84才	0	2	2	
85才～89才	1	5	6	
90才～94才	2	4	6	
95才～99才	1	3	4	
100才以上	0	0	0	
計	6	14	20	



2.食事状況(令和5年3月31日現在)

	自立	見守り	一部介助	全面介助	経管栄養	合計
男性	1	2	0	3	0	6
女性	9	0	2	3	0	14
合計	10	2	2	6	0	20



3.移動状況(令和5年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性	0	1	0	0	1	0	4	6
女性	0	0	0	1	2	2	9	14
合計	0	1	0	1	3	2	13	20

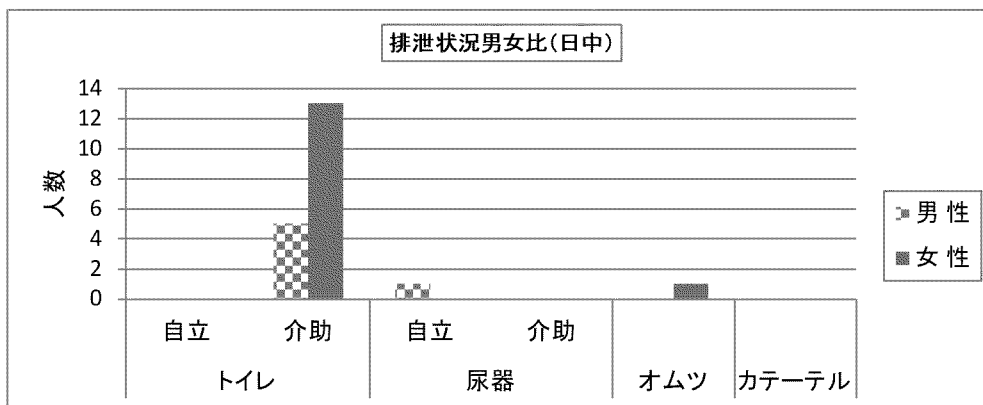
4.入浴状況(令和5年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	0	2	4	6
女性	0	6	8	14
合計	0	8	12	20

5.排泄状況(令和5年3月31日現在)

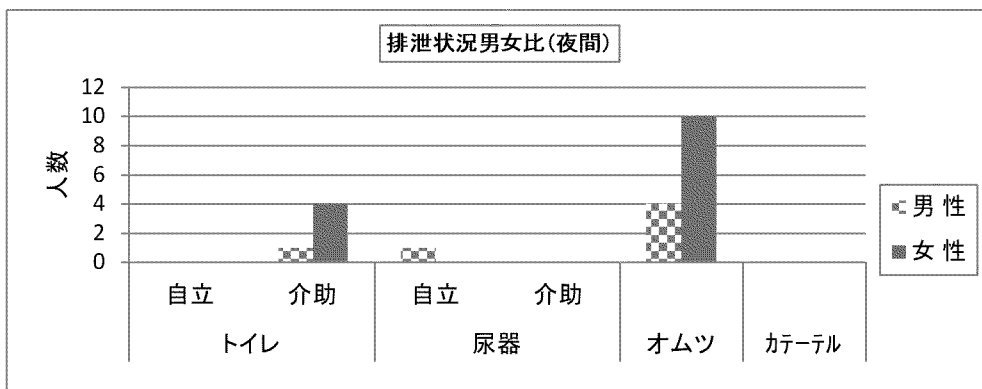
日中

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	5	1	0	0	0	6
女性	0	13	0	0	1	0	14
計	0	18	1	0	1	0	20



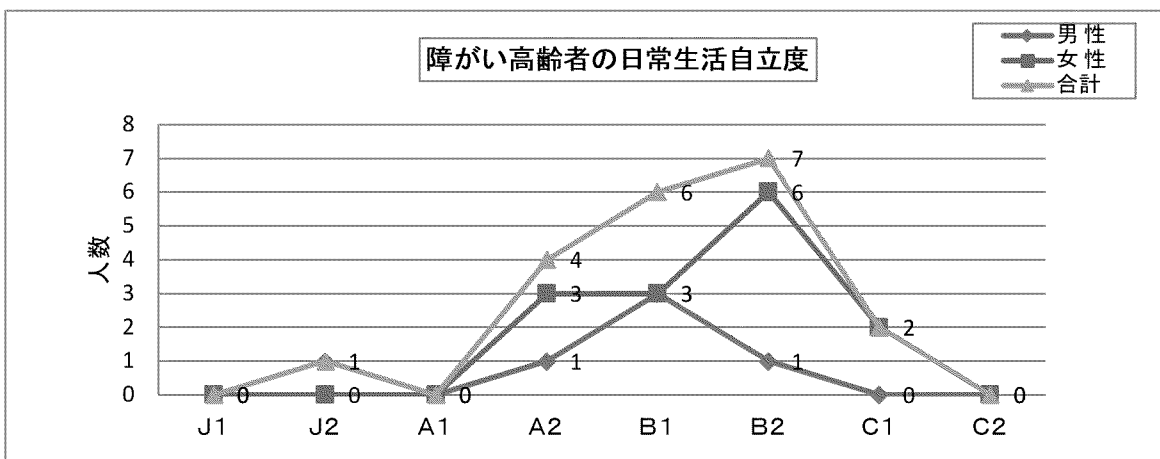
夜間

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	1	1	0	4	0	6
女性	0	4	0	0	10	0	14
計	0	5	1	0	14	0	20



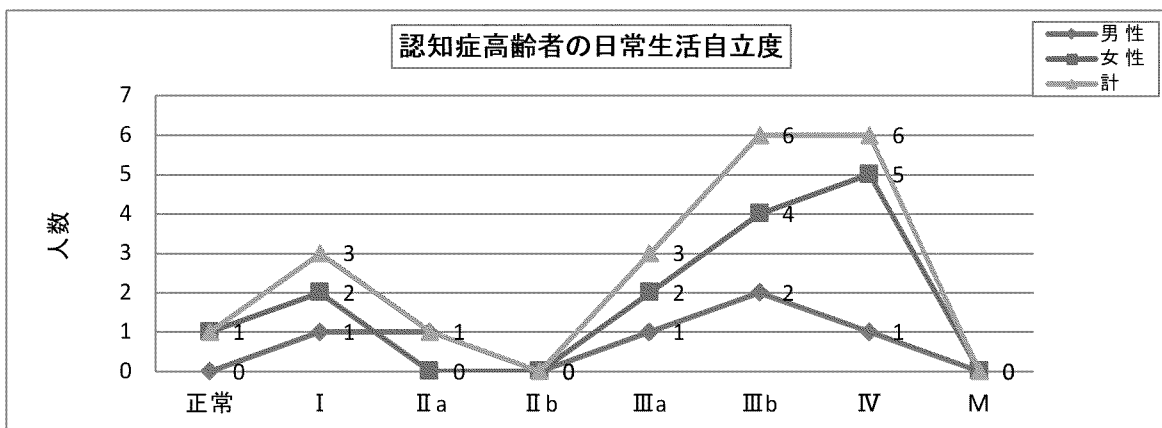
6. 身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男性	0	1	0	1	3	1	0	0	6
女性	0	0	0	3	3	6	2	0	14
合計	0	1	0	4	6	7	2	0	20



7. 認知症状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

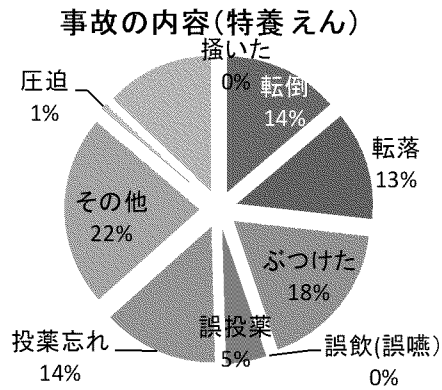
	正常	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	計
男性	0	1	1	0	1	2	1	0	6
女性	1	2	0	0	2	4	5	0	14
計	1	3	1	0	3	6	6	0	20



8.事故の状況

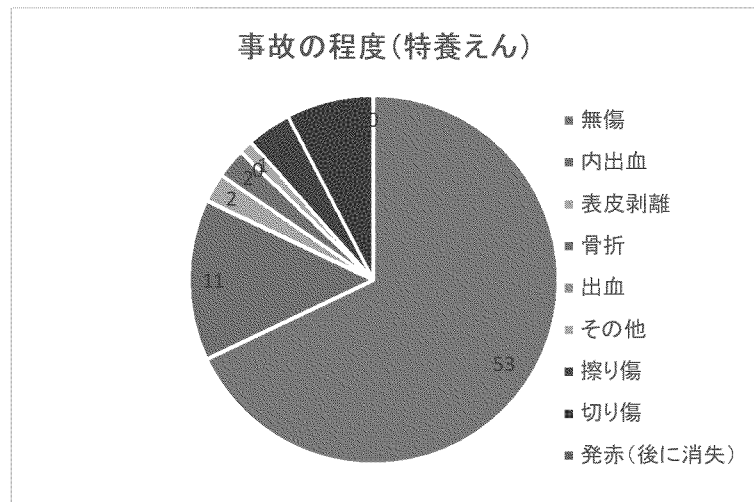
(1)内容

内 容	件数
転倒	31
転落	21
ぶつけた	7
誤飲(誤嚥)	0
誤投薬	0
投薬忘れ	8
異食	0
その他	5
圧迫	2
搔いた	0
不明	4
	78



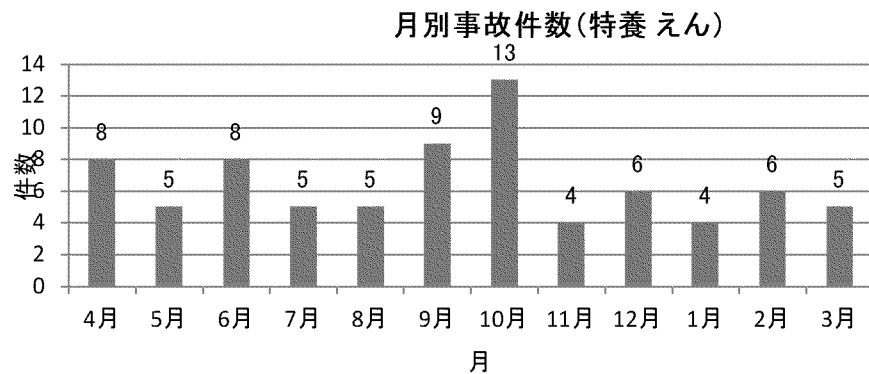
(2)程度

内 容	件数
無傷	53
内出血	11
表皮剥離	2
骨折	2
出血	0
その他	1
擦り傷	3
切り傷	6
発赤(後に消失)	0
	78



(3)月別発生件数

発生月	件数
4月	8
5月	5
6月	8
7月	5
8月	5
9月	9
10月	13
11月	4
12月	6
1月	4
2月	6
3月	5
	78



令和4年度 部門(事業)別活動計画

部門(事業)名 地域密着特別介護老人ホーム ぬくもりの家 えん

[評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待以上の結果 C:アクションした結果が十分、D:まったくアクションなし ※ゴマを特定化し、証がみえる表現とする。

事業目標 その運動	取組内容	実施 担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴマ (達成目標)	最終 評価	詳細内容
12	①介護職員の期間を担当者が行い、 個々の生活が様々かかちあつて楽しくある事 からしつくり。	計画 松原主任 松原主任	介護職員の 期間の継続 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	B	・常勤職員全員が介護職員の期間に 取り組む、実施することができた。
13	知識・技術の専門性を伸ばし、 働きがいのある職場をつくり、 ①介護職員の期間を担当者が行い、 個々の生活が様々かかちあつて楽しくある事 からしつくり。	計画 松原主任 松原主任	介護職員の 期間の継続 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	B	・研修介護研修はオンラインを使用 する。また、研修参加することができ、 知識・技術向上に繋がった。
14	①目標を明確にし、研修(OT内容)の 個人差をいかに解消し、安心して仕 事ができるような新入職員を育成。	計画 松原主任 松原主任	1週間毎の 面談 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	終了	・新任職員の退職ゼロ。
15	②業務改善に取り組んで働く職場 をつくる。	計画 松原主任 松原主任	業務改善(以 下)実施 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	B	・オペレーションの見直しを行う事で 業務改善ができた。また、職員の悩み などに対して、早急な対応ができた。
16	③介護負担の軽減・業務の効率化を図 るため、介護ロボット等の導入はICT、 IoT化の推進。	計画 松原主任 松原主任	介護ロボットの 導入実施 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	B	・ほとんどの運用は全介護職員に定 着。 ・HIS、シムエーション守りセンターの 導入と活用により労働環境の向上、 業務改善ができた。
17	④有給休暇とフレックスタイム制(単体) と3連休の計画的取得を推進。	計画 松原主任 松原主任	有給休暇 実施 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	B	・常勤職員全員が3連休と取得でき る。 ・3連休の計画的取得の推進
18	⑤介護職員の期間を担当者が行い、 個々の生活が様々かかちあつて楽しくある事 からしつくり。	計画 松原主任 松原主任	介護職員の 期間の継続 実施	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	実施	C	・稼働率92.9% ・入居人数29日間(106) ・入居者の満足度向上 ・退居者の満足度向上 ・新たな介護職員の確保

令和4年度 小規模多機能ホームぬくもりの家えん事業報告

1. 総括

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』を基本方針とし、①感染症対策を継続し、コロナ禍でも充実した小規模多機能サービスを提供する②ICT・IOTの活用により、ケアの質の向上および職場環境の改善を図る③適正利益の確保の3つを重点目標として取り組んだ。

①では、基本的な手洗い・うがいの励行、1時間毎の換気および消毒対応を徹底し、日々の体調観察を継続することで集団感染ゼロを達成できた。感染予防対応が長引くことで生じる慣れが気のゆるみにつながることはないよう、引き続き定期的に利用者や同居家族、スタッフへの注意喚起を行う。

昨年度はコロナ禍の影響で、外出や食事を楽しむような行事を中止せざるを得ない状況が続いたが、今年度は花見や買い物ツアー、焼き肉昼食会といったコロナ前に楽しめていた行事を再開することができた。今後も感染症対策を万全にしながら、外へ出て季節や交流を楽しむことのできる行事を取り入れていく。てくてくでの喫茶も定期的（月1回）に開店できるようになり、秋には3年ぶりに朝市の収穫祭も開催し、活気あふれる空間と地域住民との交流を楽しむことができた。

②については、本格的なICTの導入により、当初は操作に慣れず戸惑うスタッフも見受けられたが、機能を上手く使うことでデータの収集や活用の幅が広がり、結果として業務の効率化につながっている。また、データをケアに活かすことで、利用者に対しより質の高いケアを提供することができた。

事故に関しては「昨年度より事故件数20%減少」と「薬に関する事故を30%減少」を目標に取り組んだが、結果は昨年度の事故件数と変わらず18件であった。薬の事故に関しては、10件が9件とほぼ横ばい状態の結果であった。同じ利用者に対して、ひと月の間に薬の事故が重なったこともあり、薬の事故に対する危機感の薄さが露呈した。どうすれば同様の事故を防げるかといった対応面の周知・徹底の他に、副作用も含めた薬の重要性について学ぶ場を会議等で設け、命に関わるものだという意識を持てるようすすめる。

③適正利益確保については、目標平均登録者数を23.5名としたが、平均登録者数22.8名と目標には及ばず。介護保険事業収入は64,886,184円（前年比+99.9%）と、昨年を下回っている。

新規利用者は7名で、全て法人居宅および地域包括支援センターからの紹介による移行だった。停止者11名のうち5名は併設の地域密着型特養へ入居することができた。今後も地域への周知活動を精力的に取り組み、居宅・医療機関等と連携を図りながら、新規利用者および待機登録者の確保に努める。

その他働きやすい職場づくりの取り組みでは、リフレッシュ休暇（8日間）と有給取得を計画・実施することができた。また、ICTの導入・活用が日々の業務の効率化につなが

り、気持ちの面でもゆとりを持って業務に取り組むことができるようになった。

2. 次年度に向けて

令和5年度も『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』を基本方針に、引き続き新型コロナウイルス等の感染症予防に取り組み、集団感染ゼロを目指す。また、介護過程の展開に取り組み、利用者のみならずスタッフもやりがいや達成感、楽しみを感じられる暮らしづくりに努める。

引き続き ICT を活用した職場環境改善を図り、楽しくやりがいを持って働くことのできる職場づくりを目指す。

適正利益確保のため、引き続き平均登録者数 23.5 名を目標に掲げる。待機登録者を増やし、停止者・終了者が出てスムーズな受け入れができるよう、待機登録者の状況把握を行うことで登録の空きを最小限にし、安定した運営につなげる。地域ケア会議等で法人居宅や包括支援センター、法人ヘルパーステーションとの情報共有を密にするとともに、旭川市内の病院や老人保健施設の相談室との連携を通して、小規模多機能サービスを必要としている方に対し、迅速かつ適切なアプローチができるよう努める。

3. 運営状況・統計資料

<事業活動の統計・データ>

(1) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月6日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・家族からの苦情・マナーモラル	8名
5月11日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・家族からの要望・胸水について	6名
6月8日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・えん内の感染症対策について	8名
7月6日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・脱水について	7名
8月3日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・感染症ワクチン注射の副反応について	8名
9月8日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・連絡帳の記入について	7名
10月7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・在宅のターミナルについて	8名
11月2日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・ほのぼのの記録漏れについて	8名

12月7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・感染症対策について	8名
1月12日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・インフルエンザについて・体重の増減について	9名
2月8日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・医療関係・新規利用者アセスメント・スタッフの体調について	8名
3月8日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・医療関係・ヒヤリハットの検証	9名

(2) 小規模多機能ホーム行事活動報告

月 日	行 事 名	場 所
5月1日	開設記念日	てくてく
5月4日～6日	花見	パレットヒルズ・療育園
6月11日	花壇整備	
8月30日・31日	えんまつり	てくてく
9月26日	収穫祭	リビング
10月24日・28日	買い物ツアー	ツルハドラッグ
10月17日～19日	りんご湯	小規模浴室
12月21日～23日	ゆず湯	小規模浴室
12月24日	クリスマス会	てくてく
12月27日	忘年会	てくてく
1月5日・6日	初詣	鷹栖神社
2月2日・3日	豆まき	てくてく
3月3日	ひな祭り	小規模リビング

令和4年度 小規模多機能ホーム

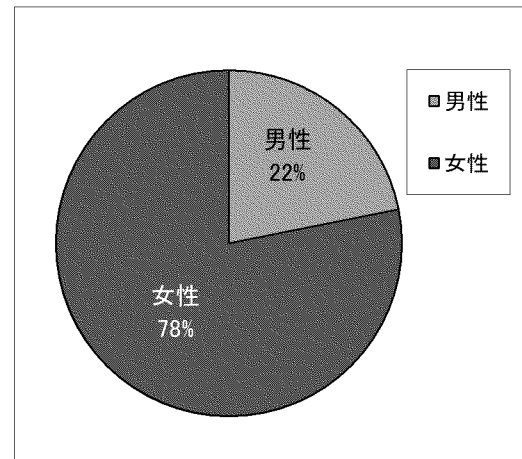
ぬくもりの家えん

現況報告書

(自：令和4年4月1日 ～ 至：令和5年3月31日)

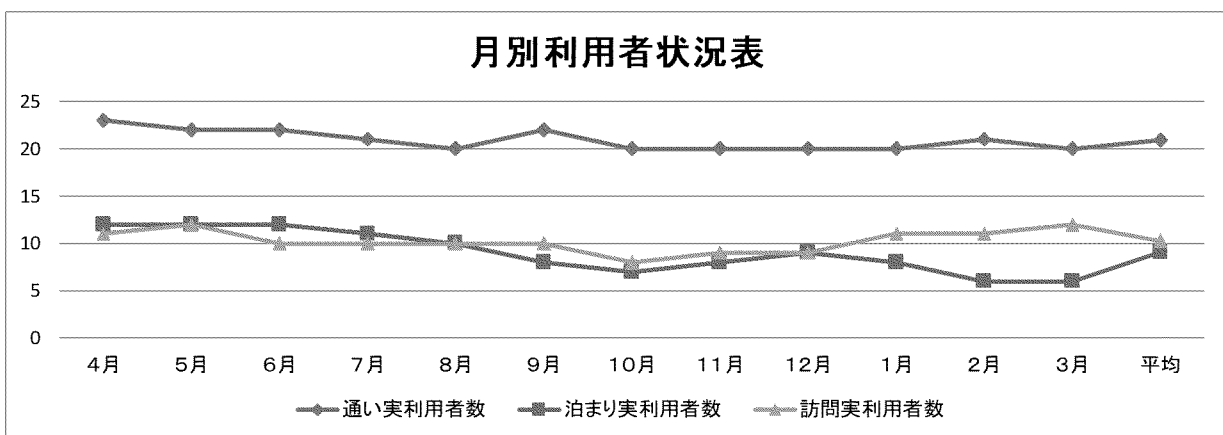
1. 利用登録者（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

男性	女性	合計
7	25	32



2. 月別利用者状況

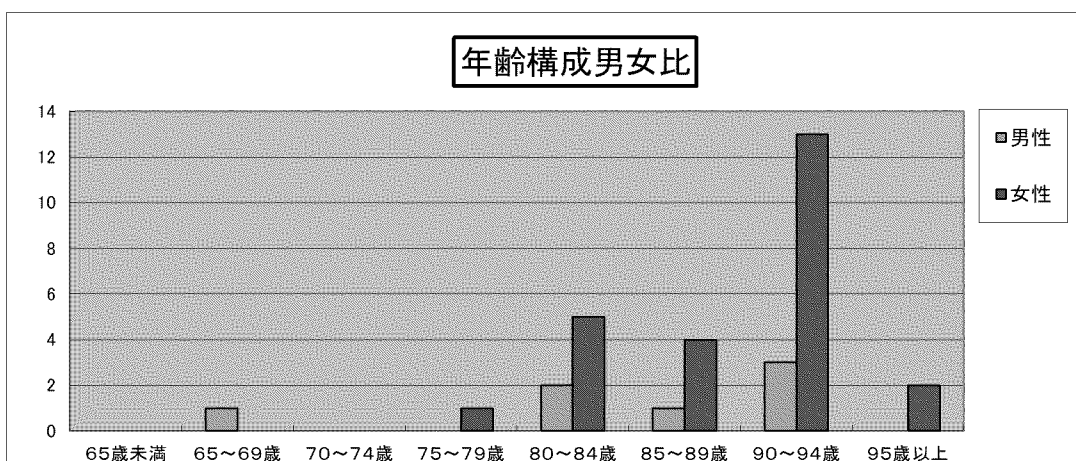
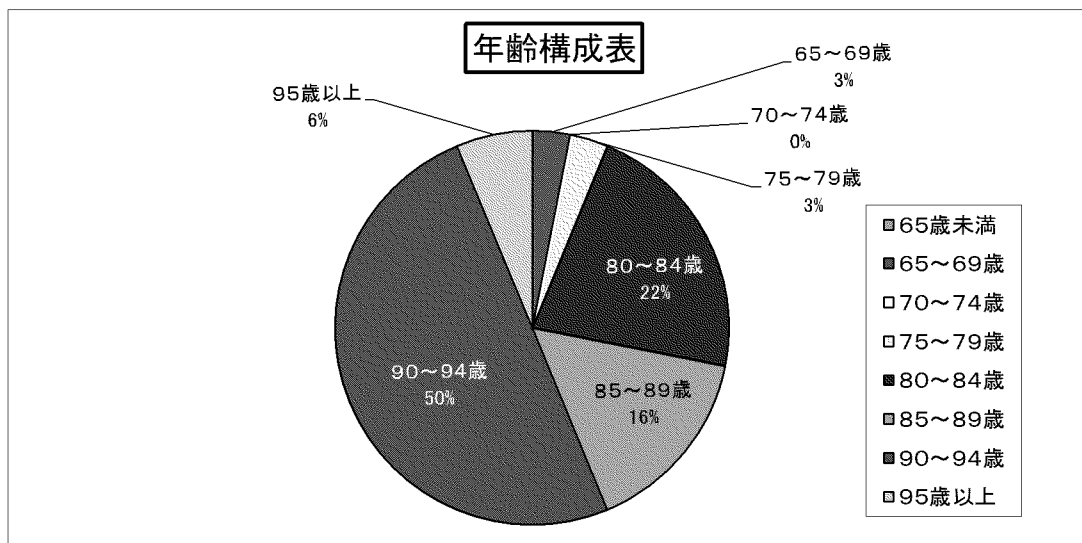
月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	休止者	停止者
4月	23	12	11	2	1	0
5月	22	12	12	2	1	1
6月	22	12	10	1	1	1
7月	21	11	10	2	0	3
8月	20	10	10	0	0	0
9月	22	8	10	2	0	1
10月	20	7	8	1	1	0
11月	20	8	9	2	0	1
12月	20	9	9	2	0	1
1月	20	8	11	1	0	1
2月	21	6	11	1	0	0
3月	20	6	12	2	0	2
平均	21	9	10	2	0	1



3. 年齢

(令和5年3月31日 現在)

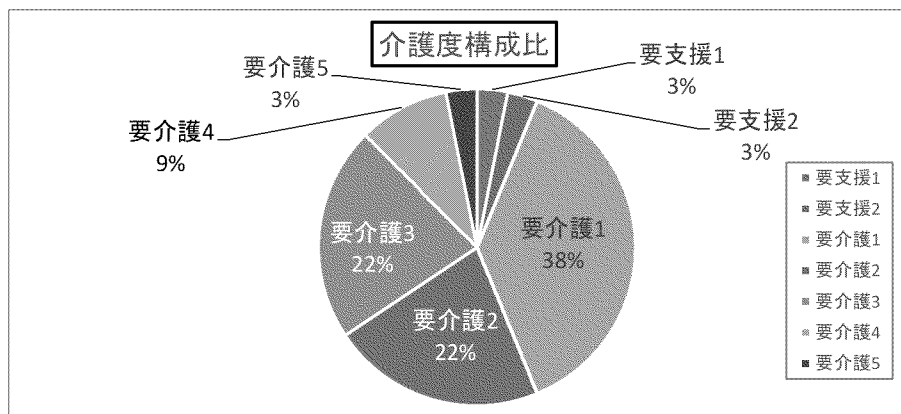
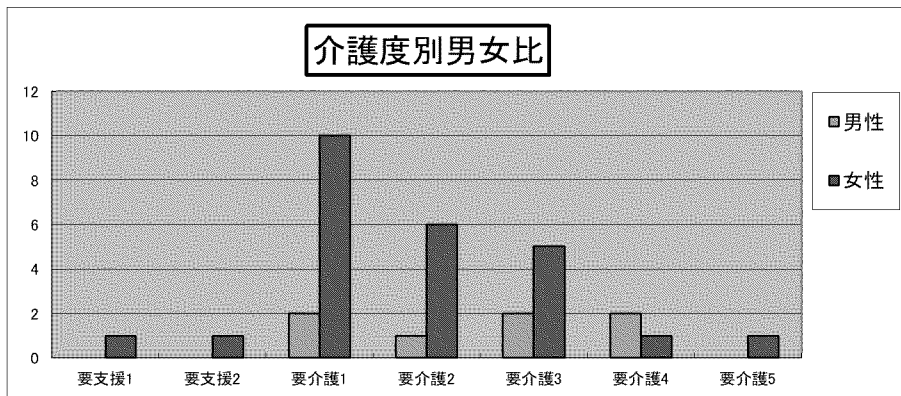
	男性 (人)	女性 (人)	合計 (人)
65歳未満	0	0	0
65～69歳	1	0	1
70～74歳	0	0	0
75～79歳	0	1	1
80～84歳	2	5	7
85～89歳	1	4	5
90～94歳	3	13	16
95歳以上	0	2	2
合計	7	25	32
平均年齢	85.9歳	88.7歳	87.3歳
最高年齢	94歳	99歳	
最低年齢	67歳	79歳	



4. 要介護度別

(令和5年3月31日 現在)

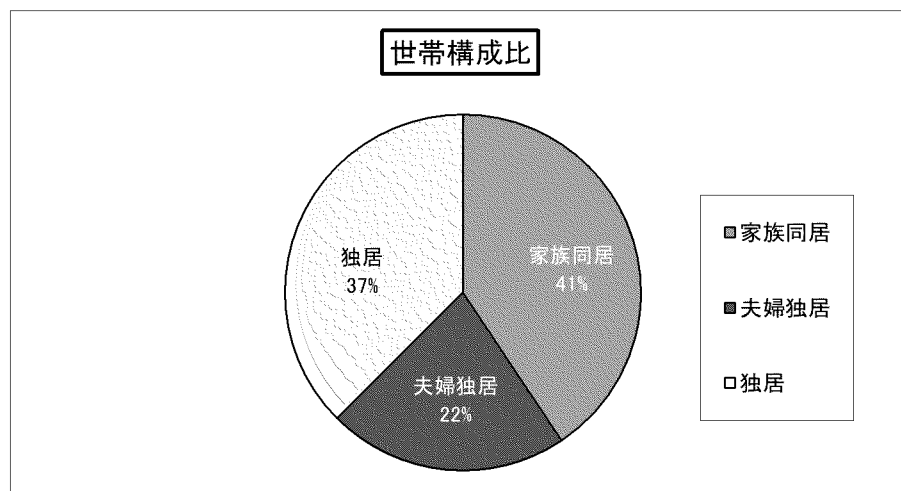
	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	3%
要支援2	0	1	1	3%
要介護1	2	10	12	38%
要介護2	1	6	7	22%
要介護3	2	5	7	22%
要介護4	2	1	3	9%
要介護5	0	1	1	3%
合計	7	25	32	100%



5. 世帯構成

(令和5年3月31日 現在)

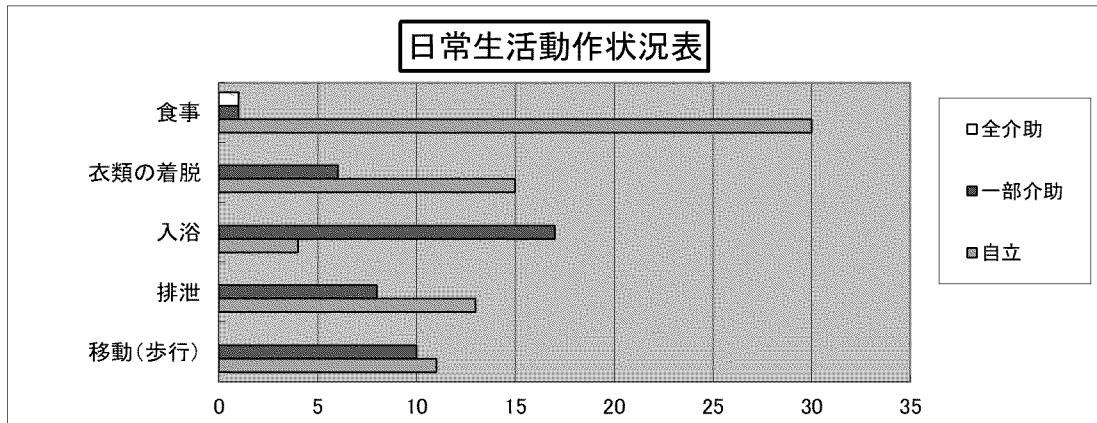
家族同居	夫婦独居	独居	合計
13	7	12	32



6. ADL(日常生活動作)状況

(令和5年3月31日 現在)

	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	11	10	0	21
排泄	13	8	0	21
入浴	4	17	0	21
衣類の着脱	15	6	0	21
食事	30	1	1	32



7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

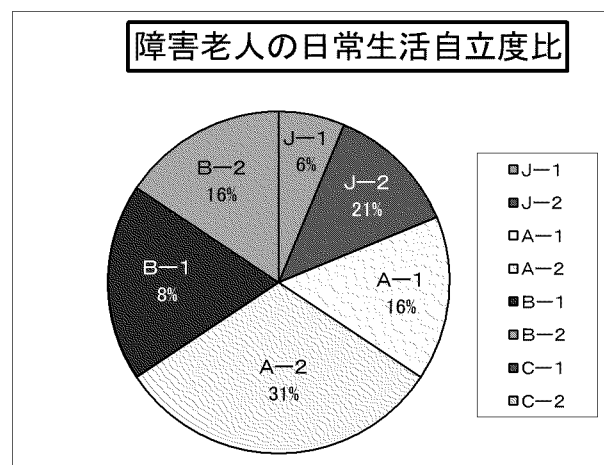
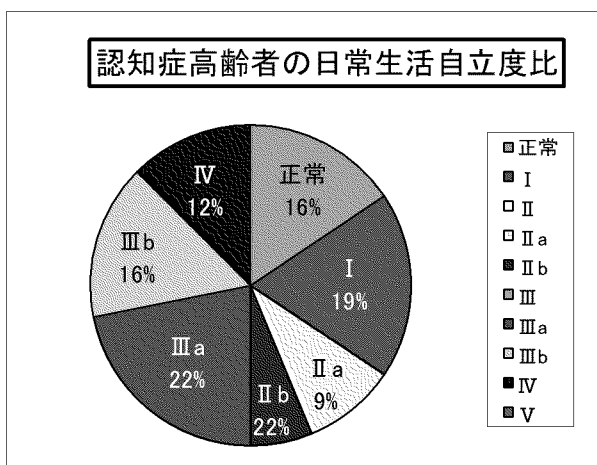
(令和5年3月31日 現在)

認知度	人数
正常	5
I	6
II	0
II a	3
II b	2
III	0
III a	7
III b	5
IV	4
V	0
合計	32

8. 障害老人の日常生活自立度

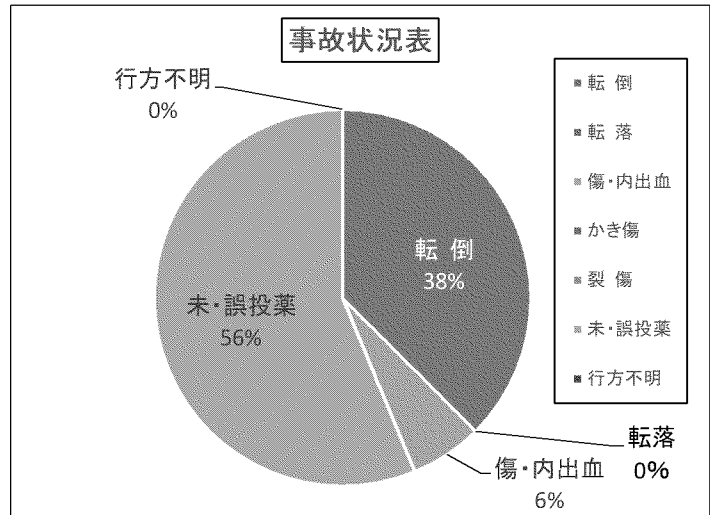
(令和5年3月31日 現在)

自立度	人数
J-1	2
J-2	4
A-1	5
A-2	10
B-1	6
B-2	5
C-1	0
C-2	0
合計	32



8. 事故状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

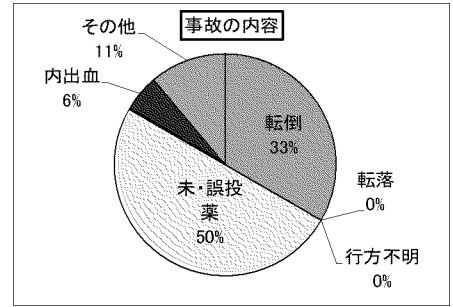
内容	件数
転倒	6
転落	0
傷・内出血	1
かき傷	0
裂傷	0
未・誤投薬	9
行方不明	0
その他	2
合計	18



令和4年度 事故発生状況

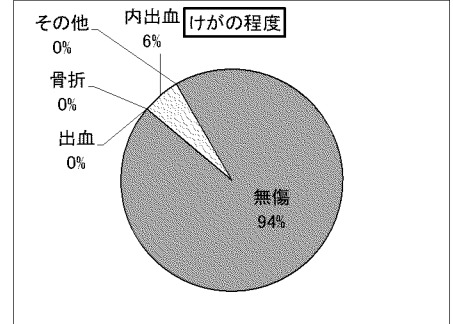
【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	6	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0
転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行方不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未・誤投薬	9	1	1	0	0	0	2	0	1	0	3	1	0
内出血	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
合計	18	2	3	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0



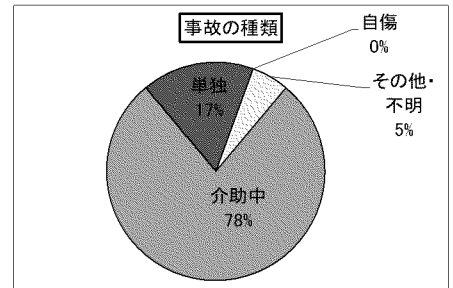
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	17	2	2	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内出血	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
やけど	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫れた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	18	2	3	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0



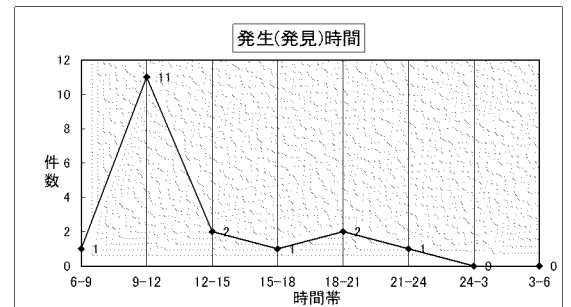
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	14	2	2	0	1	0	2	0	1	2	4	0	0
単独	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他または不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	18	2	3	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0



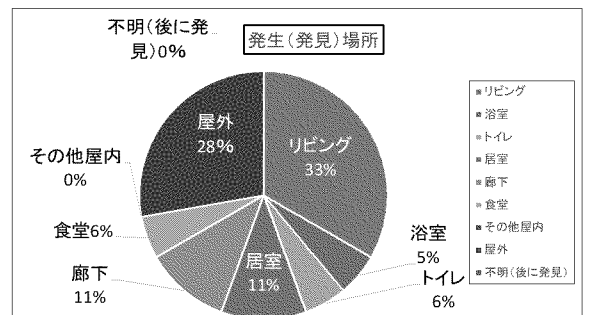
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
9-12	11	2	2	0	1	0	2	0	1	0	2	1	0
12-15	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
15-18	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18-21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
21-24	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
24-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	18	2	3	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0



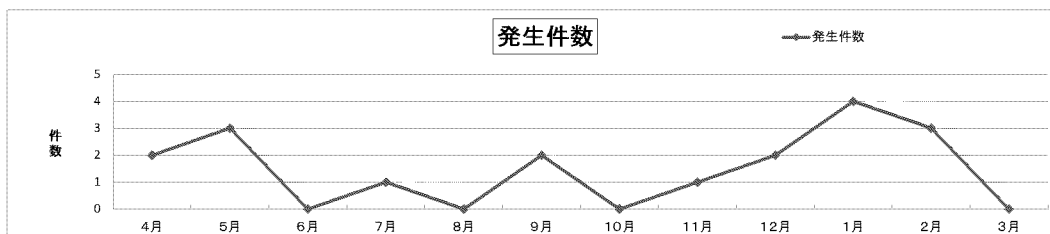
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リビング	6	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
浴室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
トイレ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
居室	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
廊下	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
食堂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
その他屋内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
屋外	5	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0
不明(後に発見)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	18	2	3	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	18	2	3	0	1	0	2	0	1	2	4	3	0
(受診をした件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



令和4年度 サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針に取り組んだ。

入居者のADL・QOLの向上については、平均要介護度でみると昨年度の1.22に対し、今年度は1.12と改善した。あったかす体操・たかほ職員によるボランティアでの体操教室・支援員による昼食前の短時間の体操と嚥下体操を継続できた事がADL維持に繋がったと考える。また、併設のフィットネス倶楽部を新規入居者も含め11名と、入居者の61%が継続的に利用されていることも大きな要因である。

事故については、昨年度17件に対し6件と65%減少した。しかし、内3件は日中でスタッフがいない中での事故であり、環境等の配慮により避けることが出来た事故だった。他の3件は単独事故で、目の行き届かない場所（自室内）での発生だった。骨折に至らないも、6件全てが転倒事故だった。

新型コロナウイルス感染症の流行が継続しており、全入居者の検温、館内消毒及び、出入りする業者を含めた来訪者と全スタッフへの手洗い・うがいの励行、手指消毒、体調管理およびマスク着用の周知・徹底に努めた。これにより、入居者のインフルエンザ及び新型コロナウイルスの罹患はなかった。

令和2年新型コロナウイルスの流行から、家族交流の機会となるものは中止していた。今年度は、懇談会を再開し、職員とご家族との意見交換とたかほの運営への協同として、年2回の清掃とプランター植えを入居者と一緒に実施した。

入院については年間の延べ入院者数は7名以内、年間入院延べ日数を100日以内とすることを目標に取り組んだ。延べ入院者数は年間で6名であったが、年間入院延べ日数は176日と目標は達成できなかった。1名は主疾患の悪化、もう1名は脳梗塞発症で、2名とも退居となった。

退去者については昨年度7名だったが、今年度は体調管理とADL維持・環境整備を行い、各サービスとかかりつけ医との情報共有・連携によるものと考えられる。

入居者の楽しみづくりとして、季節の創作物、あったかす体操指導士の協力を得て実施した「たかほリンピック（ゲーム）」や、花火の会、北野サロンでの創作物の展示などを行った。また、地域の協力を得ながら行事が実施出来、入居者の新しい楽しみづくりに繋がった。中でも、花火の会では、北野東町内会の協力を頂き、町内回覧にて周知し、お子様と一緒に7家族の参加が得られた。また、3年ぶりに開催された地域行事の「きたの縁日」にも参加し、こども達との交流を楽しむことが出来た。

認知症総合支援事業として「認知症カフェ（デコぼん茶屋）」、「ちょっと大丈夫かな食堂」の委託を受けた。「認知症カフェ」については、職員・入居者の感冒症状等から3回中止となったが、9回開催することが出来た。元看板屋をされていた参加者にポスター作成を依頼するなど、参加者の得意とするものの表出の場や役割づくりを行えた。「ちょっ

と大丈夫かな食堂」については、鷹栖町社会福祉協議会と共同し、地域住民と共に計画した。感染対策とスタッフ側の丁寧な対応が出来ることを目指して、限定 10 食で開催した。たかほ入居者 4 名がスタッフとして対応し、緊張はありながらも楽しく参加され充実されていた。

地域貢献を目的に、地域住民を対象に昼食弁当を計画し、外出機会・他者との交流機会のきっかけづくりとして、令和 4 年 12 月より週 3 回、1 日 5 食限定で実施した。4 家族の登録があり、定期的な利用がされている。

また、認知症予防としては、令和 5 年度より、たかほ入居者と地域住民対象に学習療法を開始予定し、本年度は地域住民の学習療法サポーターの研修を 8 名に実施した。

適正利益の確保については、平均稼働率は 99.1%と目標の 97%を達成した。待機登録者は最大で 4 名いたが、保留の返答者も多かった。昨年度、上川管内の地域包括支援センターへパンフレット送付の PR 活動を行った。その効果からか上川管内居住者から地域包括支援センターから紹介を受けたと問い合わせが 2 件あった。申し込みには繋がらなかったが、今後も継続した PR 活動を行っていく必要性を感じた。また、入居申込者への定期的な状況確認と意向確認を行っていくこととする。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度に向けては、自立した生活が継続出来るよう、今年度同様 ADL・IADL・QOL の維持向上に努める。入居者が安心して長く暮らせる住宅としての機能を維持できるよう、必要なサービスを細かく見極め、迅速な対応を心がける。

楽しみ・役割のある暮らしづくりとして、各種行事がコロナ禍前に戻し、地域住民やサロンと連携しながら、個々の能力や興味のある事柄を見定めて活躍の場を提供する。また、町内会との行事の計画、サロンへの作品展示も継続する。

健康管理においては、継続した体調管理と変化に気づける視点を持ち、他事業所との連携を密にしながら入居者個々の健康面のサポート強化に努める。

事故に関しては骨折に至る事故ゼロを目指し、身体機能維持に向けた運動機会の確保とフィットネスクラブの新規登録者数の増加と継続を目指す。また、訪問リハビリや、福祉用具専門相談員、法人 PT の協力を得ながら個々の生活環境の見直しを適宜行いたい。

地域貢献として、昨年度より実施している昼食弁当は、1 日 5 食だったが 7 食とし、より多くの住民に活用していただきフレイル予防としていきたい。

また、学習療法は、たかほ入居者・地域住民へ周知し希望者へ実施し、認知症進行予防を行っていく。

適正利益の確保については、安定した待機登録者の確保と、次期入居者への打診を迅速に行うことにより空室期間の短縮を目指す。入居者確保のため、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所への営業活動を計画的に実施し、18 名の入居を必達・維持することを目指す（目標稼働率 97%、17.5 戸）。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績報告

①入居率

目標入居率 (A)	実際入居率 (B)	達成率(B)/(A)×100
17.5名	17.8%	105.4%

②事業収入

目標収入 (A)	実際収入 (B)	差異(B)－(A)
24,076,000円	25,563,659円	1,487,659円

(2) 行事

日時	行事名	場所
令和4年4月20～30日	季節の壁飾り (桜)	食堂
令和4年5月13日	家族懇親会	食堂
令和4年5月22日	町内会花植え	町内会花壇
令和4年6月8日	花壇整備	たかほ花壇
令和4年6月10～20日	季節の壁飾り (紫陽花)	食堂
令和4年8月6日	七夕&花火の会	たかほ駐車場
令和4年10月1～7日	季節の壁飾り (紅葉)	食堂
令和4年 11月20～28日	来年の干支づくり	食堂
令和4年12月24日	クリスマスケーキの会	食堂
令和5年1月15～28日	コットンボールと ランプシェードづくり	食堂
令和5年2月3日	豆まき	各居室・館内

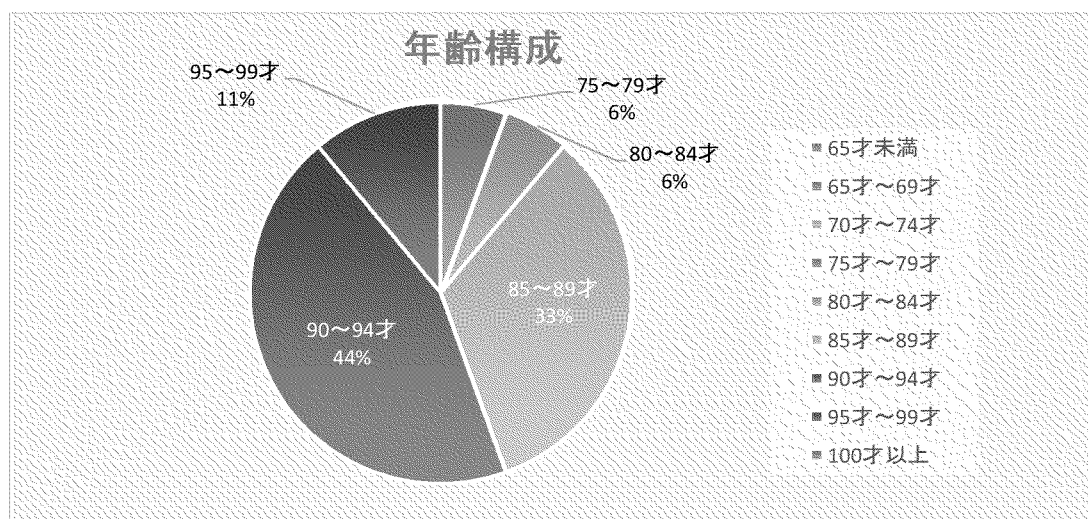
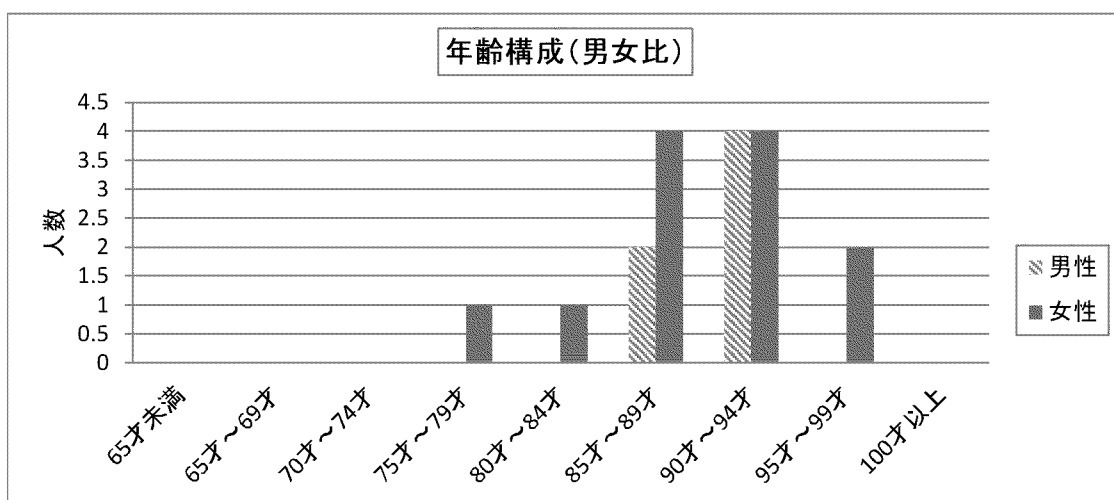
(3) たかほ会議 (計 12回)

月 日	議題内容	参加人数
令和4年4月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 (今年度の活動計画書配布) ・設備管理対応 (自動ドア・エレベーター保守点検・居室ストーブエラーあり東光設備でメンテナンス対応) ・今月、来月の予定 (家族懇親会開催・当直者へのマナーモラル研修について) 	3名
令和4年5月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 (新規入居者等) ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (電気保安点検・厨房ガラス破損) ・今月、来月の予定 	4名
令和4年6月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (厨房ガラス修繕) ・今月、来月の予定 (ほのぼの導入・だいじょうぶかな食堂・町内会入会・学習療法・配食弁当について) 	4名
令和4年7月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (居室扉の開閉音調整依頼) ・今月、来月の予定 (花火の会・救命救急研修・避難訓練・あえーる利用再開について) 	3名
令和3年8月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (水漏れ) ・今月、来月の予定 (新規入居者、救命救急研修等) 	5名
令和3年9月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (2Fトイレリモコン、冬期間の暖房) ・今月、来月の予定 	4名
令和3年10月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (102号室扉、事務所扉、冬期間の暖房等) ・今月、来月の予定 	4名
令和3年11月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (厨房混合栓) ・今月、来月の予定 	3名
令和3年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (漏電) ・今月、来月の予定 	3名
令和4年1月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (漏電、コレカラエアコン) 	5名

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今月、来月の予定 	
令和4年2月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の状況 ・ 事業活動計画進捗状況 ・ 設備管理（厨房漏電の対応について） ・ 今月、来月の予定 	5名
令和4年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の状況 ・ 事業活動計画進捗状況 ・ 設備管理（スチコン専用ブレーカー設置後の不具合について） ・ 今月、来月の予定 	5名

1. 入居者年齢構成(令和5年3月31日現在)

	在籍者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	【最高年齢】 男性 94 歳 女性 99 歳 【最低年齢】 男性 88 歳 女性 77 歳 【平均年齢】 男性 91.3歳 女性 89.2歳 全体 90.2歳
65才～69才	0	0	0	
70才～74才	0	0	0	
75才～79才	0	1	1	
80才～84才	0	1	1	
85才～89才	2	4	6	
90才～94才	4	4	8	
95才～99才	0	2	2	
100才以上	0	0	0	
計	6	12	18	



2.食事状況(令和5年3月31日現在)

	自立	見守り	合計
男性	6	0	6
女性	12	0	12
合計	18	0	18

3.移動状況(令和5年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性	3	0	0	3	0	0	0	6
女性	6	0	3	3	0	0	0	12
合計	9	0	3	6	0	0	0	18

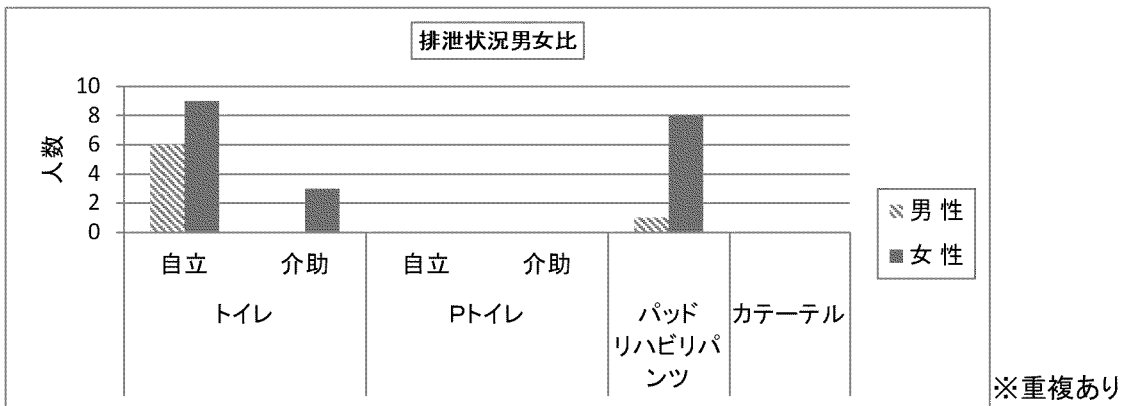
4.入浴状況(令和5年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	3	3	0	6
女性	4	8	0	12
合計	7	11	0	18

5.排泄状況(令和5年3月31日現在)

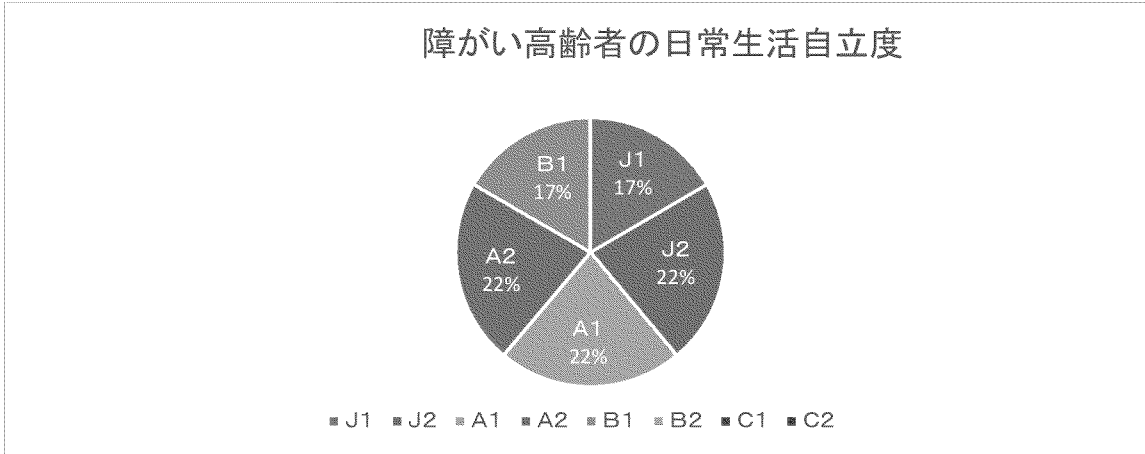
	トイレ		Pトイレ		パッド リハビリパン ツ	カテーテ ル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	6	0	0	0	1	0	7
女性	9	3	0	0	8	0	20
計	15	3	0	0	9	0	27

※重複あり



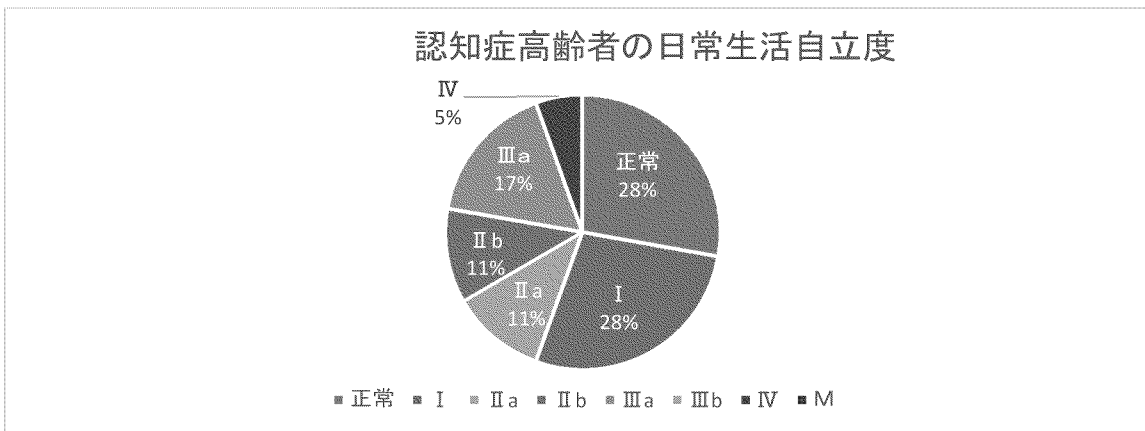
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	不明	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男性	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
女性	0	3	2	3	3	1	0	0	0	12
合計	0	3	4	4	4	3	0	0	0	18



7.認知症(精神)状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

	不明	正常	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	計
男性	0	3	0	1	1	1	0	0	0	6
女性	0	2	5	1	1	2	0	1	0	12
計	0	5	5	2	2	3	0	1	0	18



令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 サービス付き高齢者向け住宅 かくはりの家たかほ

【評価基準】S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 C:アクションした結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、部がみえる表現とする。

事業計画 の連号	重点目標 との連号	取組内容	実施 担当者	中間評価												最終 評価	詳細内容
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
8	(2)	役割のある暮らしの支援 ①入居者の喜みや楽しみにつながるコミュニケーションや行事を計画し、実施する。 ②たかほは自給自足の野菜と畜産の卵、鶏、カボチャをTV、動画ややがいを認める活動にする。	能登 藤原	計画 実施	チャレンジ ブレイク 未実施	たかほ自給自 産野菜 未実施	ごきげす 集まり 未実施	七夕見ゆ 会 未実施	たかほの ピクニック 未実施	たかほの ピクニック 未実施	たかほの ピクニック 未実施	たかほの ピクニック 未実施	たかほの ピクニック 未実施	たかほの ピクニック 未実施	S	車内余の協力や北野中心委員の協力により、地域 住民とつながりあえる行事の実施が期待される。	
9	(4)	新入居者獲得のため の営業+広報活動 強化 ①近隣地域の包括支援センターを訪問し、 認知症の予防活動や認知症の啓蒙活動を行う。 ②ホームページ上で要介護状態の情報を提供 する。定期的にブログをあげ、車庫を併せて ブログを上げる。 ③要介護18名を募集・維持する。	能登 藤原	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	D	車内余の協力や北野中心委員の協力により、地域 住民とつながりあえる行事の実施が期待される。	
10	(4)	適正利益の確保 ①コスト削減をやり、消耗品や光熱費、給費費 の削減に努める。	能登 藤原	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	計画 実施	C	車内余の協力や北野中心委員の協力により、地域 住民とつながりあえる行事の実施が期待される。	

令和4年度鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和4年度も「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」の基本方針に重点をおき取り組んだ。

「良いケア」では利用者のケア向上のため個々のニーズに合わせた支援の中、共に行う支援内容を考えケアの見直しを提案・実践し訪問介護計画書に盛り込むことで、利用者への自立支援を確実に実践していくことができた。また、新規利用時にも訪問介護計画書を滞ることなく作成し、サービスの提供方法の統一を図り、利用者への自立支援の大切さをヘルパー各自が理解しサービス提供を行うことを継続できた。

「良い職場」では、ICTを取り入れ業務の効率化を図ったことで、ペーパーレス化で記録に費やす時間と経費を削減することができた。

「よい経営をみんなの力で創る」では、前年度に引き続き居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化の継続を図ってきた。今年度の満足度調査ではご利用者の96%が、全ての項目で「良い」「概ねよい」との回答をしてくださっていたが、利用者・家族との信頼関係では、安心・満足感を十分に持って頂けない部分もあった。そのため満足度調査の中でも、全ての項目に対し無回答の方が3~4名、「礼儀・態度」がきちんとできていないが1名との意見を頂いた。また職員の言葉遣いに関して苦情へと繋がってしまったこともあったため、言葉遣い・関わり方・伝え方にも留意し次年度は信頼関係の構築により一層取り組んでいく。

コロナ感染予防のため、昨年同様に食事会の開催を断念し、茶話会でも飲食を行わない対応を継続した。また、訪問時の感染予防対策も行い利用者が安心してサービス提供が受けられるよう努めたが、利用者・職員に感染者が出たことで、結果として事業・訪問を余儀なく縮小する結果となった。

業績については、年間訪問件数が令和3年度は10,599件、令和4年度は9,980件と前年度より619件少なかった。月間の目標件数は910件であったが、満たない月が11ヶ月と多くあった。新規利用者数では令和3年度が57名に対し、令和4年度は職員不足から新規を見合わせていたこともあり24名と大幅な減少となった。休止者・停止者も多く件数の伸びには結びつかなかった。次年度も茶話会でのヘルパー周知活動および、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化により努める。

2. 展望(次年度に向けて)

令和5年度も、「良いケア、良い職場、よい経営をみんなの力で創る」ことを目標に掲げ、「良いケア」では、自分たちの知識と技術をケアに活かし利用者主体の支援を展開していく。

「良い職場」では、お互いを認め・補い合いチームとして成長していくことで話しやすく、働きやすい環境をみんなで作る。

「よい経営をみんなの力で創る」ため、ICTを活用しながら、ケア・サービスの向上を図り

「よい経営」を継続し安定した利用者の確保と、適正収益が得られるように更に努めていく。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績

(単位 千円)

目標収益 (A)	実際収益 (B)	達成率 (B)/(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)/(C)×100
39,398	37,342	94 %	39,708	94%

(2) 茶話会開催状況

日程・地区	鷹栖地区	鷹栖地区	春光台	北野地区
	7月24日	7月24日	未実施	未実施
参加人数	7名	16名	未実施	未実施

(3) 個別交流会開催状況

日程		参加人数
随時	コロナ感染による職員不足のため未実施	0名

(4) ヘルパー研修開催状況

開催日	テーマ	講師	参加人数
令和4年 6月23日	食中毒の予防研修	己上	11人
7月27日	救急救命講習	消防	12人
8月25日	苦情対応研修	米澤	11人
10月6日	食事ケア研修・中級	能登	4人
10月13日	食事ケア研修・初級	米澤・森	1人
10月6日	食事ケア研修・中級	能登	3人
10月20日	感染対策研修会	藤川	11人
12月8日	排泄ケア研修・初級	林崎	1人
12月15日	排泄ケア研修・中級	室橋	9人
令和5年 1月19日	トランスファー研修	大矢・大河原	5人
1月26日	トランスファー研修	大矢・大河原	2人
2月9日	認知症研修Ⅰ・初級	佐々木	1人

2月9日	認知症研修Ⅰ・中級	谷・松原	6人
令和5年 2月16日	認知症研修Ⅰ・中級	谷・松原	4人
3月9日	医療研修・初級	藤川	1人
3月9日	医療研修・中級	谷水	7人
3月16日	医療研修・中級	谷水	2人

(5) 外部研修参加状況

開催日	内容	参加者
令和4年 4月23・24日	先端ケア研究会（オンライン）	米澤
8月23日	全道老人福祉施設研究大会	米澤・深瀬
令和5年 1月26・27日	全国老人福祉施設大会・研究会議	米澤・上野

(6) ヘルパー会議開催状況

開催日	内容	参加者
令和4年 4月20日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和4年度活動計画、事業計画について）②ケースカンファレンス③事故報告（0件）④ご家族からの要望（1件）苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
5月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（システム活用について、エプロン、スリッパの支給について）②ケースカンファレンス③事故報告（1）④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
6月23日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会延期について、研修について）業務改善（ほのぼのシステムの使用法に関して確認）②ケースカンファレンス③事故報告（0件）④ご本人からの要望・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
7月21日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会の内容について）業務改善（救急救命研修について）②ケースカンファレンス③事故報告（0件）④ご本人からの要望・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
8月25日	① 業績報告・活動報告進捗状況（ご長寿のお祝いについて）業務改善（システムでの記録とモニタリングについて、苦情の対応について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（1	10名

	件)・苦情⑤その他(今月の目標・先月の評価)	
9月22日	①業績報告・活動報告進捗状況(ご長寿のお祝いの報告について、パソコンの使用に関して)業務改善(ヘルパー車の清掃期日について)②ケースカンファレンス③事故報告(0件)④ご本人からの要望(1件)・苦情⑤その他(今月の目標・先月の評価)	10名
10月20日	①業績報告・活動報告進捗状況(感染対策と対応について、事業の縮小について)業務改善②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望(2件)・苦情⑤その他(今月の目標・先月の評価)	11名
11月24日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善(支援内容の確認について、ラインワークスの通知、期日の周知について)②ケースカンファレンス③事故報告(1件)④ご本人からの要望(1件)・苦情(1件)⑤その他(今月の目標・先月の評価)	11名
12月23日	①業績報告・活動報告進捗状況(満足度調査について)・業務改善(ベッド上での体位移動について)②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望(0件)・苦情⑤その他(今月の目標・先月の評価)	11名
令和5年 1月20日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善(モップ使用についての統一と確認)②ケースカンファレンス③事故報告(1件)④ご本人からの要望(1件)・苦情⑤その他(今月の目標・先月の評価)	10名
2月24日	①業績報告・活動報告進捗状況(全国老人福祉施設大会・研究会の報告)業務改善(利用者宅での物品の取り扱い、確認に関して)②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望・苦情(1件)⑤その他(今月の目標・先月の評価)	11名
3月23日	①業績報告・活動報告進捗状況・業務改善(4月からの人員について、当事者主体・利用者本位を考えた自身の言動について)②ケースカンファレンス③事故報告(1件)④ご本人からの要望1件・苦情⑤その他(今月の目標・先月の評価)	10名

(7) 事故発生状況

	令和2年度	令和3年	令和4年度
私物破損	4件	3件	4件
訪問忘れ	1件	0件	0件
苦情	2件	2件	3件
救急搬送	0件	0件	0件
車両関係	4件	3件	2件

転倒など	2件	1件	0件
誤投薬	0件	0件	0件
死亡発見	1件	0件	0件
合計	14件	9件	9件

(8) 令和3年度私物破損・事故内容

発生日	内容	原因	対策
令和4年 11月16日	フローリング用モップ使用時劣化しており破損	使用前の確認不足	使用前に不具合がないか確認する。
11月29日	トイレ掃除用の隙間ブラシの柄の部分が折れる	力を入れた際に負荷が掛かり折れた。	力の加減をする。負荷の少ない持ち方をする。
令和5年 2月13日	シャワーヘッド目詰まりし、部品外し洗浄するが元に戻らなくなった。	部品を外し洗浄することは、支援の範疇を超しており、すべきことではなかった。	ご家族、または業者に見ていただくことを説明する。
3月11日	浴室扉の固定金具が外れた。	自然と緩み外れた。 (ヘルパーは扉の開閉をしていなかった)	清掃時に不具合がないか確認し、その場でご本人にも確認していただく。

(9) 令和4年度苦情内容

発生日	内容	原因	改善状況
令和4年 7月15日	母の言葉に対しきつい言葉で返していた。会議で情報共有し再発防止に努めてほしい。	感染対策のため、マスク、フェイスシールドの着用により言葉が伝わりにくく、大きな声で話したことが、きつく伝わった可能性が考えられる。	表情が見えないため、より声のトーンや大きさ、言葉遣いに注意し接する。
12月3日	鞆が見当たらず、箱の中に隠されていた。	整理整頓が行き届かず、物の置き場所が不明瞭のため共有されていなかった。	物を動かす際には、ご本人の了解を得てから行う。
令和5年 2月23日	洗おうと思っていた下着が捨てられた。	ご本人に確認を取らずに廃棄してしまった。	不要と思われるものでも、利用者の確認と承諾を必ず得る。

(10) 訪問内容別活動時間

(単位 件数)

訪問内容	令和3年度月平均時間	令和4年度月平均時間
身体介護	328.1	179.2
生活援助	52.9	40.76
複合介護	204.8	1,228
介護予防訪問介護(独自Ⅰ)	117.9	144.1
介護予防訪問介護(独自Ⅱ)	134.5	117.5
介護予防訪問介護(独自Ⅲ)	45	22.2
私的契約	20.8	8.41

令和4年度 部門(作業所)別活動計画

部員(卒業生)名 藤村明(ヘルパー)・木村マユ(ヘルパー)・山崎あづさ(ヘルパー)

事業計画 の重点	取組内容	取組内容	目標												最終 評価	詳細内容
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	1 (1)	①作業のスキルアップを図り、経路・ニーズを的確に把握し、質の高いサービスを提供する。 ②利用者のニーズを把握し、適切な支援を行う。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	従来のプランを見直し、利用者の自立支援を具体的に盛り込んだプランを編成し作成する。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A
2	2 (1)	①ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ②ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A
3	3 (2)	①ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ②ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A
4	4 (2)	①ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ②ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A
5	5 (3)	①ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ②ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A
6	6 (3)	①ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ②ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A
7	7 (4)	①ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ②ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ③ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。 ④ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。	計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A	ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。ヘルパーのスキルアップを図り、サービスの向上を図る。
			計画 実施	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	B B	A

令和4年度 部門(非業務所)別活動計画

担当(事業所)名 鹿嶋町ヘルパーステーション(鹿嶋市物産・チャレンジ企業が成功A、期待以上の結果B、期待と同等の結果C、アクションが結果不十分D、まったくアクションなし) ※ゴールは定量化し、誰がみる表現とする。

事業計画 の重点 事項	取組む事項	担当 部署	取り組む内容	中間評価												達成目標	最終 評価	詳細内容		
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
8	(3) 職場環境の改善	米澤 上野	①面談や訪問記録をとり、業務入用者候補者の意向や働き方への配慮、精神衛生への向上を図る。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	B	不安や悩みへの対応が不十分なことから、2名が離職へと繋がってしまった。
			②専任・事業所内の整理整備を行い、業務効率をアップさせる。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用
9	(4) 社内業務の効率化・標準化・効率化	伊藤 米澤	①業務管理の責任・手順を明確にし、月末業務の効率を上げ、課題をクリアにする。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	B	請求手順が定まり、不慣れから請求ミスが多かった。他、事務所での連絡が上手くできるよう請求ミス・繋がらなくなった。
			②ヘルパーステーションの管理・業務のマニュアル化(化)を行うことにより、効率的に統一した業務が行えるようにする。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用
10	(4) 社内業務の標準化・効率化・効率化	伊藤 米澤	③通帳記録の訂正・取入・取戻しを速く行えるようにする。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	A	全員が通帳アプリの活用により、作業記録を入力することができるようになり、業務の効率化を図れた。
			④人員数(人)・SEI・SEI)新規利用者の5人、SEI・SEI)目標(一部訪問回数)200回・900回を目標に掲げ毎月実績報告を行い、その都度達成率の向上を図る。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用
11	(6) 適正利益の確保	米澤 伊藤	⑤削減経費(住宅費)削減活動を行い、削減目標を達成させる。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	D	人員不足から新規利用者の受け入れが困難となり、事業収益を確保することが出来ず、赤字状態であった。
			⑥目標達成率(95%)・SEI)新規利用者の5人、SEI・SEI)目標(一部訪問回数)200回・900回を目標に掲げ毎月実績報告を行い、その都度達成率の向上を図る。	計画 実施	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用	面談	訪問記録の活用

令和4年度 総合事業（一般介護予防事業）事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和4年度は「地域介護予防活動支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に取り組んだ。フィットネス倶楽部コレカラ（以下、コレカラ）の実利用者数は157名（前年比104%）、延べ利用者数は6,600名（前年比141%）であった。

1) 新型コロナウイルス感染症感染対策

昨年度より引き続き、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、体温測定や体調の聞き取り、サーキットマシン間やレッドコード教室でのアクリルパーテーションを設置、利用者によるマシン消毒、1時間ごとの換気・消毒、待機場所の設置を実施した。10月よりレッドコード教室1クラス参加人数を7名から8名に戻して運営した。

なお、理学療法士が自宅待機となり、4月27日、28日、6月15日から23日を臨時休館とした。8月以降は理学療法士が自宅待機になった場合、コレカラサポーター（以下、サポーター）の配置により運営可能となったため、臨時休館せず運営することができた。

2) 地域介護予防活動支援事業

コレカラにおいて介護予防を図ることを目的に、フィットネス機器によるサーキットトレーニングを実施した。令和5年3月末の登録者数は414名（男性110名、女性304名）であり、15名増加し目標登録者数である400名に達した。月間実利用人数は平均76.3名（前年比128%）であり、大きく増加した。この要因として、①コロナ禍において徐々に運動習慣が戻ってきたこと、②感染対策を徹底することで利用者が安心して利用できていること、③感染状況をみながら、無料体験会等のイベントを開催することができたことがあげられる。特に③では、11月と3月に「無料体験会」を開催したことで、新規利用や利用再開につながった。

地域における住民主体の介護予防活動の推進を目的に、鷹栖町オリジナルの介護予防体操「あったかすりハビリ体操」の普及・啓発およびあったかすりハビリ体操指導士（以下、体操指導士）の養成・活動支援を実施した。今年度は2年ぶりに「あったかすりハビリ体操指導士養成講座」を3ヶ月間開催、新たに6名の体操指導士が誕生し、現在の登録者数は42名になった。今年度の体操指導士の活動は、サービス付き高齢者向け住宅たかほ、体操サークルで活動した。また、老人会での体操教室も再開することができた。活動実績として、地域での体操教室を270回（前年比171%）開催し、延べ2163名（前年比166%）の町民へ体操指導を実施した。教室開催数、参加者数ともに大幅に増加した要因として、①コロナ禍において休止することなく体操教室を運営できたこと、②新たな体操教室が立ち上げられたこと、③老人会での体操教室が再開することがあげられる。また、体操指導士の連携強化や指導内容の復習を目的として、復習会（2回）およびミーティング（4回）を開催した。特にミーティングでは、体操を普及していくための方法について話し合いを行い、次年度の事業計画に反映させることができた。また、厚生労働省主催「私のまちの『通いの場』自慢コンテスト」にて、あったかすりハビリ体操教室が優秀賞を受賞し、北海道新聞やメディアあさひかわなどの各種メディアに掲載された。

3) 地域リハビリテーション活動支援事業

新規利用者21名およびレッドコード利用者に対して、体力評価を実施した。測定項目にはフレイル判定が含まれており、フレイル、もしくはフレイル予備軍の利用者を早期から把握することができた。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、各事業所からの相談対応は24件で、昨年度より大幅に増加した。地域包括支援センターや社協、居宅介護支援事業所からの紹介でフィットネス利用へと繋がった新規利用者もおり、今後も連携を継続していきたい。

鷹栖町の「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」の一環として、地域包括支援センターの保健師、保健推進係の保健師・栄養士、理学療法士にてフレイル会議を実施した。ハイリスク者の情報共有や鷹栖町におけるフレイル予防事業について協議することができた。

老人会での体力測定会や健康講話は2団体で実施した。コロナ禍において少しずつ老人会の活動も再開してきているため、今後も老人会における介護予防を推進していきたい。

今年度より在宅医療・介護連携推進にかかる事業を実施した。地域住民への普及啓発として「自分らしい生活を続けるために知っておきたいこと」をテーマに、介護サービスの種類とそれぞれの特徴についての研修会を2回開催した。参加者は延べ20名であった。また、在宅医療・介護関係者向け研修会として、「在宅医療・介護における薬剤師との連携」についての研修会を開催した。参加者は12名で、訪問看護師、保健師、介護支援専門員など多職種が参加し、在宅医療・介護における薬剤師の役割や服薬の工夫について学ぶとともに、情報交換をすることができた。

4) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室は、上半期、下半期ともに9クラス72名が参加した。1回平均利用者数は平均6.3名（前年比105%）と昨年度より微増となった。これは、感染対策として1クラス参加者を7名として運営していたものを下半期より8名に戻したことが影響していた。

サポーター活動は7月より再開、8月には養成講座を開催し、新たに7名のサポーターを養成した。月間活動実人数は平均9.6名（前年比213%）、月間延べ活動時間は平均15.0時間（前年比213%）と大幅に増加した。さらに8月以降は理学療法士が自宅待機や出張の際、コレカラサポーターの配置によりサーキットトレーニングが運営可能となった。

フレイルに関する講習会を5回開催した。フレイルの概要や予防方法、社会参加の重要性について講演し、改めて高齢者の中で「フレイル」という言葉の認知度が向上してきているのを感じた。今後もフレイル予防の啓発に取り組んでいきたい。

コレカラ利用時だけでなく、日常的に運動を習慣化することを目的に、公式LINEを用いた「毎日運動プロジェクト」を実施した。これは、公式ラインにて運動プログラムを毎日配信し、参加者はその日送られてきたプログラムを実施し、終了したらラインにてメッセージ返信するという、双方向コミュニケーション形式の取り組みである。公式LINE登録者118名中43名が参加（参加率36%、前年比205%）し、そのうち35名が期間中継続して運動することができた（達成率81%）。参加者からも大変好評であり、普段コレカラを利用できない方の運動の習慣化にも寄与できた。今後も継続して実施していきたい。

5) 法人自主事業

あったかす健康手帳は7名の方が継続利用し、血圧や体温、体重などの日々の健康面の変化を自分自身で把握することで、健康管理に役立てることができた。コレカラ公式ライン登録者は125名となった（前年比147%）。コレカラ大掃除は春・冬の2回開催し、延べ34名の利用者が参加した。

6) その他

第73回北海道理学療法士学会学術大会にて「コロナ禍におけるLINE公式アカウントを活用した介護予防事業の実行可能性」と題し、緊急事態宣言中に実施したLINEでの運動習慣化を図る取り組みの満足度について発表した。同内容はコロナ禍での介護予防の新たな形として高く評価され、北海道医療新聞に掲載された。また、シンポジウム「若手PT必見！私が地域に出た理由～まちづくりに関わる理学療法士の仕事～」に演者として参加し、住民主体の介護予防事業について講演した。

第9回日本予防理学療法学会学術大会にて「コロナ禍におけるLINE公式アカウントを活用した介護予防事業の有効性」と題し、緊急事態宣言中に実施したLINEでの運動習慣化を図る取り組みによる身体機能の変化について発表した。

第9回日本地域理学療法学会学術大会にて「デイサービスにおける医療介護連携の実態調査～理学療法士の立場から～」と題し、今まで理学療法士が行ってきた医療介護連携の件数や内容について発表した。

リハビリテーション・ケア合同研究大会2022では、シンポジウム「北海道におけるシルバーリハビリ体操指導の状況」に演者として参加し、鷹栖町の体操指導士活動の現況について講演した。

2. 展望（次年度に向けて）

令和5年度は「地域介護予防支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に加え、「在宅医療・介護連携推進事業」に対する取り組みを実施する。

1) 地域介護予防活動支援事業

コレカラでのサーキットトレーニングの運動指導を継続し、登録者、実利用者数の増加を図るための啓発活動や環境整備を進める。特に利用停止した方に対して、利用再開につながるよう、連絡やイベントの開催、広報活動をしていく。あったかすりハビリ体操では養成講座を開講し、新しい体操指導士養成を継続するとともに、既存の指導士のフォローアップとして定期的なミーティングや復習会、他地域との交流を実施する。また、住民主体の通いの場立ち上げのために、行政、社協と協力のもと、サークルや老人会での体操教室の開催を促進し、体操指導士によるあったかすりハビリ体操を通じた介護予防活動を推進していく。

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

コレカラ利用者への身体機能評価を継続して行い、評価結果をもとに、その方の持つ病気やケガ、身体機能に合わせた運動内容の指導を行う。体力評価にてハイリスクと判定された方の情報をフレイル会議にて地域包括支援センターと共有し、適切なサービスを提供できる体制を構築する。また、地域包括支援センターや居宅介護支援センターからの在宅高齢者に関する相談に対して、身体機能や生活環境の評価や助言を実施する。老人会ではフレイル高齢者が多くみられるおり、フレイル対策を重点的に実施していく必要がある。そのため、理学療法士が出向き、体力測定や健康講話、健康相談を実施し、幅広い高齢者に対するフレイル対策を推進する。高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向けて、町の特健診において身体機能評価やフレイルチェックを実施し、ハイリスク者に対して介護予防事業への参加を促す。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室での運動指導を継続する。サポーターの活動を継続するとともに、復習会を開催しサポーターの活動への意欲を高める。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向け、鷹栖町の保健師や栄養士と協力し、フレイル予防のための講習会を開催する。今年度好評であった公式ラインを活用した「毎日運動プロジェクト」を実施し、利用者の運動習慣化を図る。

4) 在宅医療・介護連携推進事業

鷹栖町の在宅医療・介護の連携を推進するために、関係者向けの研修会や情報交換の場を設ける。また、住民に在宅医療・介護に関して情報を提供し、啓蒙するために住民向け研修会を開催する。

5) 法人自主事業

ヘルスリテラシーの向上により、自身の健康について主体的に考え、自己管理できる住民が増えるように、ヘルスリテラシー講座と健康手帳の配布を実施する。また、ボランティア交流会やボランティアによる大掃除も感染状況をみながら実施していく。コレカラ公式 LINE アカウントの運用を継続し、コレカラ利用者に臨時休館の情報や健康に関する情報を速やかに発信する。

6) その他

各事業の効果検証作業として、学術大会での演題発表を継続する。また、行政や社協と協力し、住民ボランティア同士が交流できる場を設け、「自助・互助・共助・公助」の循環が円滑に行えるよう全事業を推進する。

最後に、新型コロナウイルス感染症も徐々に収束し、少しずつ感染拡大前の生活に戻りつつある。約3年間のコロナ禍において、社会活動自粛が生活不活発病やフレイルに影響を及ぼすこと、コレカラでの運動や利用者同士の交流がフレイル予防や改善に効果的であることを再認識することができた。今後もフレイル予防に取り組む上で、運動だけでなく人や社会との交流を持つことの重要性を住民に周知し、コレカラが楽しく運動できる場所であるだけでなく、「利用者同士が交流できる通いの場」としての機能を取り戻せるよう取り組んでいきたい。

3. 業績報告

1) 地域介護予防活動支援事業

(1) サーキットトレーニング

① 登録者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	108	108	108	109	109	109	110	110	110	110	110	110
女性	291	293	292	292	292	292	293	296	297	301	303	306
計	399	400	400	401	401	401	403	406	407	411	413	414

② 実利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
男性	12	11	13	12	13	15	14	19	18	15	15	16	14.4	104%
女性	62	62	52	52	43	51	55	77	67	74	75	72	61.8	134%
計	74	73	65	64	56	66	69	96	85	89	90	88	76.3	128%

(2) あったかすりハビリ体操指導士

① 指導士活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者 (名)	36	36	36	36	36	36	36	36	42	42	42	42		
実人数 (名)	14	13	15	11	11	12	12	10	13	18	13	15	13.1	132%
延べ 活動時間 (時間)	65	59	64	48	42	50	53	42	52	56	69	55	54.6	157%

② 地域での体操教室実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
教室数 (回)	24	19	24	18	17	20	21	23	21	20	32	31	270	171%
参加者数 (名)	206	141	187	131	129	147	140	200	172	176	263	271	2163	166%

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

(1) 体力評価

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	4	3	1	1	0	0	1	5	0	0	0	0
女性	18	46	2	0	0	0	5	55	3	5	2	3
計	22	49	3	1	0	0	6	60	3	5	2	3

(2) 関係者から理学療法士への相談対応

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	1	1	1	1	1	2	0	1	7	4	0	3

3) 介護予防普及啓発支援事業

(1) レッドコード教室

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者数	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72		
実人数	71	72	69	72	70	72	71	69	68	71	67	67	69.9	113%
1回平均 利用者数	6.8	6.5	6.4	6.0	5.5	6.4	6.0	6.3	6.3	6.4	6.5	6.9	6.3	105%

※ 上半期・下半期ともに9クラス

※ 上半期：1クラス7名で運営 下半期：1クラス8名で運営

(2) コレカラサポーター

① サポーター活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者 (名)	33	33	33	33	33	33	33	33	40	40	40	40		
実人数 (名)	0	0	0	2	9	0	7	7	17	12	12	11	9.6	213%
延べ 活動時間 (時間)	0	0	0	2	22	0	12	20	23	13	15	13	15.0	200%

4) 自主事業

(1) 公式LINE登録者

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	前年比
登録者数	85	96	99	101	102	102	103	115	120	121	123	125	147%

4 イベント・視察等

実施日	イベント名	概要
4月6日	15町内会体操教室での健康講話	・8名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
4月19日	第72回総合事業会議	・実績報告 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について
4月26日	第1回体操指導士ミーティング	・体操指導士8名、田中係長参加 ・今年度の活動について
4月27日～4月28日	コレカラ臨時休館	・コレカラ職員の家族が新型コロナウイルス感染症濃厚接触者と判定されたため、左記期間コレカラを臨時休館
5月18日	春のコレカラ大掃除	・利用者17名参加
5月24日	第73回総合事業会議	・実績報告 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休館について
5月25日	ななかまど大学体操教室活動支援	・体操指導士4名参加 ・5月より新たに体操教室開始
5月31日	第1回体操指導士復習会	・体操指導士9名参加 ・体操復習
6月15日～6月23日	コレカラ臨時休館	・コレカラ職員が新型コロナウイルス感染症濃厚接触者と判定されたため、左記期間コレカラを臨時休館

実施日	イベント名	概要
6月25日～26日	第73回北海道理学療法士学会 (旭川市)	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍におけるLINE公式アカウントを活用した介護予防事業の実行可能性」について口述発表 ・シンポジウム「若手PT必見！私が地域に出た理由～まちづくりに関わる理学療法士の仕事～」に演者として参加
6月29日	ななかまど大学体操教室活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士4名参加 ・今後の進め方について打ち合わせ
	ひざに優しい体操教室打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士1名参加 ・進め方、参加者への周知について
7月1日	総合事業臨時会議	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休館の要件緩和について
7月6日	第74回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・学会での発表報告 ・臨時休館の要件緩和について ・ワクチン接種会場でのフレイル予防動画放映について
7月13日	ひざに優しい体操教室打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士2名参加 ・進め方、参加者への周知について
7月23日	コレカラ視察	<ul style="list-style-type: none"> ・一条通病院リハビリスタッフ4名参加
7月14日	15町内会体操教室活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士1名、教室参加者7名
7月26日	第75回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラサポーターの活動再開について ・レッドコード申込みについて ・フレイル予防動画最終確認
7月27日	ひざに優しい体操教室打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士2名参加 ・体操内容について
8月17日	コレカラサポーター打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・7名参加 ・サポーター活動の概要説明 ・マシンの説明方法 ・消毒の方法
8月19日	ひざに優しい体操教室打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士2名参加 ・体操内容について
8月24日	北海道医療大学臨床実習Ⅴ説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインにて実施 ・実習概要や進め方、感染拡大による実習中止や代替処置について
8月30日	第76回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・レッドコード申込みについて ・体操指導士養成講座について

実施日	イベント名	概要
9月5日～16日	北海道医療大学臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学科4年生1名 ・前半1週間：デイサービス ・後半1週間：コレカラ
9月12日	コレカラ視察	<ul style="list-style-type: none"> ・京都光華女子大学教授他4名参加
9月13日	令和4年度下半期レッドコード教室抽選会	<ul style="list-style-type: none"> ・9クラス78名申込み
9月27日	第77回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・レッドコード教室申込みについて ・住宅改修、福祉用具に関するPT訪問 ・リハ体操指導士養成講座について
9月30日、10月1日	リハビリテーション・ケア合同研究大会（苫小牧市）	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「北海道におけるシルバーリハビリ体操指導の状況」に演者として参加
10月3日	あさひかわ体操指導士2級養成講習会見学	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市東地区体育センター ・あったかすりハビリ体操指導士4名が参加中
10月3日	令和4年度下半期レッドコード教室開始	<ul style="list-style-type: none"> ・10～3月開催 ・9クラス72名が参加
10月5日	令和4年度あったかすりハビリ体操指導士養成講座開始	<ul style="list-style-type: none"> ・10～12月開催 ・7名が参加
10月10日	私のまちの『通いの場』自慢コンテスト表彰式（東京）	<ul style="list-style-type: none"> ・「部門1 ご当地体操&地域の魅力発信動画コンテスト」にてあったかすりハビリ体操教室が優秀賞を受賞
10月13日	コレカラ職場見学	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹栖中学1年生が参加
10月20日	第78回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・無料体験会開催について ・来年度の事業計画について
10月31日	あさひかわ体操指導士2級養成講習会見学	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市東地区体育センター ・あったかすりハビリ体操指導士4名が参加中
11月7日	令和5年度総合事業策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者：大矢、大河原 ・今年度の振り返りと次年度の事業案
11月14日	コレカラ視察	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知たいようの杜4名参加 ・コレカラ、北野サロン体操教室見学
11月16日	女性サロンコレカラ体験会	<ul style="list-style-type: none"> ・女性サロン13名参加 ・レッドコード、サーキット、健康講話
11月18日	北成老人会での健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・15名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
11月19日～20日	第9回日本予防理学療法学会学術大会	<ul style="list-style-type: none"> ・web学会 ・「コロナ禍におけるLINE公式アカウントを活用した介護予防事業の有効性」について口述発表

実施日	イベント名	概要
11月24日	無料体験会	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ76名参加 ・サーキット、オレンジテスト、健康講話 ・ひざ痛講演（講師：手代木理学療法士） ・フレイル講演（講師：大河原）
11月29日	第79回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラバス利用者について ・三地区での通いの場立ち上げについて ・来年度の事業計画について
11月30日	15町内会体操教室活動支援	・体操指導士1名参加
	ななかまど大学体操教室活動支援	・体操指導士2名参加
12月6日	冬のコレカラ大掃除	・利用者17名参加
	コレカラサポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・15名参加（新規7名、再開5名、既存3名） ・サポーター活動の概要説明 ・マシンの説明や消毒の方法
	第1回在宅医療・介護連携推進 住民向け研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・15名参加 ・「自分らしい生活を続けるために知っておきたいこと」について講演
12月21日	第2回在宅医療・介護連携推進 住民向け研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・7名参加 ・「自分らしい生活を続けるために知っておきたいこと」について講演
	第2回体操指導士ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士7名参加 ・活動報告 ・来年度の事業について
12月23日	第80回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・在宅医療・介護連携推進事業 医療・介護職向け研修会について ・三地区での通いの場立ち上げについて
12月28日～1月3日	年末年始休館	
1月23日	第81回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・在宅医療・介護連携推進事業 医療・介護職向け研修会について ・レッドコード教室申込について
1月24日	第2回体操指導士復習会	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士10名 ・体操の復習
1月25日	高齢者住宅R1体操教室活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士6名、教室参加者7名 ・体操の内容、今後の進め方について
1月26日	婦人ボランティアでの健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・10名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演

実施日	イベント名	概要
2月8日	「楽しくはたらく×健康講座」（鷹栖町社会福祉協議会主催）での講演	<ul style="list-style-type: none"> ・20名参加 ・「つながりのススメ～つながることで健康に！～」について講演
	第1回グランドデザイン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹栖町の地域包括ケアシステムのグランドデザインを作成 ・健康長寿係長、地域包括保健師、保健推進係保健師、第1層・2層生活支援コーディネーター、理学療法士が参加
2月17日	第3回体操指導士ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・7名参加 ・活動報告 ・体操指導士活動の継続および周知方法に関するグループワーク
2月21日	第82回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・在宅医療・介護連携推進事業 医療・介護職向け研修会について ・レッドコード申込について ・コレカラ無料体験会について ・感染対策について
	在宅医療・介護連携推進事業 医療介護職向け研修会（会場とWeb配信のハイブリッド形式）	<ul style="list-style-type: none"> ・講師 井上雄介氏（ココカラファインヘルスケア調剤事業部 統括薬局長） ・テーマ「在宅医療・介護における薬剤師との連携」 ・12名参加
2月22日	令和5年度さつき会事業計画ヒアリング（総合事業）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、予算案
2月28日	第1回フレイル会議	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について検討 ・保健推進係保健師、栄養士、地域包括保健師、理学療法士が参加
3月10日	第2回フレイル会議	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹栖町の特定健診結果の共有 ・来年度のフレイル予防に関する事業について意見交換
3月13日	令和5年度上半期レッドコード教室抽選会	<ul style="list-style-type: none"> ・9クラス81名申込み
3月15日	介護に関する入門的研修講師	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹栖高校1年生 ・フレイル、起居動作の介助方法について
3月22日	第83回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・シニアヨガ教室開催について ・感染対策について ・来年度の事業計画

実施日	イベント名	概要
3月22日	第2回グランドデザイン会議	・各々の担当事業の共有、整理
3月23日	無料体験会	・延べ39名参加 ・サーキット、シニアヨガ教室、健康講話 ・認知症講演（講師：能登主任）
3月1日～21日	公式LINEでの毎日運動プロジェクト	・公式LINEにて3週間毎日運動プログラムを配信し、運動実施できたらメッセージを返信 43名参加、達成者35名（達成率81%）
3月31日	第4回体操指導士ミーティング	・6名参加 ・活動報告 ・体操指導士活動の継続および周知方法に関する情報交換

地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業

介護予防普及啓発支援事業・法人自主事業

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待とほぼ同様の結果 C:取組んだ D:余りアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	部門 事業所名	取組む事項	実施担当者	計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容						
1	(1)	地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業	① 介護予防普及啓発支援事業・法人自主事業	① 介護指導士による住民主体のあつたかりリハビリ指導を毎月1回実施する	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	B	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	指導団体 10団体/月	A	半分以上の月で目標達成、2、3月は本欄に目標を上回った。					
				② 住民主体の通いの場の活動支援(2月に1回)	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	B	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。			
				③ 介護指導士のための定期的なミーティング(年2回)や練習会(月1回)を開催	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	B	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
				④ あつたかりリハビリ体験指導士の活動支援	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	B	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
				⑤ あつたかりリハビリ体験指導士の育成	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	C	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
				⑥ あつたかりリハビリ体験指導士の運営	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。
				⑦ サークルトレーニングの開催	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	B	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
				⑧ 利用促進のためのイベント開催	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	B	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
				⑨ 地域利用者への広報活動	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
				⑩ 広報利用者への取組む報告	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
				⑪ 地域介護予防活動支援事業	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
				2	(2)	地域介護予防活動支援事業	① 身体機能評価の実施	① 身体機能評価の実施	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	B
② 介護支援センターからの相談対応	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
③ フレイル会議の開催	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	B	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
④ 老人会における介護予防活動	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	B	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
⑤ 町の特定健診での身体機能評価	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	C	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
⑥ 学会発表	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	D	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
⑦ 町内特定健診における身体機能評価	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	C	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
⑧ 介護支援センターからの相談対応	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	D	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
⑨ 日本予防理学療法学会・日本地域理学療法学会での成果発表	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
⑩ 月業利用人数2名を目標に、レットコード教室での運動指導を行う	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
⑪ 日車人教を目標に、コリアケアセンターの活動再開、練習会の実施	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
⑫ フレイルに関する啓発	大河原 大矢	計画	実施					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	
3	(3)	地域介護予防活動支援事業	① 介護支援センターからの相談対応	① 介護支援センターからの相談対応	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。			
				② コレラケアセンターの活動再開	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
				③ フレイルに関する啓発	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	S	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
				④ 日車運動プロジェクトの実施	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	A	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
				⑤ 介護支援センターからの相談対応	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	D	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。		
				⑥ フレイルに関する啓発	大河原 大矢	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	C	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	実施人数 10団体	D	定期的に活動支援実施、通いの場の確保に目標を上回った。	

地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:取組んだ D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	部門・事業所名 重点目標 との運動	取組み事項	実施担当者	計画 実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価						ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容		
		(介護予防普及啓発支援事業)	大河原 大矢	計画 実施																1回のみ実施、目標を上回る参加 人数であった。	
		⑥ フレイムに関する情報を月1回公式LINEにて配 信	大河原 大矢	計画 実施																	ほぼ毎月フレイムに関する情報を 発信することができた。
		① 月専人数60名を目標に、レッグコート教室にて ヘルニア予防講座の実施	大河原 大矢	計画 実施																	未実施
4	(4)	① 介護予防に関する基本的な知識の普及 啓発 ② 地域に関する自己管理の推進 ③ 互助活動の推進 ④ 公式LINEアカウントの運用 ⑤ 開校5周年記念品の作成 (法人自主事業)	大河原 大矢	計画 実施																	目標をやや下回る参加人数であっ た。
		③ ボランティア交流会(目標6名)やオンライン の配布および利用促進する	大河原 大矢	計画 実施																	目標を上回る参加人数であった。
		④ 登録者100名を目標に、コレクションの公式LINE アカウント運用する	大河原 大矢	計画 実施																	目標を上回る参加人数であった。目標達成 は年一回開催、目標達成の参加人数であった。交流会、ろう そくは未実施。
		⑤ 開校5周年記念品を作成し、100名の利用者へ 感謝の気持ちを伝える	大河原 大矢	計画 実施																	毎月少しずつ新規登録者増加し、 目標を上回る上回った。
			大河原 大矢	計画 実施																	未実施

令和4年度 法人本部（給食部門）事業報告

1. 総括

令和4年度は『身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供』『衛生管理の徹底と災害対策』『食を通じた住みよい町づくりへの貢献』『多職種との連携機能の強化』『予算に合わせた食事の提供』の5つを重点目標とし取り組んだ。

『身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供』としては、特養えんにて、低栄養状態のリスクが高い入所者に対し「ミールラウンド」を実施し栄養状態や嗜好を踏まえた食事の調整をおこない、低栄養者の体調の改善ができるように取り組んだ。なごみの家（SH/GH）と小規模えんでは「口腔・栄養スクリーニング」を6ヶ月に1回実施し、「体重の減少」や「食事量の低下」の変化の情報を共有し改善へ向けて取り組むことができた。また「ほのぼの」の導入により、入居者の詳細な記録や申し送りなどを確認することで情報共有がより円滑となった。食事面では、嗜好調査や日々の利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の嗜好に沿った食事の提供に努め、満足感とQOLの向上に繋がるよう取り組んだが、満足していただけるような食事の提供とはならなかった。今年度、嗜好調査でいただいた意見を参考に改善点を見直し、入居者様が楽しみにしていただけるような食事の提供に努める。

『衛生管理の徹底』では厨房内の点検、食中毒予防研修の実施、調理員との定期的な情報交換の実施により、安全で安心な食事提供を心がけ食中毒を起こすことなく提供することができた。また入居系事業所対象に非常災害時の食材備蓄の準備と管理を実施できたが、調理スタッフへの災害時の対応方法についての伝達ができなかったため、次年度に向けて取り組む。

『食を通じた住みよい町づくりへの貢献』では、介護予防の取り組みでは、コロナ感染拡大防止の観点から、予定していた「健康料理教室」「地域食堂」ともに開催ができなかったが、感染が縮小してきた2月に、予約不要の「塩分体験会」を実施し30名程の方に参加していただいた。今年度12月より、地域の在宅高齢者の低栄養の予防・改善へのサポート体制として、ぬくもりの家たかほにて「1日5食限定」で配食弁当の提供を開始し、月平均14食の弁当を提供することができた。

『多職種との連携機能の強化』では、各事業所の会議への参加や、各担当者との打ち合わせによって情報を共有することができ、食事量の低下が見られる方へ迅速に対応することができた。

『予算に合わせた食事の提供』では、価格高騰化を考慮し、献立の変更や在庫の管理に努めたが、「給食食材費」については予算内に納めることができなかった。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度は、次の3点を重点として事業に取り組む。

まず1つめは、月1回の「地域食堂」と2ヶ月に1回の「健康料理教室」の再開と実施。

2つめに、在宅高齢者の低栄養の予防・改善へのサポートとして「ぬくもりの家たかほ」にて1日5食→7食限定へ変更し弁当の提供と改善に取り組んでいく。

3つめに、今年度実施できなかった、災害が発生したときに混乱なく食事の提供ができるよう現場用のマニュアルを作成し、調理スタッフへ周知できるように取り組んでいく。

3. 運営状況・統計資料

令和4年度 手作りおやつ・手作り昼食などの利用者とのレクリエーションは、コロナ感染リスクを考慮し中止とした。

4. 祝祭日の祝膳 年間実施回数

特養えん 行事食	小規模えん 行事食	なごみGH 行事食	なごみSH 行事食	たかほ 行事食
41回	41回	38回	38回	38回

5. 健康料理教室（地域における公益的な活動）

コロナの感染リスクを考慮し令和4年度の健康料理教室は中止としたが、感染が縮小した2月に予約不要の「塩分体験会」を実施した。

6. 地域食堂（地域における公益的な活動）

コロナの感染リスクを考慮し令和4年度の地域食堂は中止とした。

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名: 法人本部・給食部門		(評価基準) S: 計画以上の結果が達成 A: 期待以上の結果 C: アクションした計画が結果不十分 D: まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、評価のみを表現とする。																				
事業計画 No.	重要目標 との連関	取組む事項	実施 担当者	計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	達成 評価	コメント	
1	(1)(4)	健康で穏やかな生活を営めるよう、多職種連携し、根拠に基づいたケアを実施することで豊かさを創出していただく。	看護師 栄養士 リーダー	計画 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	栄養ケア マネジメント 口歴栄養 スクリーニ ングの 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	B	ミールワ ンクの 準備 実施	栄養ケア マネジメント 口歴栄養 スクリーニ ングの 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	ミールワ ンクの 準備 実施	多職種連携でミールワ ンクの準備ができた。 多職種の共有ができた。	B	ミールワ ンクの準備が できた。多職 種連携でミール ワ ンクの準備が できた。	
2	(1)(4)	安全で美味しい、身体状況に合わせた食事の提供	己上	計画 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	B	多職種連携し個人にあ った食事提供を急い で実施することができ た。調理員と連携し、献立に 見合った目玉メニュー の提供ができた。 新しいメニューの提供 ができた。	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	多職種連携で個人にあ った食事の提供が できた。調理員と 連携し、献立に見 合った目玉メニュー の提供ができた。 新しいメニューの 提供ができた。	B	多職種連携で個人にあ った食事の提供が できた。調理員と 連携し、献立に見 合った目玉メニュー の提供ができた。 新しいメニューの 提供ができた。	
3	(3)	地域住民との関係づくりと介護予防の取組	己上 鈴木	計画 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	D	コロナの感染リスクを 考慮し、事前に対策 を講じた。地域栄養 講座の実施ができた。 地域住民との関係 づくりができた。	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養 講座の 実施	地域栄養講座を 実施できた。 地域住民との関 係づくりができた。 地域栄養講座の 実施ができた。	C	地域栄養講座を 実施できた。 地域住民との関 係づくりができた。 地域栄養講座の 実施ができた。
4	(2)	給食管理の徹底と栄養改善 給食設備の確認と徹底	己上	計画 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	B	給食設備の定期的な 点検を実施することが できた。調理器具の 点検ができた。 調理器具の点検が できた。	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備 の確認 実施	給食設備の定期的な 点検を実施するこ とができた。調理 器具の点検が できた。調理器具 の点検ができた。	B	給食設備の定期的な 点検を実施するこ とができた。調理 器具の点検が できた。調理器具 の点検ができた。
5	(1)	嗜好を取り入れ、楽しみのある食事の提供	己上	計画 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	B	季節に合わせた旬の食 材を取り入れた食事 の提供ができた。 季節に合わせた旬 の食材を取り入れ た食事の提供が できた。	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	新メニュー の作成 実施	季節に合わせた旬 の食材を取り入れ た食事の提供が できた。季節に 合わせた旬の食 材を取り入れた食 事の提供ができた。 季節に合わせた旬 の食材を取り入れ た食事の提供が できた。	B	季節に合わせた旬 の食材を取り入れ た食事の提供が できた。季節に 合わせた旬の食 材を取り入れた食 事の提供ができた。 季節に合わせた旬 の食材を取り入れ た食事の提供が できた。

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名:法人本部・給食部門

事業計画 №	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者	計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	コメント			
6	(4)	関係職種との連携機能の強化	①ご利用者ごとの容姿・心身・運用して頂ける食事 提供のため、定期的な情報交換に努める。 ②各部署との入所者・給食・給食に関する情報を日常的 に共有し、各部署の会議にて問題点の発見と 改善に努める。 ③たかまほま調理員対象の給食会議を定期的に見直し 実施する。	己上	計画 実施	各会議へ の参加と 問題点の 改善	えん給食 会議 未実施	-	たかま ほま給食 山	-	たかま ほま給食 山	B	毎月、えんの給食会議を 実施し定期的な情報交 換を実施してきた。 たかまほま調理員対象 に、問題点の改善に 努めることができた。	各会議へ の参加と 問題点の 改善	たかま ほま給食 山	-	たかま ほま給食 山	-	-	・定期的に情報交換してきたが、 ・たかまほま調理員対象の給食 会議の毎月への参加により問題点を 確認し改善に向けてのアプローチが できた。 ・たかまほま調理員対象の給食 会議の定期的な実施に努めること ができた。	B	・各部署の会議に参加 し、問題点を確認し、問題 が解決し改善に向けて取 組むことができた。 また、LINEグループを活用 することで、食事形態の変 更や食材・献立の情報な どを関係者とタイムリーに 共有することができた。	
7	(5)	適正な予算管理	～たかまほま調理員対象の給食会議を定期的に見直し 実施する。 ①給食費の予算に合わせた献立の作成 ②無駄のない食材の仕入れの実施 ③食材の在庫管理の実施 ④食材取支表の作成・原簿表の作成の実施	己上	計画 実施	食料取支 表の作成 原簿表の 作成	えん給食 会議 未実施	-	7月へ 変更	たかま ほま給食 山	-	11月へ 変更	C	価格高騰化により食材 費が増加しているため、 食材費が予算より 上がっている。	食料取支 表の作成 原簿表の 作成	たかま ほま給食 山	-	-	-	-	・献立原簿が予算内であったが、 ・食材取支額が年間で予算内であっ たか。	C	価格高騰化を考慮し、献 立の変更や調理員と連携 した在庫管理を実施した が、食材費を予算内に納 めることができなかった。

(評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションした結果不十分 D:まったくないアクションなし ※コメントは定量化し、部がみえる表現とする。